

福岡市早良区

四箇周辺遺跡群
(6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第428集

1995

福岡市教育委員会

福岡市早良区

四箇周辺遺跡群
(6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第428集



次数	調査番号	遺跡略号
四箇遺跡群12次	7813	SIK-12
四箇遺跡群17次	7849	SIK-17
四箇遺跡群19次	8015	SIK-19

1995

福岡市教育委員会

序

早良平野の中央部に流れる室見川の東側には四箇田団地の高層ビルが聳えています。四箇田団地は昭和49年から同52年にかけて埋蔵文化財の発掘調査を行いました。その結果、縄文時代から古墳時代にかけての古代の人々の生活の跡が数多く発見され、関係各方面の注目を集めました。

これらの成果を踏まえ、昭和51年度より周辺部の調査を開始し、国庫補助事業対象事業を行ってきました。

今回報告します四箇周辺遺跡は昭和53年度から同55年度に調査を行った国庫補助事業対象事業の報告です。三ヶ所とも古墳時代の遺構が発見されており、数多く出土した木器・建築材等や水路が検出されていますが、当時の人々の技術の高さを物語っています。

本書が学術研究や学校、社会教育の分野において役立てていただければ幸いです。

調査に際し、土地所有者の方、有益な御助言をいただいた先生方をはじめ参加御協力願った作業員のみなさまに、心より感謝申し上げる次第です。

平成7年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 尾 花 剛

例　　言

1. 本書は四箇周辺地域における宅地造成等の開発事業に先行して埋蔵文化財の調査を国庫補助を受けて昭和53年度、同55年度に実施した四箇周辺地域内緊急調査の報告書である。
2. 事業は福岡市教育委員会文化課埋蔵文化財第二係が行った。発掘調査は塙屋勝利・二宮忠司が担当し、補助員として渡辺和子が加わった。資料整理・報告書は二宮の他調査員の大庭友子が担当した。
3. 本書の執筆は二宮・大庭が行った。
4. 推図は大庭が担当した。遺構写真・遺物写真は二宮が行った。
5. 本書の編集は二宮・大庭が行った。
6. 発掘調査によって出土した遺物や図面・写真等の記録類は収蔵要項に基づき整理し、埋蔵文化財センターに保管・管理する予定である。
7. 四箇周辺遺跡は從来100mグリッドを単位として上からA～Rまで、左から1～25までの範囲を設定し、グリット内の調査順にaから番号を付していたが、混乱を招く事態となつたため次数方式に変更した。今回報告する地点はK-10a 地点が12次調査、J-11d 地点が17次調査、J-11e 地点が19次調査となる。
8. 推図・図版にある9桁の番号は、遺跡調査番号+遺物登録番号を示す。

本文目次

第一章 はじめに	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査の組織と構成	5
第二章 発掘調査の概要	6
第三章 調査の記録	9
第一節 第12次 (K-10a) 調査地点の記録	9
1. 調査概要	9
2. 杭列遺構	11
3. 棚列遺構	12
第二節 第17次 (J-11d) 調査地点の記録	15
1. 調査概要	15
2. 壁状遺構	17
3. 杭列遺構	19
4. 土層	19
第三節 第19次 (J-11e) 調査地点の記録	20
1. 調査概要	20
2. 水路	20
3. 低微高地 (凸地)	22
4. 溝状遺構	22
5. 石組護岸遺構	22
6. 第6壁状遺構	22
7. 杭列遺構	25
8. 土層断面	25
第四章 出土遺物	27
1. 土器	27
2. 石器	27
3. 木器	31
第五章 小結	48

挿 図 目 次

Fig. 1 四箇周辺の遺跡分布図（縮尺 1/25,000）	2
Fig. 2 四箇周辺緊急調査地点位置図（縮尺 1/2,000）	3
Fig. 3 調査地点位置図（縮尺 1/2,000）	6
Fig. 4 調査地点全体図（縮尺 1/400）	7
Fig. 5 四箇遺跡群第12次（K-10a）調査地点土層断面図（縮尺 1/80）	8
Fig. 6 堤状遺構と杭列実測図（縮尺 1/80）	10
Fig. 7 四箇遺跡群第12次（K-10a）調査地点全体図（縮尺 1/75）	10と11間折り込み
Fig. 8 四箇遺跡群第12次（K-10a）調査地点杭列図（縮尺 1/75）	10と11間折り込み
Fig. 9 棚列遺構実測図（縮尺 1/80）	12
Fig. 10 棚列遺構実測図と断面図（縮尺 1/80）	13
Fig. 11 調査地点全体図（縮尺 1/400）	14
Fig. 12 四箇遺跡群第17次（J-11d）調査地点堤状遺構図（縮尺 1/30）	16
Fig. 13 四箇遺跡群第17次（J-11d）調査地点土層断面図（縮尺 1/60）	18
Fig. 14 四箇遺跡群第17次（J-11d）調査地点全体図（縮尺 1/60）	18と19間折り込み
Fig. 15 四箇遺跡群第17次（J-11d）調査地点杭列図（縮尺 1/60）	18と19間折り込み
Fig. 16 四箇遺跡群第19次（J-11e）調査地点杭列図（縮尺 1/75）	20と21間折り込み
Fig. 17 杭列 q 列平面図・断面図、第 6 堤状遺構平面図（縮尺 1/40, 1/50）	21
Fig. 18 第 7 堤状遺構平面図（縮尺 1/40）	23
Fig. 19 四箇遺跡群第19次（J-11e）調査地点土層断面図（縮尺 1/60）	24
Fig. 20 出土土器-1（縮尺 1/3）	26
Fig. 21 出土土器-2（縮尺 1/2, 1/3）	28
Fig. 22 出土石器（縮尺 1/1, 1/2）	29
Fig. 23 出土木器-1（縮尺 1/4）	30
Fig. 24 出土木器-2（縮尺 1/4）	32
Fig. 25 出土木器-3（縮尺 1/4）	33
Fig. 26 出土木器-4（縮尺 1/4）	34
Fig. 27 出土木器-5（縮尺 1/8）	35
Fig. 28 出土木器-6（縮尺 1/8）	37
Fig. 29 出土木器-7（縮尺 1/6, 1/12）	38
Fig. 30 出土木器-8（縮尺 1/8）	39
Fig. 31 出土木器-9（縮尺 1/8）	40
Fig. 32 出土木器-10（縮尺 1/4, 1/8）	41
Fig. 33 出土木器-11（縮尺 1/4, 1/6）	44
Fig. 34 出土木器-12（縮尺 1/6）	45
Fig. 35 出土木器-13（縮尺 1/4）	46
Fig. 36 出土木器-14（縮尺 1/4）	47

図版目次

上段

- PL. 1 第12次調査区全景（西から）
PL. 2 堀状遺構検出状態（北から）
PL. 3 杭列遺構検出状態（北から）
PL. 4 杭列と流木近景（東から）
PL. 5 土層断面と杭列（北から）
PL. 6 木器出土状態
PL. 7 第17次調査区全景（東から）
PL. 8 堀状遺構近景（北から）
PL. 9 堀状遺構検出近景（北から）
PL. 10 南壁土層断面（北から）
PL. 11 堀状遺構と流木（東から）
PL. 12 堀状遺構と横木（東から）
PL. 13 堀状遺構と杭列（南から）
PL. 14 稲穴のある又木
PL. 15 二又鍬検出状態
PL. 16 先端部加工材検出状態
PL. 17 平鍬と稻束出土状態
PL. 18 砂層より出土した土器
PL. 19 第19次調査区全景（西から）
PL. 20 調査区全景（東から）
PL. 21 第6堀状遺構検出近景（南から）
PL. 22 杭列と横木検出状態（南西から）
PL. 23 石組遺構と杭列近景（西から）
PL. 24 石組遺構と流木（南から）
PL. 25 第6堀状遺構全景（北から）
PL. 26 第6堀状遺構の横木と杭列（東から）
PL. 27 第7堀状遺構検出全景（西から）
PL. 28 南壁土層断面（北から）
PL. 29 建築材出土状態（北東から）
PL. 30 出土土器
PL. 32 出土木器-1
PL. 34 出土木器-3
PL. 36 出土木器-5

下段

- 杭列検出状態（北から）
堀状遺構と杭列の検出全景（東から）
堀状遺構近景（東から）
杭列と横木近景（北から）
土層断面（西から）
二又鍬出土状態
第17次調査木器出土状態（西から）
杭列と堀状遺構検出近景（西から）
杭検出状態（南から）
西壁土層断面（東から）
堀状遺構検出状態（南から）
南西隅杭検出状態（東から）
柄穴のある又木
三又鍬検出状態
梯子検出状態
梯子検出状態（完形品）
縦杵出土状態
横木の間にある土器
杭列とA流路全景（南東から）
杭列と第6堀状遺構検出状態（北から）
第6堀状遺構と流水路検出近景（南から）
石組遺構と杭列（南西から）
石組遺構と杭列（南から）
A流路 q列杭列と第6堀状遺構（北西から）
q列杭列遺構全景（南西から）
杭列と横木の組合せ（南から）
第7堀状遺構検出近景（東から）
西壁土層断面（東から）
砂層より出土した土器
PL. 31 出土石器
PL. 33 出土木器-2
PL. 35 出土木器-4

表 目 次

Tab. 1	試掘調査一覧	1・4
Tab. 2	四遺跡群調査一覧	4
Tab. 3	第12調査地点出土杭・木器出土一覧-1	49
Tab. 4	第12調査地点出土杭・木器出土一覧-2	50
Tab. 5	第12調査地点出土杭・木器出土一覧-3	51
Tab. 6	第17調査地点出土杭・木器出土一覧-1	52
Tab. 7	第17調査地点出土杭・木器出土一覧-2	53
Tab. 8	第17調査地点出土杭・木器出土一覧-3	54
Tab. 9	第17調査地点出土杭・木器出土一覧-4	55
Tab. 10	第17調査地点出土杭・木器出土一覧-5	56
Tab. 11	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-1	57
Tab. 12	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-2	58
Tab. 13	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-3	59
Tab. 14	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-4	60
Tab. 15	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-5	61
Tab. 16	第19調査地点出土杭・木器出土一覧-6	62

第一章 はじめに

1. 発掘調査に至る経過

昭和50年度に開始した四箇田団地の建設に伴い四箇周辺地区は急速に宅地化されてきた。これに伴い四箇周辺地区も昭和51年度より国庫補助を受けて緊急調査を開始した。以来7年間に行った調査は、18ヶ所と試掘調査6ヶ所で、それぞれの調査に関する報告は四箇周辺遺跡調査報告書として1~5までを刊行（Tab. 2）してきたが、昭和58年度以降緊急調査がなくなり報告する時期を失なった。

今回報告する機会を得たため、今年度と来年度の二ヶ年で、四箇周辺遺跡の緊急調査分を終了することとした。

今回報告する地点は12次調査地点、17次調査地点、19次調査地点の三ヶ所である。この三ヶ所は17次調査地点をさみ南に12次、北に19次調査地点と隣接する同遺跡であり、遺構も同時期のものである。四箇遺跡（四箇田団地建設に伴う発掘調査、福岡市埋蔵文化財調査報告書第172集）と四箇周辺遺跡の遺構・遺物とは密接な関連を持ち、今回報告の古墳時代遺構は四箇遺跡のC地点（第6次調査）の遺構に流れ込むものであり、広い範囲で考察する必要性がある。これら遺跡群の中に3つの微高地とその間を流れる水路が認められる。微高地上には縄文時代前期（曾畠・轟式土器を主に出土する遺構）、縄文時代後期後半（西平・三万田式土器を主体に出土する遺構）、弥生時代前期末から中期、古墳時代初期にかけての遺構・遺物が、広範囲に広がりを示す。

凹地には弥生時代中期から古墳時代初期にかけての杭列・壙状造構が微高地の裾線に沿ってある。微高地は北から第1微高地（四箇遺跡A地点を含む範囲）中央部の第2微高地（今回報告の12、17、19次調査地点の東側に位置する）、第3微高地は四箇東遺跡群を中心とする範囲であり、その南側はまだ範囲を確認できていない。

このような状況下で第12次地点が、昭和52年度に病院建設の申請が提出され、昭和53年度に発掘調査を行うこととなり、昭和53年5月29日より同年7月5日までの約1ヶ月間、調査面積252m²の発掘調査を実施した。

第17次調査は昭和53年度に専用住宅建設の申請が提出され、同年10月1日から11月12日までの約1ヶ月間、調査面積100m²の発掘調査を実施した。

第19次調査は昭和54年度に専用住宅建設の申請が提出され、昭和55年5月8日から6月15日までの約1ヶ月半、調査面積800m²の発掘調査を実施した。

このほか試掘調査を行い遺構が確認されなかった箇所は下記の表に記した。

Tab. 1 試掘調査一覧

(単位：m²)

地点	試掘面積	対象面積	地点	試掘面積	対象面積	地点	試掘面積	対象面積
J-9a	60	1,125	J-11a	36	165	J-11e	20	600
J-9b	80	743	J-11b	45	150	L-17.8	53.7	1,343
J-10j	17	198	J-11c	96	816	L-11a	18	200
J-11b	20	400	K-11c	13	192	K-11d	10	40

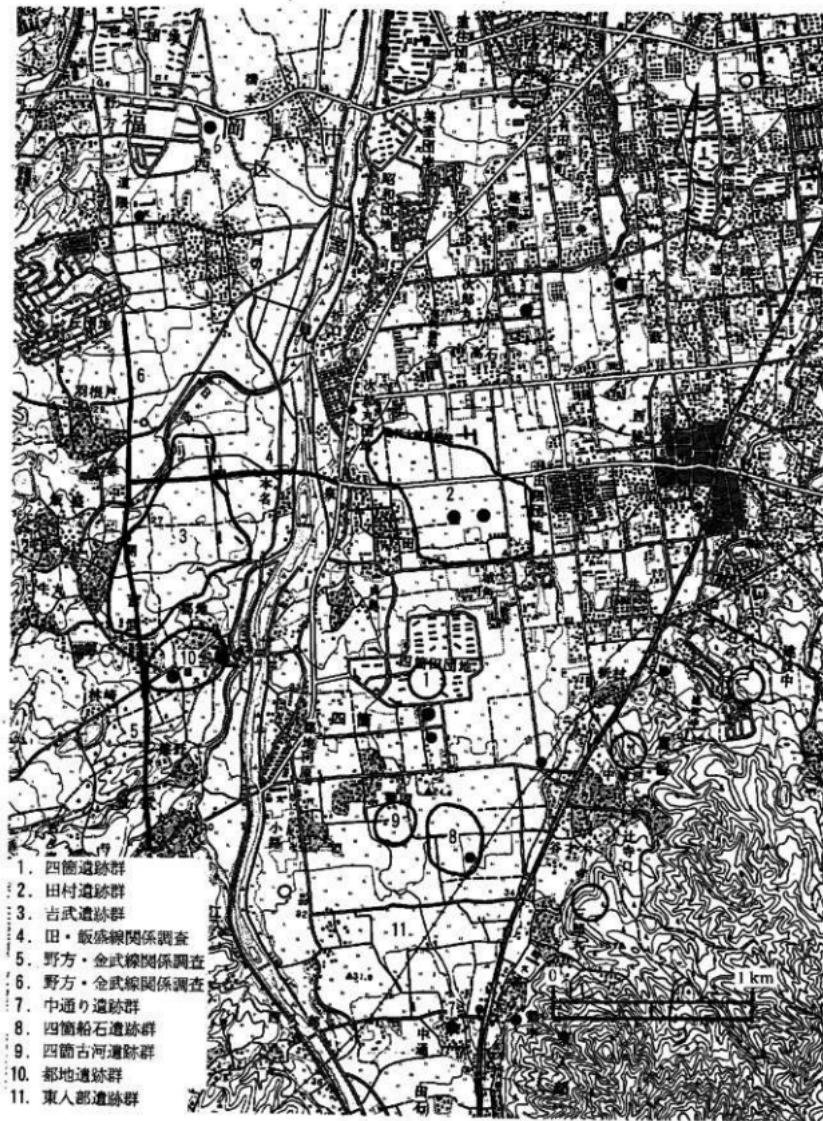


Fig. 1 四箇周辺の遺跡分布図(縮尺1/25,000)

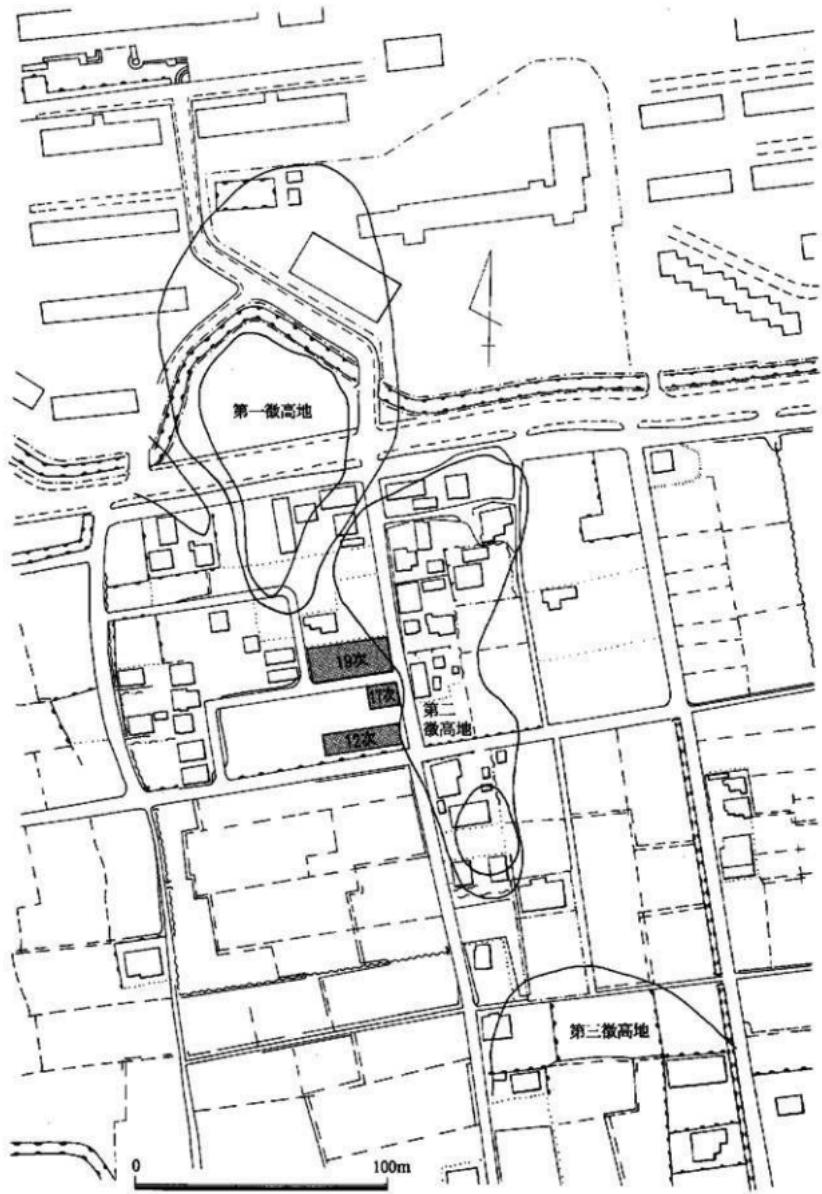


Fig. 2 四箇周辺緊急調査地点位置図(縮尺1/2,000)

Tab.1 試掘調査一覧

(単位: m²)

地点	試掘面積	対象面積	地点	試掘面積	対象面積	地点	試掘面積	対象面積
K-12.3	24	645	J-12a	45	255	J-14	78	1,950
J-13a	70	1,780	J-12b	16	200	G-10	139	3,492

Tab.2 四箇遺跡群調査一覧

(単位: m²)

調査番号	遺跡名	次 数	地 点	所 在 地	調査面積	調査原因	報告書
7411	四箇遺跡群	1	D地点	早良区大字四箇	1,155	公共	172
7516	四箇遺跡群	2	A地点	早良区大字四箇	1,270	公共	172
7517	四箇遺跡群	3	E地点	早良区大字四箇	2,250	公共	172
7518	四箇遺跡群	4	B地点	早良区大字四箇	4,765	公共	172
7614	四箇遺跡群	5	J-10a~g	早良区大字四箇	1,148	補助	42
7615	四箇遺跡群	6	C地点	早良区大字四箇	8,175	公共	172
7616	四箇遺跡群	7	J-12a	早良区大字四箇	45	補助	47
7707	四箇遺跡群	8	J-11a	早良区大字四箇	36	補助	47
7708	四箇遺跡群	9	J-10h	早良区大字四箇	50	補助	47
7709	四箇遺跡群	10	J-10i	早良区大字四箇	450	補助	47
7727	四箇遺跡群	11	J-11a-2	早良区大字四箇	80	補助	
7813	四箇遺跡群	12	K-10a	早良区大字四箇	252	補助	428
7814	四箇遺跡群	13	J-10i	早良区大字四箇	242	補助	
7815	四箇遺跡群	14	K-11a	早良区大字四箇	145	補助	
7816	四箇遺跡群	15	K-11b	早良区大字四箇	250	補助	
7817	四箇遺跡群	16	J-10k	早良区大字四箇	145	補助	63
7849	四箇遺跡群	17	J-11d	早良区大字四箇	100	補助	428
7911	四箇遺跡群	18	J-10L	早良区大字四箇	540	補助	63
8015	四箇遺跡群	19	J-11e	早良区大字四箇	800	補助	428
8219	四箇遺跡群	20	L-11c	早良区大字四箇427	450	補助	100
8723	四箇遺跡群	22		早良区重留	3,300		199
8744	四箇遺跡群	23		早良区重留	1,900		196
8952	四箇遺跡群	24		早良区重留	1,712	民受	261
9409	四箇遺跡群	25		早良区重留	462	民受	

四箇周辺遺跡群は今までの調査が24ヶ所である。昭和57年を最後に宅地開発の波も一段落の様相を示し、今日では公共事業が主体をしめている。

2. 発掘調査の組織と構造

発掘調査から資料整理・報告書刊行に至るまで多くの人々の御協力を受けた。特に発掘調査から資料整理まで16年間の永きに渡り報告できなかったことは、担当者の怠慢にはかならずここにようやく多くの人々の御協力を受け刊行するに至った。記して感謝申し上げます。

調査主体 福岡市教育委員会

調査担当 文化部文化課埋蔵文化財係（昭和53年度）

文化財部埋蔵文化財課（平成6年度）

事務担当	(昭和53年度)			(平成6年度)		
	文化部長	志鶴 幸弘	文化財部長	後藤 直		
文化課長	井上 剛紀	埋蔵文化財課長	折尾 学			
第一係長	三宅 安吉	第一係長	横山 邦繼			
第二係長	柳田 純孝	第二係長	山崎 純男			
事務担当	国武 勝利	事務担当	内野 保基			
	古藤 国生		入江 幸男			
	岡崎 洋一		吉武麻由美			
			西出 由香			

調査担当 塩屋 勝利 二宮 忠司 渡辺 和子

資料担当 二宮 忠司 大庭 友子

資料整理 牛尾美恵子 内海美也子 太田 昌子 平山 圓 西田 優樹
原田 順子 花畠 照子 山崎由実子 中村 満代 畑田 友子

調査協力者 池 関次郎 石松 現秀 尾崎 達也 牛尾 準一 柳 光雄
藍田 重徳 尾崎 八重 金子ヨシ子 菊池 栄子 菊池 キミ
菊池ミツヨ 藍田オリエ 藍田 洋子 柳 ツイ 下郡フミ子
谷 ヒサヨ 谷 フミエ 野田部コト 又野 栄子 松隈ゆきの
真名子ゆきえ 真名子千恵子 結城キミエ

立地と環境については刊行されている四箇周辺遺跡・田村遺跡群・東入部遺跡群・吉武遺跡群等と
数多くの報告書が記載しているため今回の報告書では割愛する。

第二章 発掘調査の概要

発掘調査地点は第12(K-10a)・17(J-11d)・19(J-11e)次地点の三ヶ所である。この三ヶ所は同じ地区の隣り合わせの位置であり、昭和51年度に調査を行った第5(J-10a～J-10g)次調査地点(福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集「四箇周辺遺跡調査報告書(I)」)とも同一遺跡である。また当遺跡群より北に50m程の四箇遺跡(四箇田団地建設に伴う発掘調査、福岡市埋蔵文化財調査報告書第172集「四箇遺跡」)のC地点に流れ込む遺構であることも確認されており、広い範囲で考察する必要がある。

これら遺跡群の中に3つの低微高地とその間を流れる水路が認められる。微高地には縄文時代前期(曾畠・轟式土器を主に出土する遺構)、縄文時代後期後半(西平・三万田式土器を主体に出土する遺構)、弥生時代前中期から中期、古墳時代初期にかけての遺構・遺物が広範囲に広がりを示す。

凹地には弥生時代中期から古墳時代初期にかけての杭列・堰状構造が微高地の裾線に沿ってある。微高地は北から第1微高地(四箇遺跡A地点を含む範囲)中央部の第2微高地(今回報告の12.17.19次調査地点の東側に位置する)、第3微高地は四箇東遺跡群を中心とする範囲であり、その南側はまだ範囲を確認できていない。



Fig. 3 調査地点位置図(縮尺1/2,000)

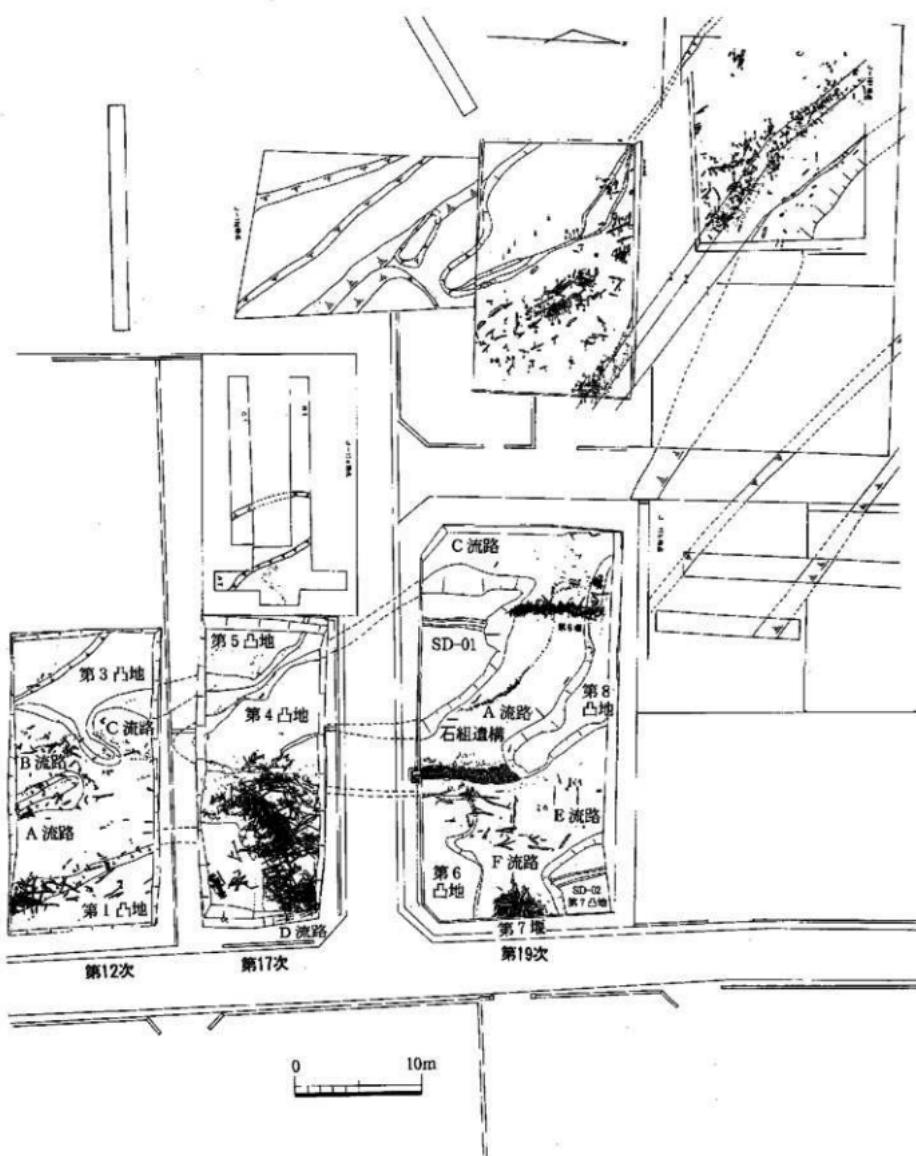


Fig. 4 調査地点全体図(縮尺1/400)

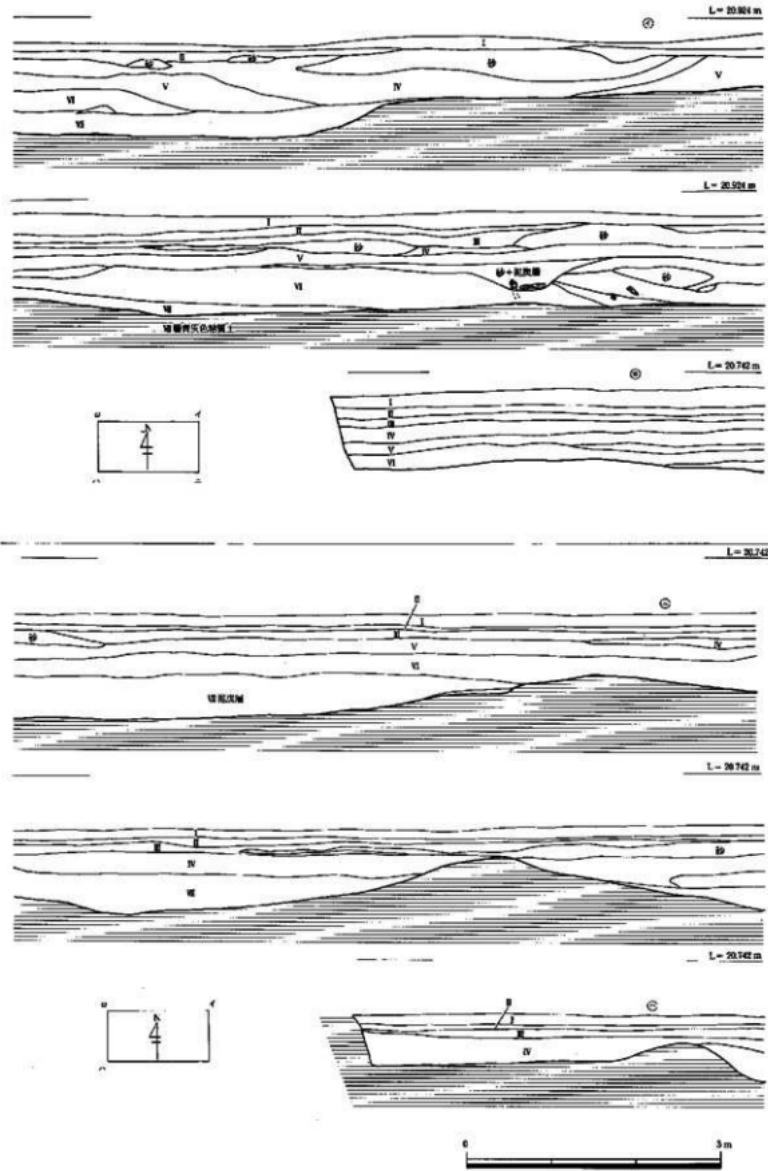


Fig. 5 四箇遺跡群第12次(K-10a)調査地点土層断面図(縮尺1/60)

第三章 調査の記録

第一節 第12次（K-10a）調査地点の記録

1. 調査概要

第12次調査地点は、今回報告する三地点の南側に位置する。東西に長い調査区で、東に第2微高地を配し、段落ち部分にあたる。この部分にも凸凹が認められ、ほぼ凹地に杭列遺構が検出される。

東側段落ち部分に壠状遺構とそれにつづく杭列遺構が北へ延びている。中央部に中州状に凸地が認められるが、そこまでの距離は6mである。西側には凸地があるが、中州状との間に杭列があり、この部分を横切る様に杭列が並ぶ。中州西側に杭列があり、西側の凸地の間に杭列が南北に配置されている。この部分の距離は3mである。この杭列は、西側凸地を通り北側壁面まで配置している。一方中州の杭列は、壠状遺構まで一次終了し、次に北側壁面近くであらたに出現していく。

つまり中州部分と西側凸地の間の凹地を水路として利用し、東側水路へ合流する位置に壠状遺構を配している。西側壁面側に凹地が認められ、これはJ-10e地点への凹地へとつづくものである。

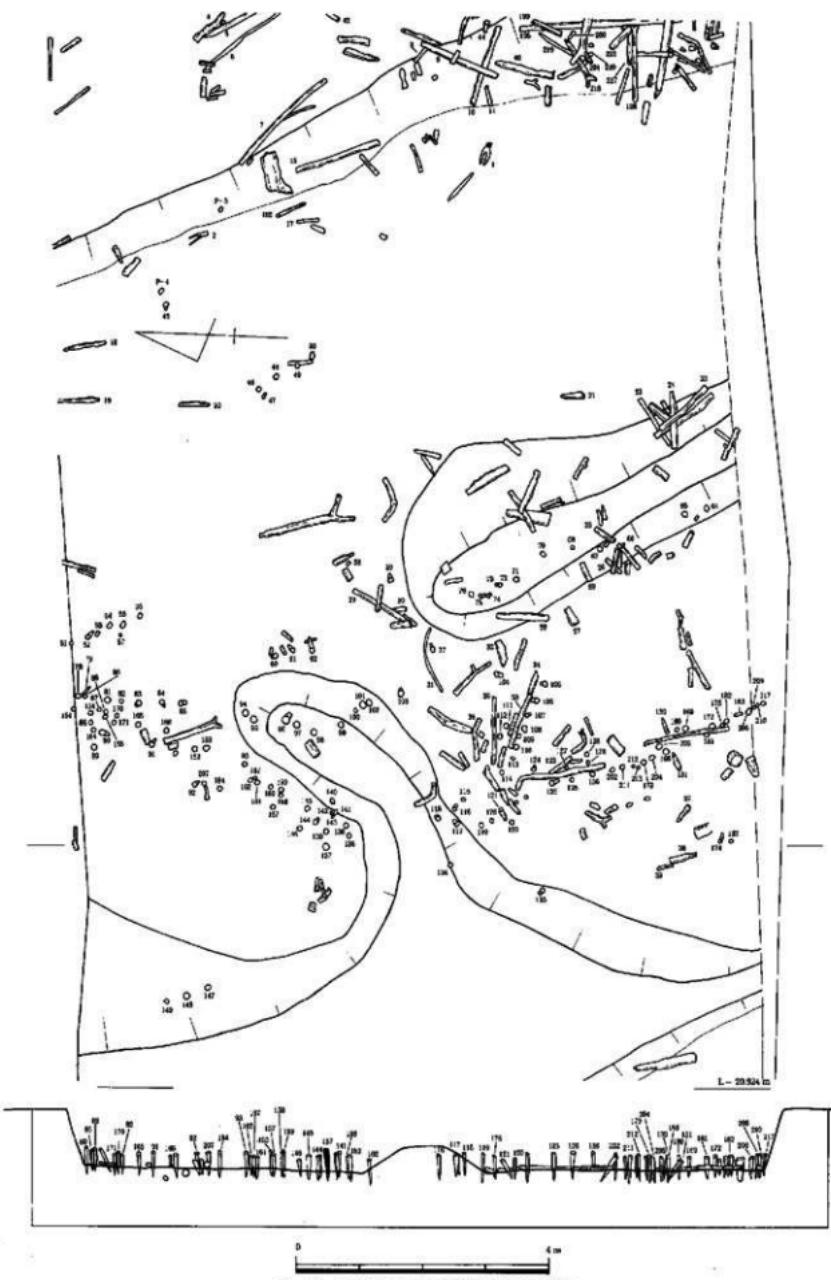
次に土層断面を（Fig. 5）見ると基本的な層序は、I層…耕作土、II層…床土、III層…黒色土、IV層…黒色粘質土、V層…黒色砂質土、VI層…青灰色砂質土、VII層…上層疊層である。部分的にIV層からVI層までの層序が砂層によって流れ、砂層が入りこんでいる。この砂層もIV層部分に入りこむのとV・VI層に入りこむものとがあり、V・VI層には、泥炭層と砂層とが混在している部分が認められる。この部分に数多くの流木が入りこんでいる。

土層断面のニ～ハは南側土層断面、イ～ロは北側土層断面である。ニ～ハにかけての土層部分で、0～3mまでがしだいに上がり凸地へとつづく部分であり、3mから2m部分が凹地である。

この部分の土層はI層…耕作土、II層…床土、III層…黒色土、IV層…茶褐色であるがIII層とIV層の間に砂層が部分的に入る。V層に黒褐色シルト層があり、V層は0～3m部分は上層疊層（疊層に二層あり、上層疊層の下にシルト泥炭層の下層に基盤の砂疊層があり、これを下層疊層と呼んでいる）で、この疊層から砂層と泥炭層の混合層がある。これが西へ10m部分まであり、12m部分で凸地に一度あがり約1mほどして再度凹地に入る。これも砂層と泥炭層の混合層が最下層に位置し、19m部分で凸地に達し、再度凹地となる。

これに対してイ～ロの土層断面では、I層…耕作土、II層…床土、III層…砂層と有機質のまじる砂層が広がっている。IV層…黒色粘質土層、V層…黒褐色粘質土で砂粒が多く混じる土である。VI層の青灰色微砂土には砂層や砂混入の泥炭層が認められ杭列の頭部がこの面より検出される。また流木等も混入する。VII層は青灰色粘質である。VIII層は疊層となる。この層序でみられるごとく、上部の砂層と下部の砂層とが認められる。南側断面では上部砂層が薄いのに対して、北側断面では厚く有機質を含む砂層となる。

下層の砂層は両側とも厚く泥炭層と砂層とが混入する状態であり、流れがゆるやかであったことをものがたっており、青灰色微砂土より杭が打ち込まれておりこれが流れにそって打込まれた杭列のところで砂の堆積が終っていることが判明した。



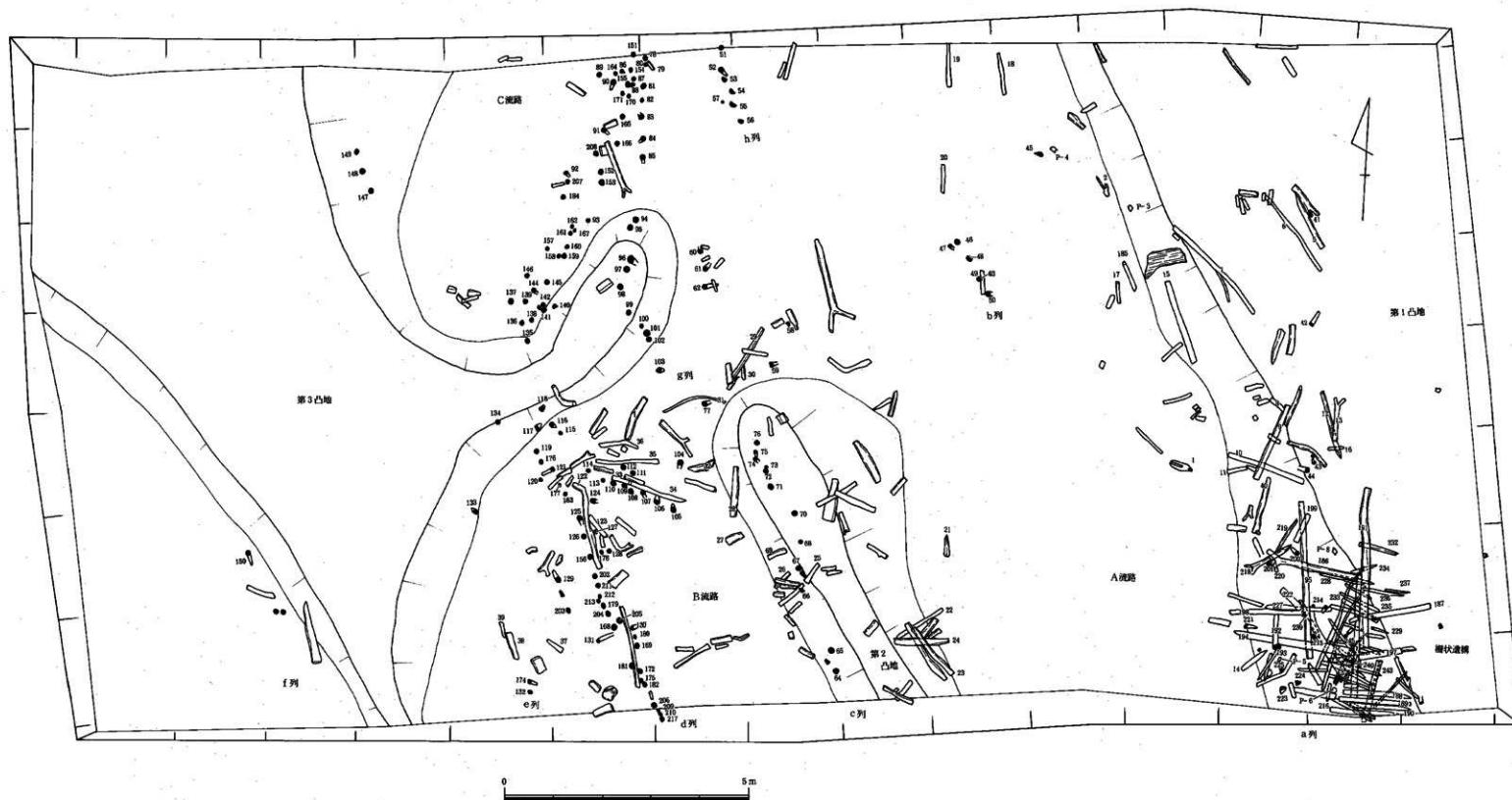


Fig. 7 西藏道路群第10次 (K-10a) 地面出土物图 (比例尺1/50)



Fig. 8 四號道路網第12次(K-10c)調查地點採集圖(縮尺1/75)

2. 杭列遺構 (Fig. 4・6・7 PL. 1・3・4)

杭列遺構は中央部南側の舌状に延びた凸地に南から北へつづく列と、東側の柵状遺構から北へ延びる杭列がある。この東側杭列の北側に中央部に向って延びる杭列が検出され、又東側凸地と中央部凸地の中間に 6 本の杭列もある。本来は南北に延びていたものと考えられるが、この部分に砂の堆積が顕著に認められることから砂流によって流されたものと考えられる。

柵状遺構内が北へ延びる杭列を a 列とし、その西側に見られる杭列を b 列とする。中央部の凸地にある杭列を c 列とし、西側にみられる杭列を d 列とする。このほか d 列より西に散発的に認められる杭列を e 列とし、西側断面に近い杭列を f 列とする。c 列と d 列の中間に凸地を横断する様に南北に延びる杭列を g 列とし、c 列が途中で終了し、4.1m の間隔をもって再び北へ延びる杭列を h 列とする。柵状遺構は東側凸地の段落ち部分に認められるものを第 1 柵状遺構とし、c 列と o 列を結ぶ杭列を第 2 柵状遺構とする。

a 列の杭列 a 列の杭列は柵状遺構から北に延びるが、非常に散発的に認められ段落ち部分から上方部分に認められる。杭列の横には、横木が認められ、柵状遺構のなごりを物語っている。

b 列の杭列 a と c 列の間にある凹地内に認められ、6 本の杭が北に延びている。本来は a 列と平行に杭列が並んでいたと考えられるが、土層断面を見ると砂流の堆積が認められ、激流に近い流れがあったことが判明していることから、そのほとんどの杭が流された可能性が高い。

c 列の杭列 c 列の杭列は南側中央部から舌状に延びた部分に長さ 7.2m にわたって構築されている。西側段落ち部分から舌状凸地の高い部分を通り、北側段落ちで横木と杭を組合せて、一端そこで終了し、4.1m の間隔をおいて再び北方向へ延びる様相を示している。横木と組合せた杭は c 列と平行に 5 本杭を配置され、この部分で水の流れの方向をかえる役割をもつものと考えられる。

d 列の杭列 c 列より 3m 西側に位置し、南北方向に延び、第 3 の凸地から伸びた舌状台地端まで伸びる。舌状台地上は杭列ではなく北側の下端から二列の杭列となり北東に延びている。南側より 3.5m 部分で第 2 柵状遺構がある。

e 列の杭列 d 列の西側 1.7m に 2 列の杭列を検出した。東側の 1 列は、やや弓状を描き途中で終している。西側の杭列は、散発的ではあるが第 3 凸地まで達している。

f 列の杭列 第 3 凸地の両側端部にそって打ち込まれたもので、北西に進む。これは J-10e 地点（四箇周辺遺跡(1)福岡市調査報告書第 42 集）の AT、BT、CT にみられる凸地につづくものである。

g 列の杭列 g 列は c 列と d 列の中間に位置し、第 3 凸地の上を通り第 2 柵状遺構より 2m 北側から北に向って延びている。北側台地落ち部分からは d 列の杭列と列をなし北へ延びる。

h 列の杭列 h 列は、g 列が段落ちする部分から約 1m 東側に位置し、北へ延びている。土層断面にある杭はこの杭列のもので、砂と泥灰層の互層であることからこの部分の水の流れの勢いは、さほど激しいものではなく、やや緩やかであったことを物語っている。ただその東側は砂層が厚く堆積していることから、水の流れが激しかったことが窺える。

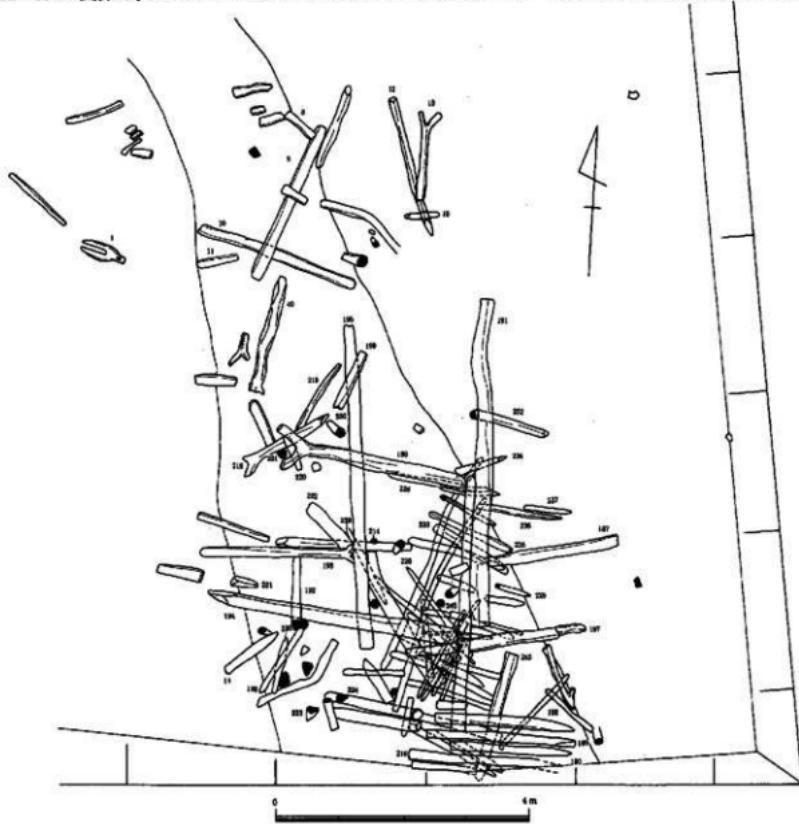
東西に長い調査であるがこの範囲に 3 つの凸地が検出された。東側は第 2 微高地の西側縁部であるが、説明上これを第 1 凸地とする。第 2 凸地は中央部に位置し、舌状に南から北に向かって延びたもので、第 1 と第 2 凸地の間に第 1 凸地があり南からやや北西に向って延びる。第 3 凸地は南側土層断面にみられるごとく幅 0.5m、標高 19.85m を計るものでこの部分から北側に延びているが、北東に延びる舌状の凸地がある。北西に延びた凸地は J-10e 地点の凸地までつづくもので、一部北側調査区第 17 次調査の西側凸地につづくものである。

3. 棚列遺構 (Fig. 7・9・10)

棚列遺構は、第2微高地西側端部（調査区東側にみられる第2微高地、Fig. 2 参照）に検出されたものと杭列 c・d 列の間にまたがる壠状遺構の 2 つが検出された。第2微高地西側端部に検出された遺構を第1棚列遺構とし、c・d 列間にまたがる遺構を壠状遺構として呼称する。

第1棚状遺構は、第2微高地西側端部の縁辺に沿って検出され、横木、縦木、杭によって構成されている。横木として利用されているものは、角材（191・199）丸太材（243・95・9）が主で、先端部は両端とも切りとられたものである。縦材として使用されている材は、二叉材（220・198）端部を尖がらせた杭（194・197・188）を利用している。

詳細にみて見ると南壁にある縦木 216・190・188・189 が最上にあり、横木 243 をおさえる形をとる。またそれと交差して 4 本の縦木が両方向に延びるが、これは、杭 222・223・224 によって固定される。このように横木 2～3 本を縦木 10 本程度でおさえる状態を示している。また杭の横に横木を配置し、その横木を縦木によっておさえこむ状態もみられる。これが特にみられるのは横木 195 と縦木 227・222・194 の関係で、195 は 194・220 によっておさえられるが 222・227・239 は逆におさえ込む形をとる。



この部分では又木198は195によって押え込まれている。220は195の上にあるが、201の杭を又木部分におき、その上から218により押え込まれた状態を示す。191は縦木の中に連続した横木として配置しているが、これも詳細にみると縦木を押えている状態と上から押えられている状態が観察され、その間に杭が打ち込まれていることが認められる。

堰状造構

堰状造構はc列とd列の間に位置し、c列とd列を結ぶもので東側のc列側が杭列がなかったものと思われる。前面に杭を9本打ち込み、次に横木を3本配置し、その後から3本を杭で固定し、さらに横木を配している。この部分は、南からの流れを一端水力を弱め流れの方向をかえるものか、もしくは東側が水の圧力によって流されたためにこの状態となったのか、これがc列まで杭列が達していたとしたら堰状造構であり、水を堰留するための施設であろう。c列の第2凸地より段落ちした部分に南西から北東に向って数本の杭が打ち込まれている。約1.2m離れて南東から北西に向けて6本の杭があり、流れを東側に向けるための施設と考えられ、東にある南東から北西に流れる大きな水路に落とすために設けられた施設であろう。

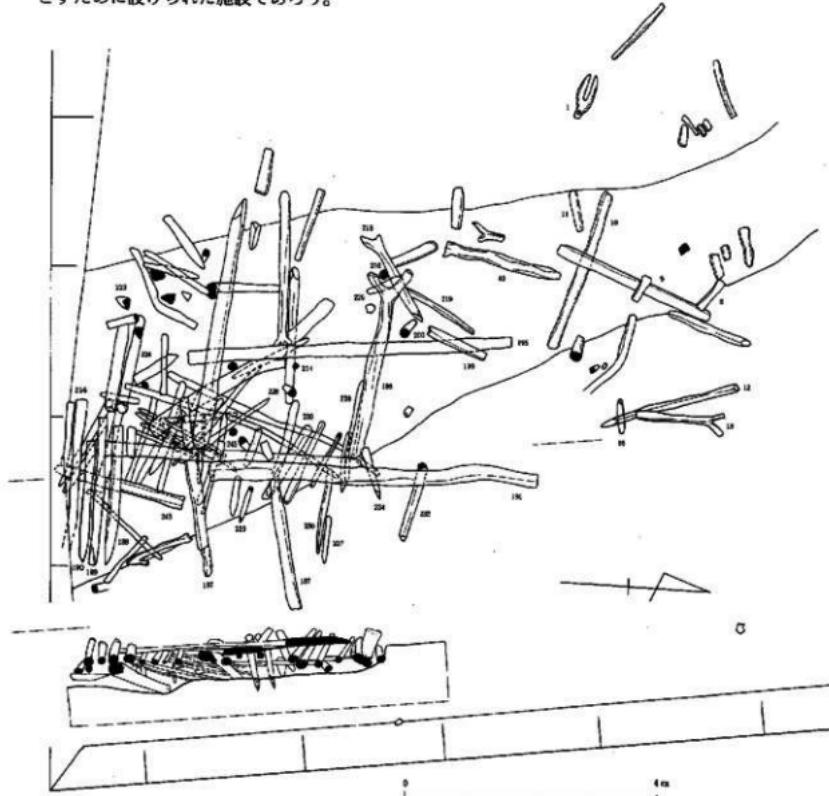


Fig. 10 桁列造構実測図と断面図(縮尺1/80)

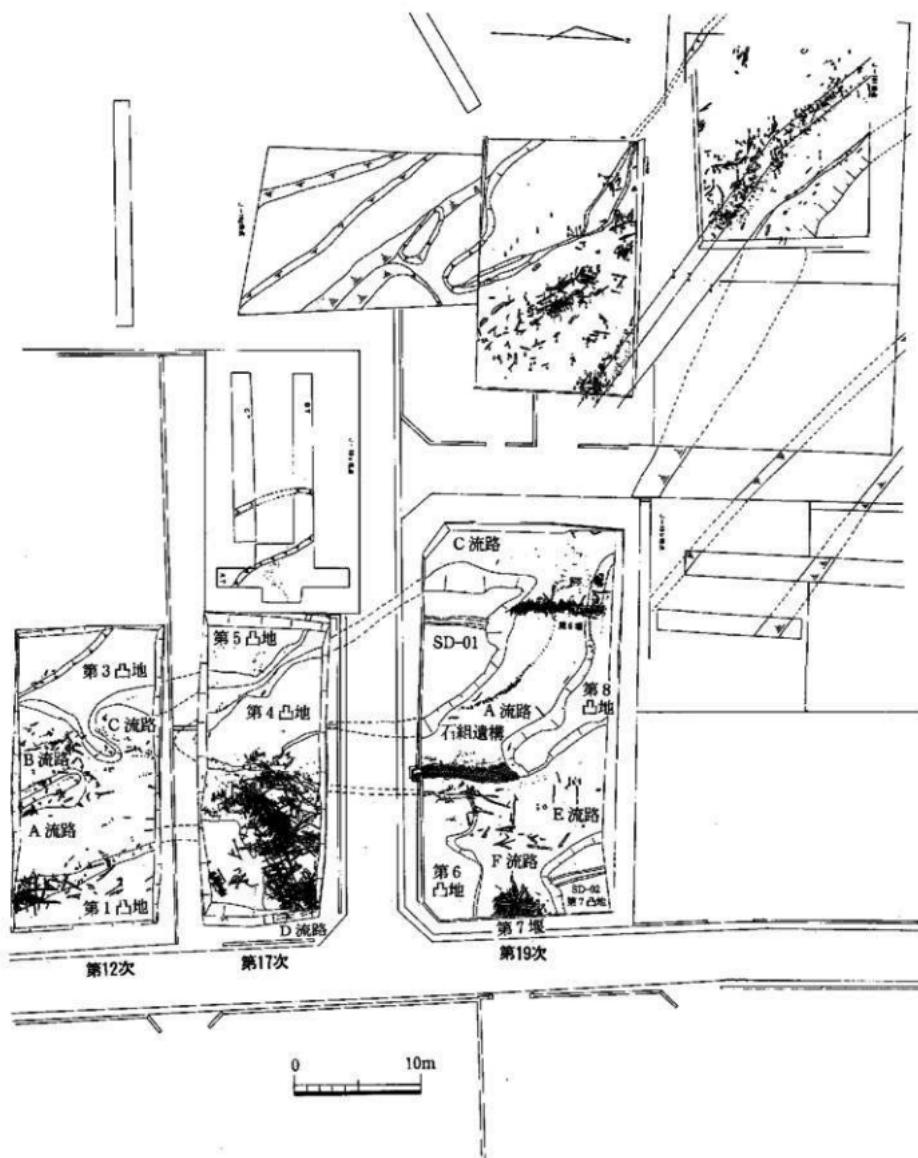


Fig. 11 調査地点全体図(縮尺1/400)

第二節 第17次 (J-11d) 調査地点の記録

1. 調査概要

第17次調査地点の所在地は福岡市早良区四箇502-7で、南側に第12次調査地点、北側に第19次調査地点、西側にJ-10e地点、北西側にJ-10a地点、東側に第2微高地に接する地点である。当初第12次調査地点から続く杭列遺構が、北西に延びJ-10a地点の杭列遺構へ続く中間位置にあたり杭列遺構のみの検出と考えていた。

調査の結果、基盤の礫層に凹凸が認められ凹地の部分に杭列・堰状遺構が拾出され、遺構の北西側に延びる杭列と北側に延びる堰状遺構、東側の第2微高地へ向う堰状遺構を検出した。

堰状遺構には、梁と思われる4mの建築材、納、納穴を持つ柱、根本に納穴をもつ又木（一見、チュラを彷彿させる材）梯子等を横組とし、縦には杭や抉り込みを持つ建築材等を約3組上下に組み合わせて凹地を切断し水の流れを西側に限定するためと東側に水を引き込むために造り出された堰状遺構と考えられる。

この堰状遺構の西側に疊層の凸地があり、凸地と凸地の間に浅い溝状の凹地が認められる。この凹地は南東（第12次調査地点）から北西（第5次調査地点）へとづくもので両岸に杭列遺構が検出される。堰状遺構の地形は、南東から北西へ流れる凹地が認められ、この中央地点から北東へとづく凹地がある。この凹地に堰状遺構が形成され、これと同時に杭列遺構も確認された。この杭列遺構は、南東から北西へ流れる凹地の両岸に打ち込まれているが、深さは疊層下30cm～50cm程度まで打ち込まれている。

出土遺物はほぼ完形の土師式土器が2個体と破片が數十点、弥生後期の土器片（ローリングを受けている）が出土した。木製品も約30点ほど出土した。梯子2点（1点は完形）横杵、フォーク状木器、平鐵、二又、三叉鐵、砧等がある。

建築材も多量に出土した。建築材は二次的に使用されたもので、流れついたものではない。意識的に堰状遺構に使用したことが明らかで、建築材の種類も豊富である。4mもある梁、納を持つ柱、納穴を持つ柱、先端部が二又になる柱状建築材、基部から二又となり、その基部には納穴をもつ建築材、一端に抉りをもつ建築材等がある。これらの堰状遺構は、第V層の細かな砂層から認められほぼ第VI層（砂質まじりの黒褐色土層）でその全貌を検出でき、一部はVII層の砂層、VIII層の疊層から配置されている。

調査区南東部に第1凸地が認められるが、これは第12地点から延びたものである。調査区の南東隅から7mで凸地が段落ちし、凹地（A流路）は9mの幅である。すぐに凸地となるが、その後は凹凸をくり返しながら、南西隅へと達している。

第4凸地は、第1凸地より西へ9mの部分からはじまり、北へ直線的に延び10m程度で北西に向きをかえて北壁で、北に進み、第19次調査地点へと進む。西側の段落ち部分は、南壁で4m西へ平坦面がつづき段落ち部分になるが、北壁部分で6mの幅を持つ。南側部分の第12次調査地点では、この凸地は確認されていない。

第5凸地は第4凸地との間に幅2mの凹地（溝状遺構）がある。第5凸地は、弧を描きながら西壁（北から1mの部分）に達する。凹地にある溝状遺構は、中央部で幅1mとなり北側で広がる様相を示すが、幅を広げながら第5次調査の凹地に達するものと思われる。ただ第5次調査地点のJ-10e地点のATに見られるごとく、この部分でも段落ちと杭列遺構が認められていることから、両側の凸地の広がりは、舌状に延びるものと思われる。第12次調査地点のB流路は杭列D、G列間を通り、A流路に流れ込むが、これから発した流路がこの部分にあたる。



Fig. 12 四箇遺跡群第17次(J-11d)調査地点堆状遺構図(縮尺1/30)

第12次調査地点で1つの流路となったA流路は、第17次調査地点で3つの流路となる。C流路は第4・5凸地間を流れ、A流路は第1・4凸地間を流れるが、すぐに東に方向をかえるD流路と第19次調査地点へと流れるA流路がある。

D流路はA流路から分流するのではなく、第2微高地より流れ出る水がA流路へ流れ込む状態とされるべきもので、第19次調査地点の間に第6凸地に段落ち部分があるものと考えられるが、その規模等は不明である。ただD流路の幅は現在確認出来たところで5mであり、上層断面からもまた立上る部分ではなく、かなりの砂層が堆積しているところから10m内外の幅はある。

2. 堤状遺構 (Fig. 12・14 PL. 7・13)

堤状遺構は第12次調査地点からのA流路が、第17次調査地点に入るとAとC流路に分流する。A流路は17次調査地点を通り第19次調査地点へ流れ込む。このA流路にD流路からの流れ込みが認められこの部分(D流路部分)に堤状遺構が認められる。A流路は約0.9mの幅で第19次調査地点へ流れ、本来は、約4mの流路と考えられる。この流路の東側約2mの幅で流路内部に堤状遺構を検出した。A流路中央部から北東に向かって数百本の横・縦木が組合せられ堤状遺構を形成している。

調査当初は、流木が流れついたものと考えたが、D流路からA流路への水の流れを考えた時、流木ではなく意識的に組合せた堤状遺構であることが判明した。組合せから4つの部分で成ることが判明した。第1堤状遺構はA流路の中央部から北東に延びるもので、この部分に建築材が一番多い。第2堤状遺構は第1堤状遺構から北へ延びるもので、横・縦木とともに杭列により固定され、第6凸地を擁護する堤。第3堤状遺構は第1堤状遺構と結合するが、ほぼ南側に配置された堤である。第4堤状遺構は最も東側壁に位置し、第2微高地と平行に配置され、東西に配置された横木より南北に配置された横木の点数が多い。

1) 第1堤状遺構

A流路の中央部分から配置された第1堤状遺構は、最下に北東部に長い柱材転用材をおき、北西から南東にかけて両側から約1m内外の丸太材を配置する。その上の部分(組合った部分がX状になった所)に再度北東から材を配置する。その上から再度、両側から丸太材を配置し、それを3度くりかえしている。最後に太めの柱材を上からのせ、下の横木と組合せて編合せの状況を作り上げている。使用された材は、枘穴付の又木や、先端部が二叉になる材、両端を加工した建築材や一端は尖がらし、一端は回みをもつ材等で構成されている。この中に横杆、梯子等も認められ、一部には橋束を横にしきかためた部分が下層の方から検出された。この第1堤状遺構の目的は、A流路からの取水のためのものとも考えられ、ため池状施設を作り出すものと考えられる。

2) 第3堤状遺構

第1堤状遺構に付随して、第3堤状遺構がある。これは第1堤状遺構の北側と南側に配置されたものでそのほとんどが南北に材を配置しているものであるが、使用された材は又木や長い材が多く、横木(東西材)は下方に配置されている。北側の又木部分から完形の土師式土器(Fig. 20-1)が出土し、出土状況はあたかも置かれた状態であった。第1凸地から第6凸地をつなぐ様に配置される。第1堤状遺構と第3堤状遺構の間に空地があり、この部分にはため池として使用された可能性もある。A流路の底面標高は19.5m、第1凸地の上面標高は20.78mで、1.3mの比高差を見る事ができる。第1堤状遺構上面の標高は20.98mである。

3) 第2堤状遺構

第2堤状遺構は、第1堤状遺構の西側から北へ延び、第6凸地にかけて配置されたものである。

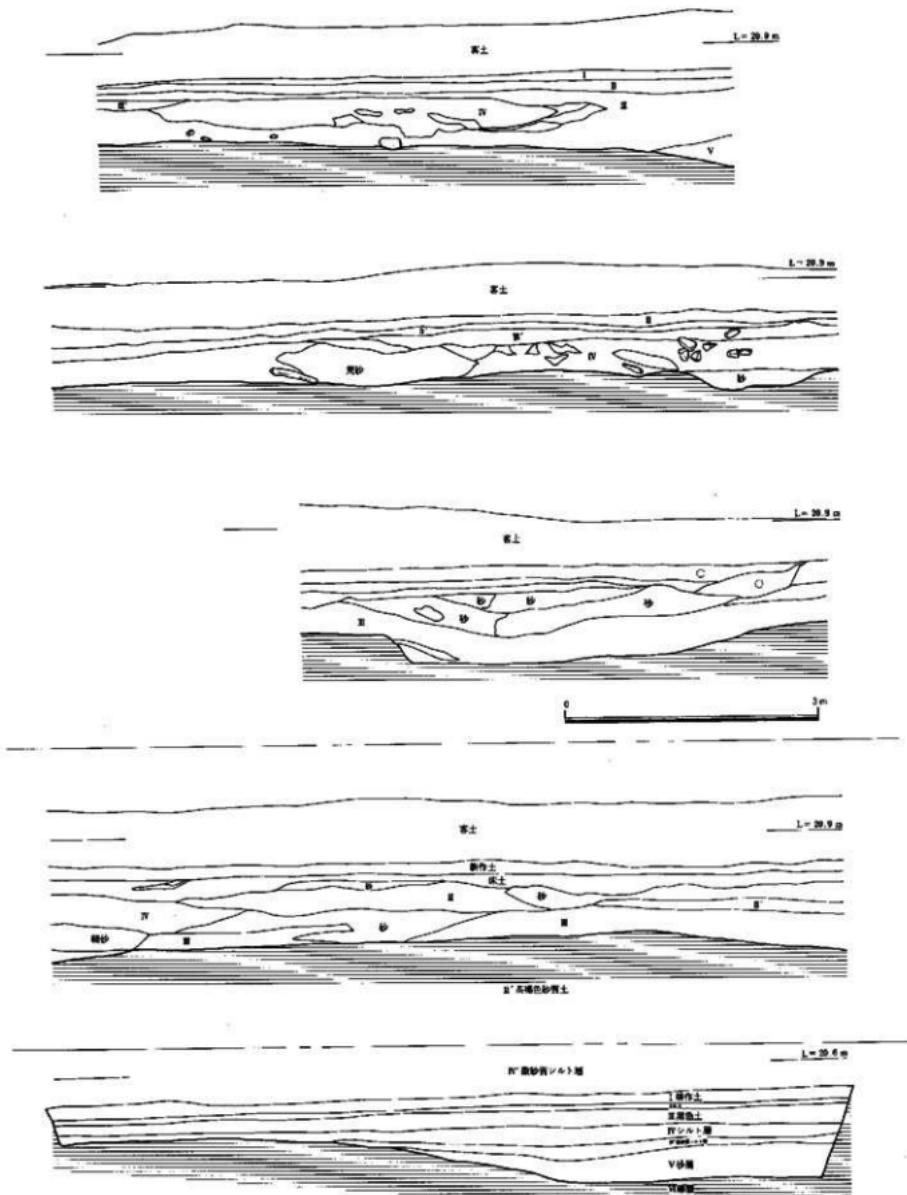


Fig. 13 四條遺跡群第17次(J-11d)調査地点土層断面図(縮尺1/60)

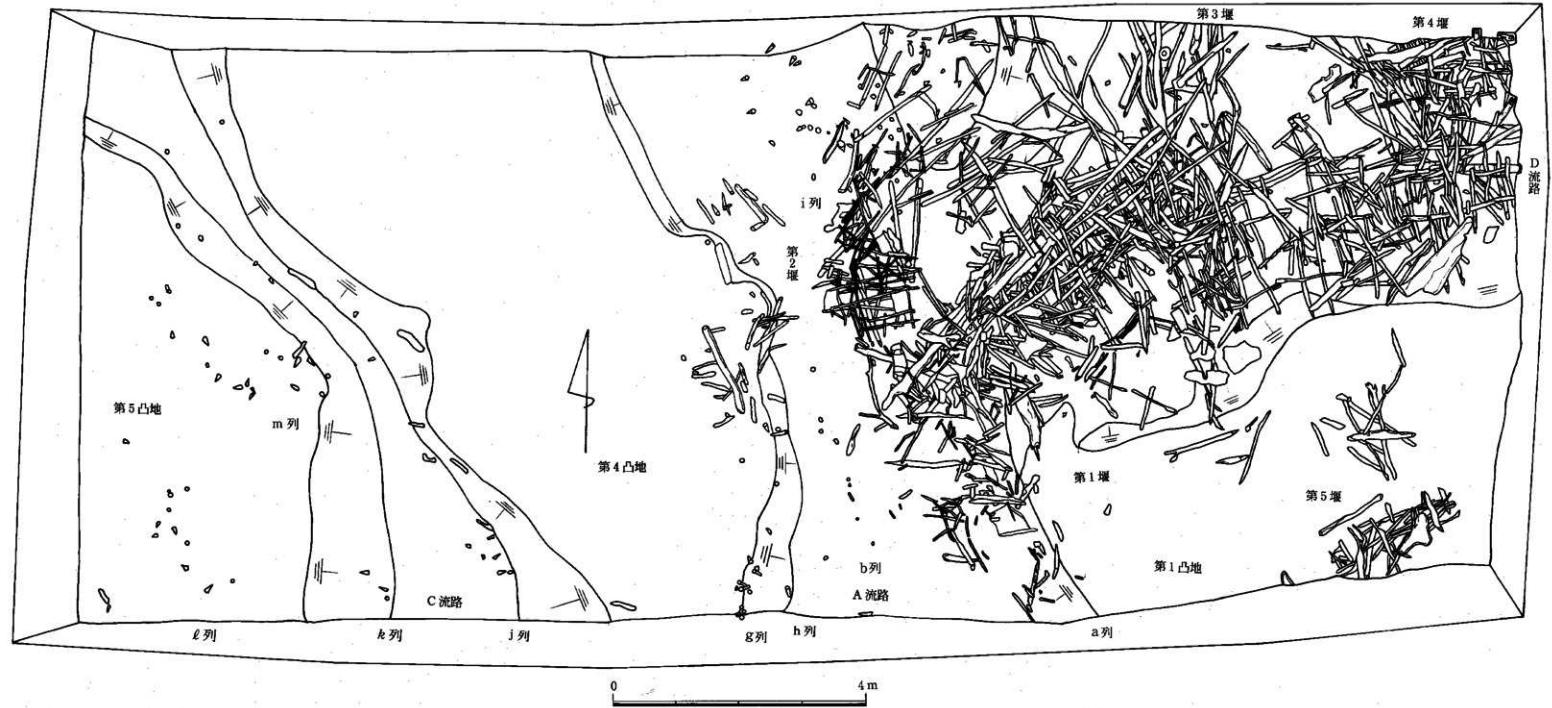


Fig. 14 四箇遺跡群第17次(J-11d)調査地点全体図(縮尺1/60)

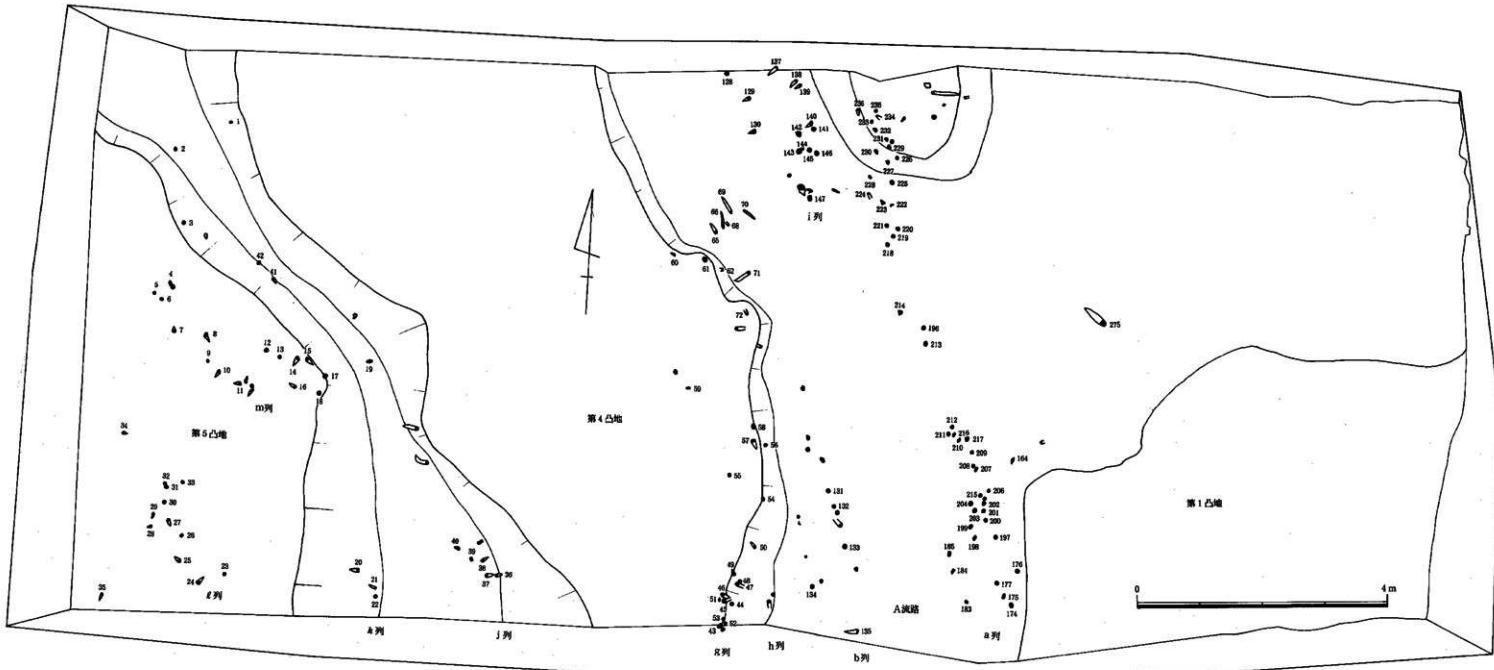


Fig. 15 四箇遺跡群第17次(J-11d)調査地点杭列図(縮尺1/60)

第1壙状造構から北へ延びた第2壙状造構は、約3mで北東側に方向をかえ第6凸地に向うが、横縦の材と杭によって構成されている。杭列が出現するのは北東へ向う部分からで、横木と杭との組合せが認められる。第1壙状造構に近い部分では、横・縦木の組合せにより構成され、南北材が太く長い柱材や二又材が主流である。これに対して東西材は細見の材を使用している。

北東へ向う壙状造構は、北東に向う材が長く、杭との組合せを行なっている。北西材は、細く短かい材を使用している。

4) 第4壙状造構

調査区の東側に位置するもので、第2微高地から下った段落ち部分に位置する。南北からさらに北につづくもので、第19次調査地点の第6凸地がどこで段落ちするかは不明であるが、東側北東隅の土層から見るとさらに北へつづく様相を示し、現在約4m程度であるから、約8mから10m程度の幅を持つものと思われる。

この壙の構造は、東西に長い柱や梯子等を配し、南北に細目の材を組合せているが、南側の段落部に近い所では2段、北側の中央部では3~4段の構築を行なっている。南側の横縦の組合せは第1壙状造構までつづき一体となる。

5) 第5壙状造構

南東隅の第1凸地上に北東から南東に向って2.5m（南東部は調査区外へ山る）程度ある。構成は東西材を主体とし、南北材を組合せているものである。

3. 杭列造構 (Fig. 15)

杭列造構は第12次調査地点からつづくものb、d~hがある。bはA流路の中央部に向って延び、第1、第2壙状造構部分ではなく、それが切れた部分からはじまり北へ延びる。第4凸地東側にある杭列は、第12地点のd~hが一つになる部分から発生するもので第4凸地上・下段にあり、北向部分ではA流路の中央部分に延びる。

C流路にも杭列造構がある。C流路東側段落ちに沿って數十本の杭がありこれをj列とする。西側には東側段落ち部分と同じくまばらな状態であるが列をなす。これをk列とする。

第5凸地上にも二列の杭列がある。m列とl列である。

4. 土層 (Fig. 13 PL. 10)

Fig. 13の最上段から4番目までが、北壁土層断面図である。最下段が西壁、下から二段目が南側土層のA流路部分のものである。

北壁の某岸層序は客土、I層…表土、II層…茶褐色粘質土、III層…灰黒色微砂質土、IV層…黒色粘質土まじりの青灰色粘質土（この層序の中に粗い砂層が混じるこの層をIV'とする）。V層…細かい砂層・VI層が基盤の礫層である。西壁部分では、I層…耕作土、II層…床土、III層…黒色土、IV層…シルト層、V層…砂層、VI層…基盤礫層となる。

北壁土層のIV層には粗い砂が多量に認められ、一時期強い流れがあったことを物語っている。土層断面のほとんどに砂層が認められ、凸地上面をはるかに越える状態で凸地にもおおいかぶった状況であったことが判明した。壙状造構が認められる土層は、第IV層に造られたもので、IV'層の砂層をとりこんでいる状況が観察された。ただIV層下面まで達しているものはなく、第1~第4壙状造構が砂層に埋まった状態である。しかし第19次調査地点においては、第6凸地面の砂層は検出されていないところから壙状造構の役わりが十分はたしたものと考えられる。

第2段目のIV層に礫石が6個ある状態であるが、これは、第19次調査で検出した石組壙状造構であり、第6凸地の上面まで造れられていることから、護岸の意識をもって造られたものと考えられる。

第三節 第19次 (J-11e) 調査地点の記録

1. 調査の概要

試掘調査の結果、第12、17次調査地点からつづく杭列・井堰・護岸杭の検出が予想できたが、第17次調査地点に検出された井堰（堰状遺構1～4）がどの方向に延びるかが問題であった。また基盤疊層の凸凹面がどのような様相を示すかが発掘調査の焦点であった。土層は基本的には第1層、耕作土

第II層…床土、第III層…黒褐色土、第IV層…部分的に砂を含む茶褐色土、第V層…暗褐色砂質土、第VI層…青灰色シルト層、第VII層…暗褐色泥炭層、第VIII層…疊層（基盤層）である。部分的に荒砂が第III層から第VI層までを押流す部分が認められる。土層断面から遺構を観察すると2面の遺構が認められる。一面は第III層黒褐色土を同層上に疊層を配し、部分的に厚さ1.5cm～1cm、長さ3mにワラ状のものが観察され、また一条の溝と棍状遺物が認められる所から水田址の可能性があり、詳細な検出作業を行なったが、遺構の検出はできなかった。もう一面は疊層上面に配された杭列等を持つ遺構である。17次地点よりつづく凹地の両岸に護岸杭が打込まれているが、19次地点にもこれと同様の凹地が認められる。この凹地は17次地点から北に延びて調査地点より10mの部分で北北西と北北東に2つに分離する。北北東に延びた凹地はさらに北と東に分離する。第1の分離点である北北東の交流の部分に水路を切断する杭列がある。これは北上する流れを二分する杭列で凹地の中心部分に杭列の両側には頭大の石を3段に積上げて杭列を保護する役目を持つ施設を配している。北北西に延びた凹地には一条の杭列が凹地に打込まれ、また凹地の両側辺に護岸杭がある。この一条の杭列が約15mほどつづくが、15m先に凹地を横断する杭列が認められる。これには立杭をまず打込み、それに建築部材と思われる横木を組み合せてさらに立杭を打込む堰状遺構である。この凹地は第5次調査地点 (J-10a～f (四箇周辺遺跡調査報告書(1))) へとつづくものである。

北北東に分離した水路はさらに北と東に分離するが、北に延びる部分はJ-11c地点から四箇C地点へ流れ込む水路である。東に延びた水路には凹地を横断する堰状遺構が認められる。

この堰状遺構は北西部に認められる施設より強力ではぼ3重の立杭、横木を配している。この横木の中には建築部材、三叉歫、梯子、堅杵等が利用されている。

これらの水利施設に利用されている杭の数は約600本ほど打込まれていた。また荒砂の下面から布留式併行期の土器が完形品 (Fig. 20-6) で出土した。このほかに縄文時代後期の三方田式土器片、弥生時代後期の土器片が出土しているが、磨滅が激しい。土師式土器は磨滅を受けていない、この水利施設は土師器（布留式土器併行期）の時期と考えられる。

2. 水路 (Fig. 16)

第12、17調査地点からつづくA流路は、19次調査地点前で2つに分流する。1つは、第4凸地・8凸地間の凹地を通り、第6堰状遺構によって堰留められるがさらに西へ進み、第5次調査地点のA～C列へつづく流路である。他の1つは、石組遺構によって留められた部分から北へ流れ、第6凸地の西側を流れ（これを流路とする）北上し、四箇遺跡c地点（第6次調査地点）（「四箇遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第172集）に流れ込む遺構である。

このF流路は二つに分流する。第6凸地、7凸地の間を通る水路でこれをF流路とするが、E流路からほぼ90°東に向きをかえるところから、第2微高地からの流れがE流路に流れ込む状態を考えられここに第7堰状遺構が検出された。

調査区西側に第12・17次調査地点から発生したC流路が検出された。第19次調査地点でA流路と合流し北西へ向って流れるが、第5次調査地点（「四箇周辺遺跡」(1) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集）のJ-10a地点から10f地点の流路に合流する。

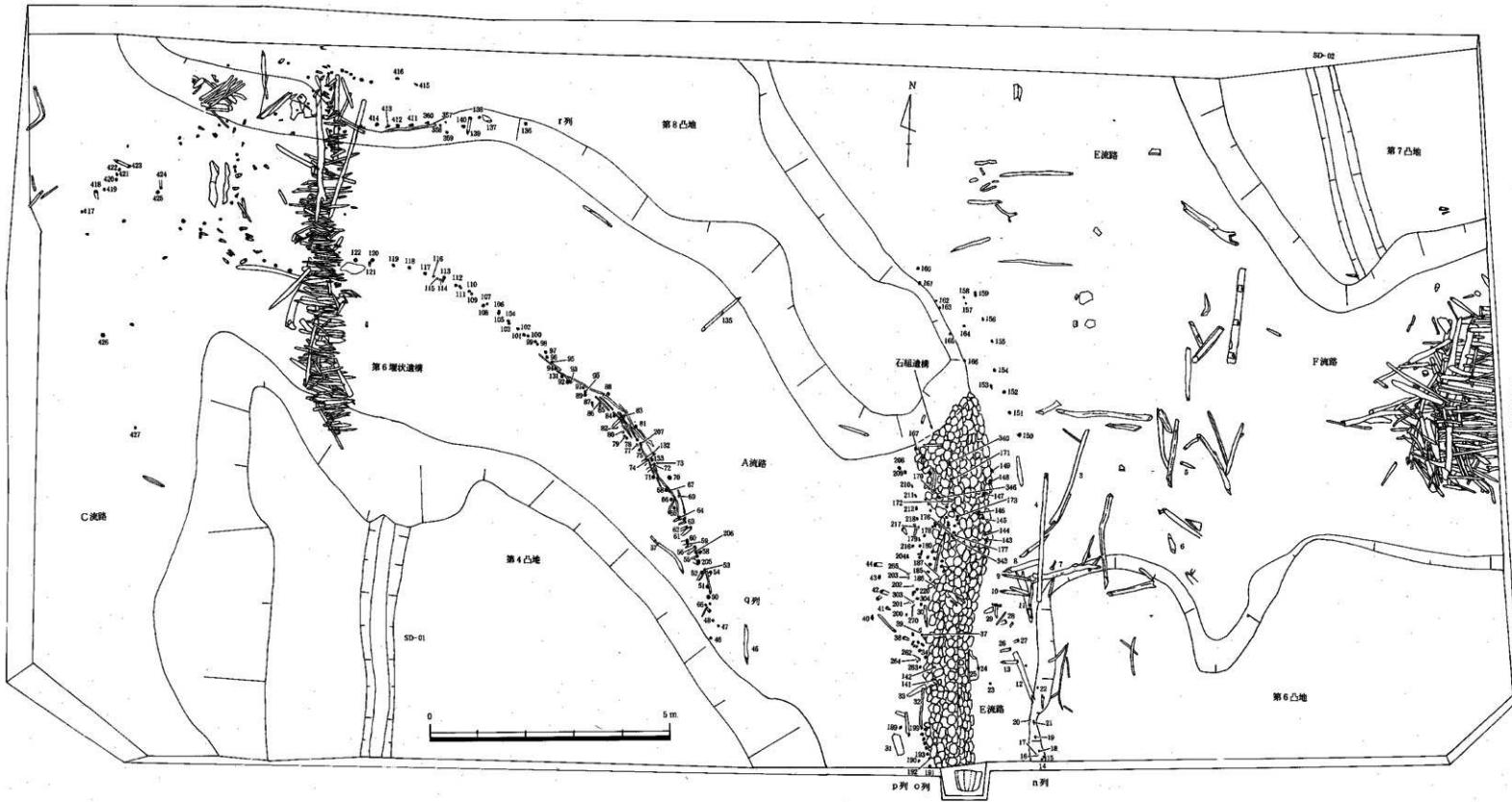


Fig. 16 四箇遺跡群第4次(1-11e)調査地点杭列図(縮尺1/75)

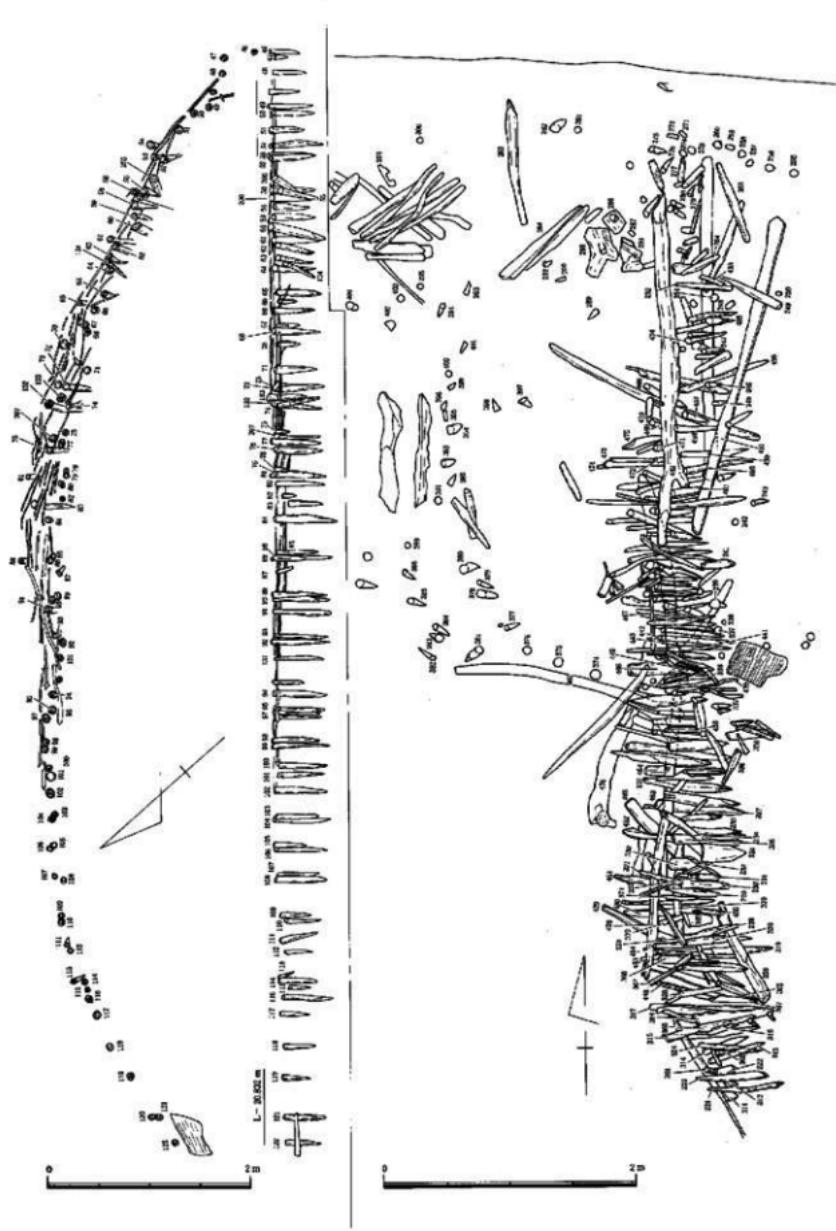


Fig. 17 杭州良渚平面图、断面图、第6号土状造构平面图(缩尺1/40, 1/50)

3. 低微高地（凸地）(Fig. 11・16)

低微高地は調査区内に4ヶ所検出された。第4凸地は第17次調査地点からのつづきで、約44mである。西側隅に溝状遺構一条（SD-1）を検出した。標高20.26mを測り、凹地の標高20.90mとの比高差は0.64mである。

第6凸地は、調査区の南東隅に検出された。南側の範囲は不明で、第17次調査地点の第4堰状遺構を10m前後とすると、南北幅は約5m程度と考えられる。調査区内での面積は36m²であり、標高20.69mと高い。

第7凸地は調査区の北東隅に検出された。凸地上にSD-02がほぼ南北に検出された。検出面が狭いためその規模はさだかでないが、7は第2微高地となると思われる。調査区内の面積は18.9m²で標高21.01mを測る。

第8凸地は調査区中央部の石組遺構から北西に細長く、J-10b地点の凸地からJ-10f地点の凸地へつづくものと考えられる。調査区内の面積は30.7m²で標高20.86mを測る。

4. 溝状遺構 (Fig. 11・16)

第4凸地西側に一条の溝状遺構（SD-01）を検出した。南北に5mの長さ、幅0.8m、深さ0.18mある。これは12・17次調査地点から発生したC流路と第19次調査地点のA流路とを連絡する溝と考えられる。

第7凸地にも一条の溝（SD-02）が検出された。方向は南北をとり、第7凸地の縁辺部を平行に進んでいる。F流路に流れ込む状態である。SD-02の長さは4.4m、幅0.7m、深さ0.09mで、標高21.03mを測る。

5. 石組護岸遺構 (Fig. 11・16)

調査区のやや東よりの中央部に第8凸地端より南北方向に人頭大の円礫を3段～5段に積み上げて、幅1.5m、長さ8m（17次調査地点の北壁までを計測すると16m程度となる）の石組遺構を検出した。両側辺に杭を打ち込み、石の崩壊を防止する役割を持つものがある。この石組護岸遺構の南側壁面に樋状木器が出土しており、石組との関連を考察することが必要であろう。ただ、土層断面の石組の高さと、樋状遺物の高さとが約20cmほど間隔があくが、北に位置する先端部は石組の上におかれている状況から南のA流路からの取水施設とも考えられる。

第12・17地点のA流路が19次調査地点で二つに分流するが、護岸石組をこえて流路をE列とすると石組遺構が第17地点の第2堰状遺構までつづく可能性が高いため、途中で取水用の施設がある可能性が高い。

6. 第6堰状遺構 (Fig. 16・17)

第6堰状遺構は、調査区の西側に配置され、第4凸地の西側隅と第8凸地を接続する様に造築されている。堰の中央部から第4凸地に向って杭列が認められるのと同時に、第4凸地に幅0.8m、長さ5mの溝状遺構（SD-01）が検出され、第6堰状遺構A流路に流れ込む形状を示す。これによって第6堰状遺構は、本流のA流路から流れる水と、SD-01からの流路を調整する施設であることが判明した。

井堰は、建築材等を横木とし、この周辺部に立杭約200本程度を打ち込み、中央北側に交差しない部分（PL. 21-2）があり、この部分が水を調整する施設と考えられる。



Fig. 18 第7堰状遺構平面図(縮尺1/40)

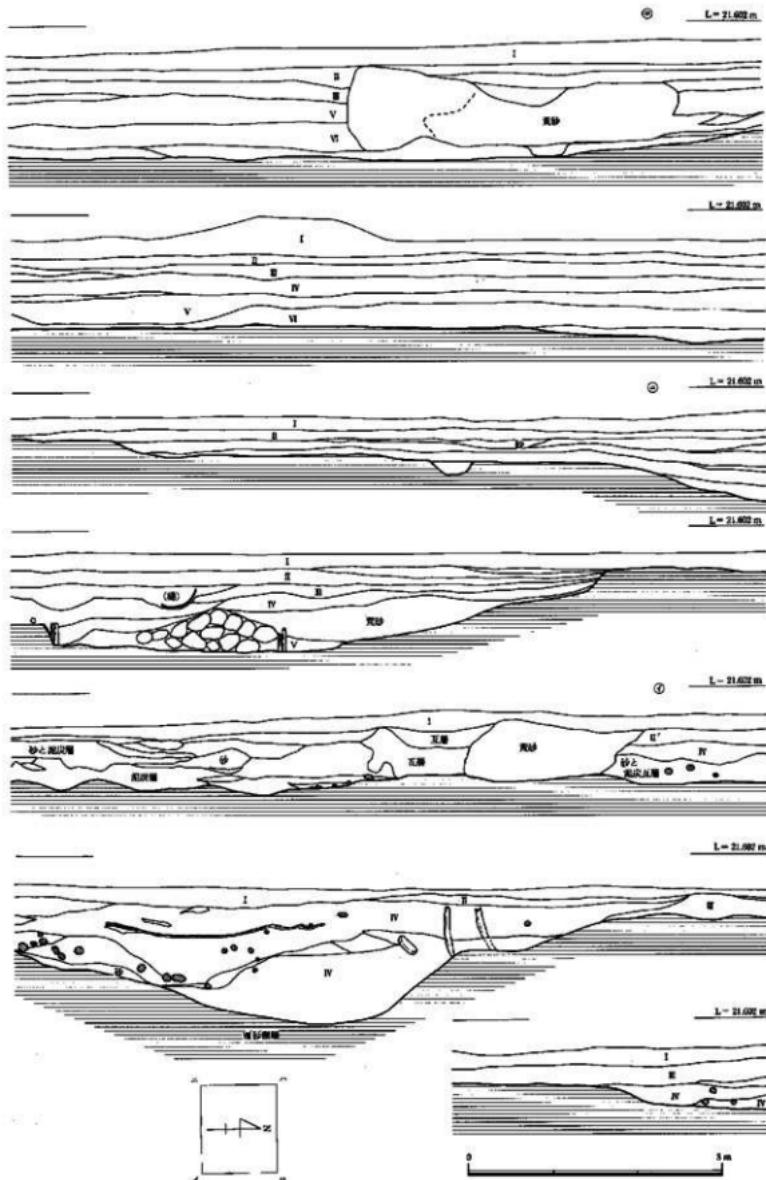


Fig. 19 四箇遺跡群第19次(J-11e)調査地点土層断面図(縮尺1/60)

堰は南北（水路に直角）に柱材等の建築材を利用し、東西の材と組合せることにより強固な堰とし、さらに裏とめとして建築材等を東西におき、これが生じない様に施こしてある。

7. 杭列造構 (Fig. 16・17)

杭列造構は、石組造構の両側に護岸の杭がある。東側を n 列、西側を o 列とする。石組造構の北側に北方向に向けて列をなす杭列がありこれを p 列とする。また第4凸地から発した杭列は、弧を描きながら第6井堰まで達する杭列がある。これは堰をこえさらに西側へとつづく q 列とし、第8凸地南側にあたる杭列を r とする。

q 列は、Fig. 15で見られる様に丸太材を杭とし杭上面に小枝やシダ、蘚等で杭列を強化している。

8. 土層断面 (Fig. 19 PL. 28)

Fig. 19に第19次調査地点の土層図を示した。最上段と二段目は北側壁面（ロ～ハ）の部分である。三段目・四段目は、南側断面（ニ～イ）、最下段と五段目は東壁面（イ～ロ）部分の断面である。

1) 北壁断面部分のロ～ハ

基本的には第I層が耕作土が平均25cm程度で、第II層が床土（褐色土）が10cmから20cmである。第III層黒褐色土10cmから20cm程度であり、第IV層が暗褐色砂質土で25cmから30cmである。第V層が、暗褐色砂質土であり、15cmから30cm程度である。第VI層は青灰色砂質土で5cmから25cm程度。最上段石側にある荒砂は、第II層上面まで達するもので、下層は、第VI層まで運びさるほどの流れがある。第VI層下面に第VII層の暗褐色泥炭層があり、それと同時に砂層が堆積している。第VII層に基盤の砂礫層があるが、この層は凹凸が著しく、第4凸地の部分では、標高は21,002m、第6凸地の標高、21,102mを測り、第8凹地では20,452mで凸地の内でも50cmの比高差がある。

凹地の最下層レベルは19,602mであるからその比高差は1.5mである。石組み造構の上面レベルは、20,702m、下面レベル20,452mで石組造構の高さ60cmである。

SD-01は基盤層を掘り込んで作られ、上面土層は第V層の暗褐色土層が堆積していることからこの層位以前に作られたものと思われる。幅50cm、深さ17cmを測る。

SD-02は第7凸地に位置するが、造構の切り込みは第VII層の褐色泥炭層からである。上面には砂と暗褐色土の互層が厚く堆積し、この層が埋土としてある。幅60cm、深さ15cmである。

2) 東壁土層断面

東壁にはF流路と第6・7凸地がある。この部分の土層は、第I層が耕作土（25cm程度）、第II層が黒褐色土であるが、部分的にあるだけではなくとんでもなく押し流されているものと思われる。第III層は、砂層で細砂を粗砂の互層であり部分的にレンズ状に泥炭層を含む層位である。第IV層はいわゆる泥炭質の茶褐色土層で、これはF流路部分に相当する部分で（断面の部分に杭や、横木等が密集している）ある。第V層は基盤の砂礫層で、南東隅のレベルは、20,842m、北東隅では、20,840mを測る。F流路の底面レベルは19,352mであり比高差は、約1.5m程度である。

F流路の堤状造構の上にわら束であんだものが（ムシロ状のもの）厚さ0.5cm～1.0cm長さ2.8mにわたってかぶさった状態で検出された。

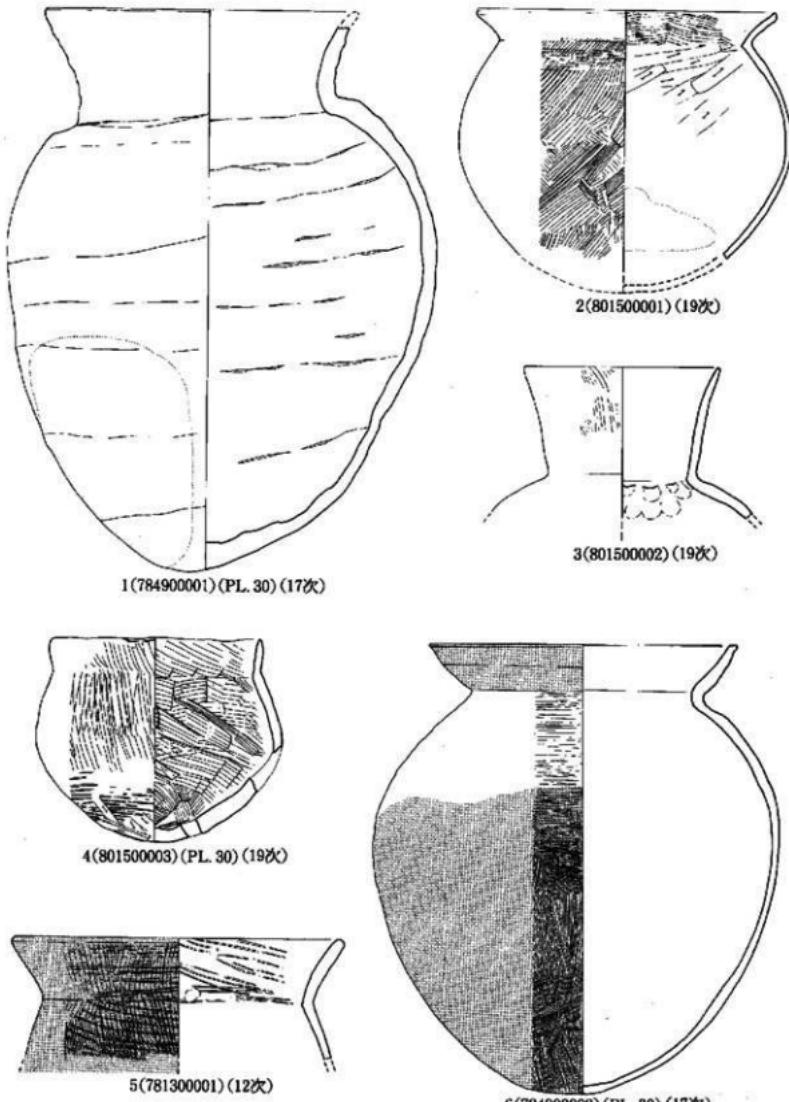


Fig. 20 出土土器一1 (縮尺1/3)

第四章 出土遺物

出土遺物に関しては、3地点とも同一遺構内であることから、地点を区別せず同一挿図・図版で取りあつかうこととする。また時期も古墳時代初期の遺物が最も新しいもので遺構自体もこの時期に比定できるものである。

1. 土器 (Fig. 20-21 PL. 30)

第12次調査地点から出土した土器は、Fig. 20-5、Fig. 21-10・11・13の4点である。このほか磨滅を受けた縄文後期の三万田式土器等が出土したが一部だけ図示した。

Fig. 20-5は壺形土器で、口径19.6cmを測る古式土師器である。内面はタタキの後ナデを施こし、外面はタタキの後継の刷毛目を施こしている。外面には黒ススで表面を磨いた状態である。口縁部は「く」字状口縁で、最大径が口縁部にある。

10も口縁部が「く」字状を呈し、口唇部がさらに外反しておさめるタイプで最大径が胴部にある。

11は高杯の脚部で、脚部からややふくらみをもちながら下りすで開くもので、外面には細かな刷毛目を施す。13は直口壺で、内外面とした刷毛目で丁寧な仕上げを行なっている。

第17次調査地点からは、1・6・9の3点が出土した。そのほとんどが完形品で砂層より出土している。1は胴部に最大径を持ち底部がやや尖った丸底を呈する壺形土器で、外面は指頭にて押圧した後ナデ仕上げを行なっている。口径18.4cm、器高33cm、最大径25cmを測る。6は器形の薄い精巧なつくりの土器で、底部にわずかに平らな部分を残す。外面はナデと刷毛目によって仕上げられススによつて光沢のある土器となっている。口径18.4cm、器高27cm、最大径24cmを測る古式土師器の壺形土器である。9は碗で丸底の底部から内弯しながら立ち上がりそのままおさめる。口径6cm、器高5.1cmを測る。

第19次調査地点からは、2・3・4・7・8・12・14の7点が出土した。

2は内面ケズリと荒い刷毛目を施こし、外面は胴部中心に縱・横のハケ目を施こした壺形土器である。胴部から内弯しながら頸部で立上り、大きく外反して口唇部に達し、さらにわずかに外反しておさめるもので最大径は胴部にある。口径12.7cm、胴部径16.6cmを測る。3は片で胴部上位から下がない。口縁部は胴部から直角に立上り、やや外反しながら口唇部まで達する。外面は刷毛目とナデで仕上げている。口径11.6cmを測る。4は荒い刷毛目とタタキを残す壺形土器である。丸底の底部から内弯しながら立上り胴部中位で最大径を持つ。この部分から内弯しながら上に立上り頸部を境に直立し口唇部で丸くおさめている。7は口縁部が広い壺形土器で、内外面とも刷毛目で丁寧な仕上げを行なっている。口径22.8cm、胴部23.2cmを測る。8は内外面とも荒い刷毛目仕上げの壺形土器で、口径18cm、最大径が胴部にあり18.9cmを測る。14は大形の壺形土器で、頸部直下に凸帯を巡し、タタキの痕跡を持つ。内外面ともタタキの後刷毛目を施こしている。口径62.4cmを測る。

2. 石器 (Fig. 22 PL. 31)

石器は、そのほとんどが縄文後期の時期にあたるもので、1～3は石錐、5・6は切断剝片、7・8はつまみ形石器、9～13が剝片及び使用度のある石器である。4は管玉で、14は扁平片刃石斧、15が玄武岩製の石斧である。14・15は弥生時代、4は古墳時代の遺物である。

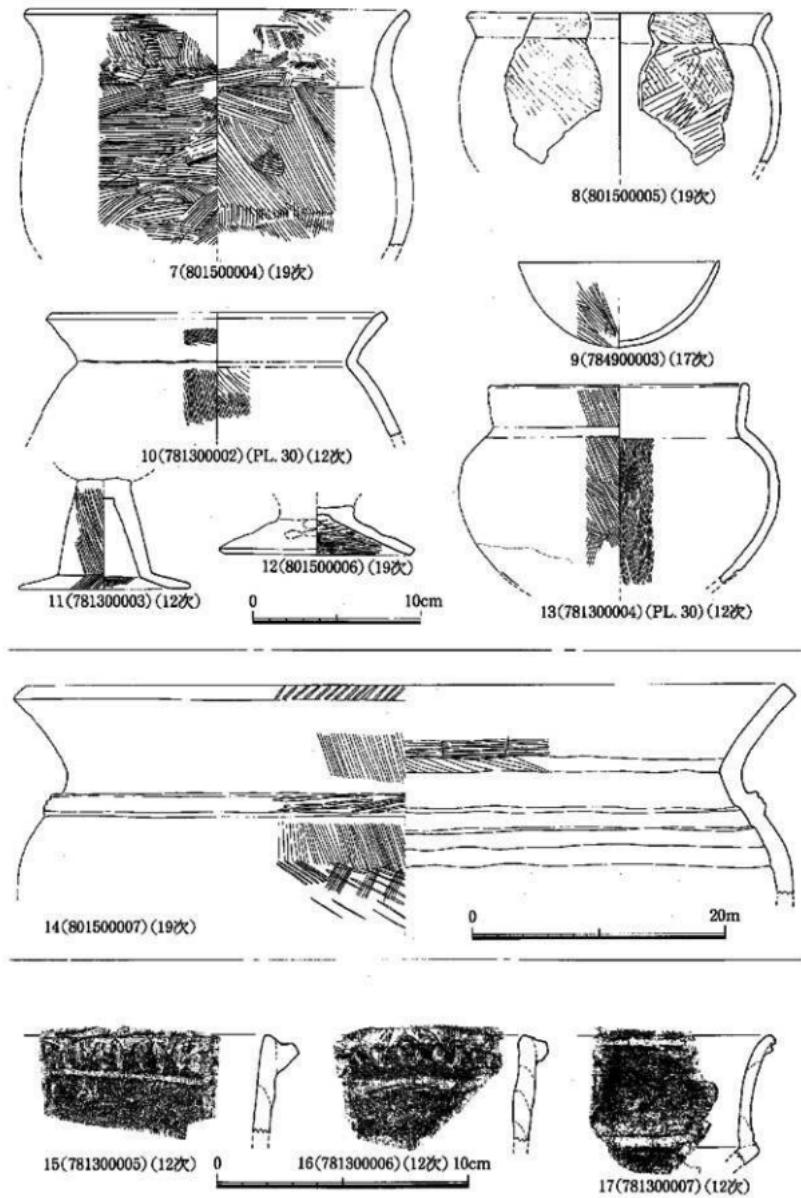


Fig. 21 山土器—2 (縮尺1/2, 1/3)

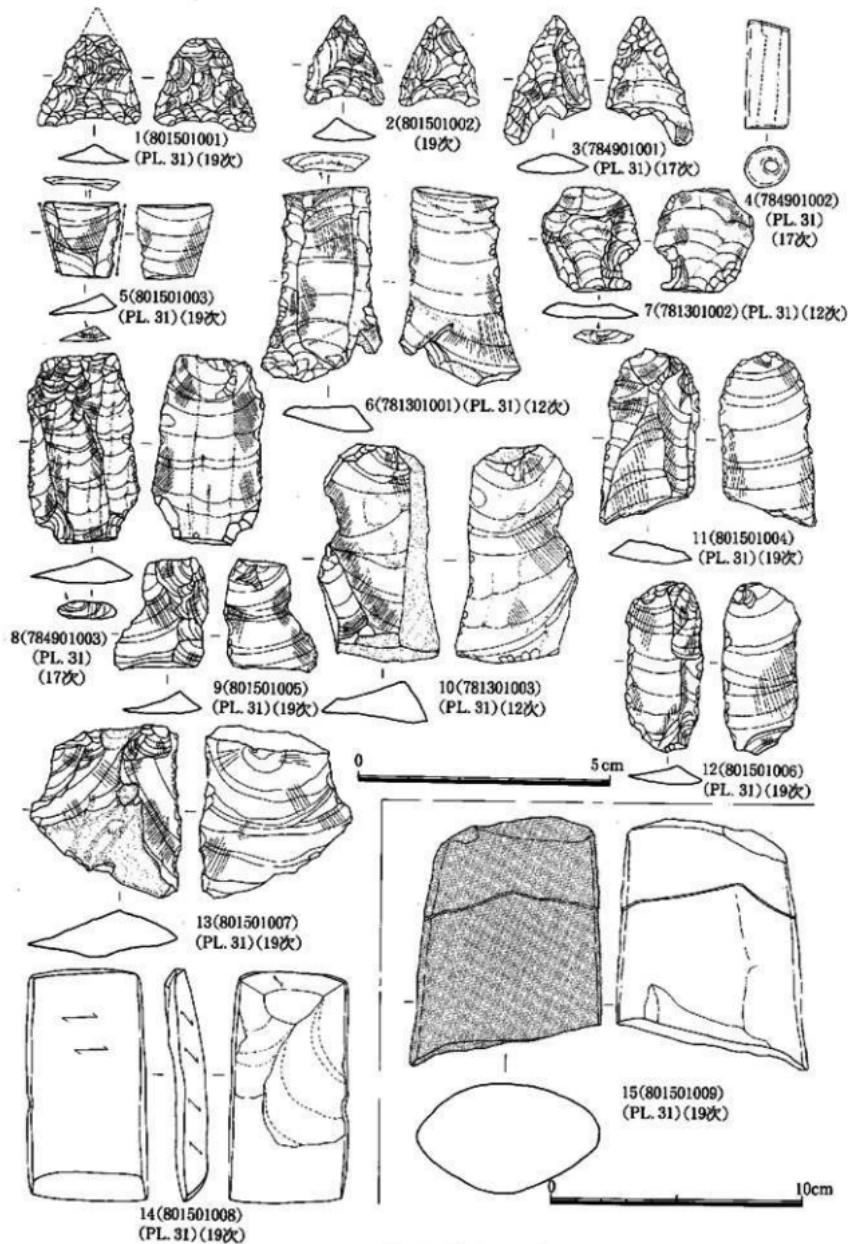


Fig. 22 出土石器(縮尺1/1, 1/2)

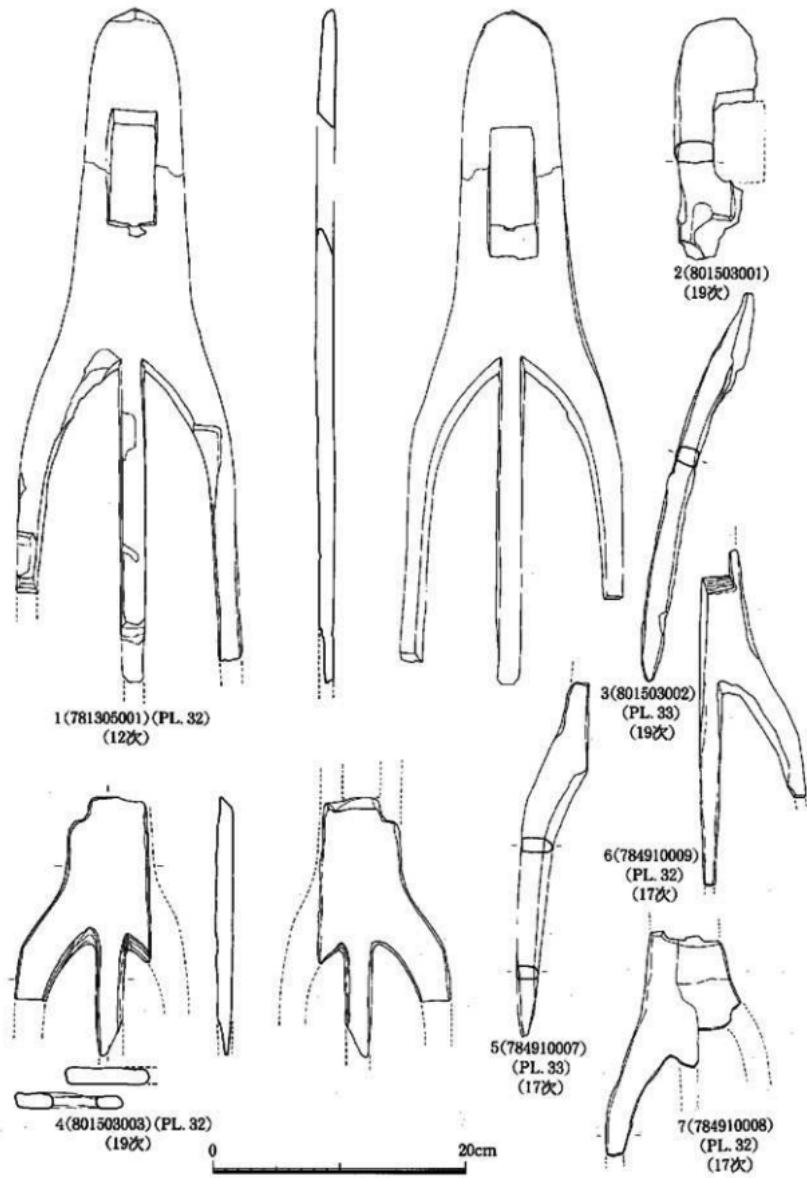


Fig. 23 出土木器一 (縮尺1/4)

3. 木器 (Fig. 23~36, Tab. 3 ~16, PL. 32~36)

出土した木製品も土器・石器と同様に機種別に組合せたため各地点が入りまじっている。挿図の下に遺物登録番号と次數・図版番号を記入したので、参照していただきたい。

農耕具 (Fig. 23~26, PL. 32, 33)

農耕具は平鋤・二又・三叉鋤・横杵・砧・フォーク状木器・容器等が出土した。

三叉鋤

1は現在長53.2cm、幅17.2cm、厚さ1.4cm柄の挿入角度が25度を測るもので、刃の部分が欠損しているが復元すると約54cmの大型三叉鋤である。柄付部分が長く、柄孔は10cm×3.4cmを測り、精巧な造りである。2から8は三叉鋤の各部位ですべてカシ材を使用している。8の柄挿入角度は48度、柄孔6.1cm×4.2cmを測る。9も1と同様に大形の三叉鋤で、刃部が異状に長い。復元長は約49.9cmとなり、最大級の三叉鋤である。現在長46.8cm、幅16.2cm、厚さ1.1cmで、柄の挿入角度は41度を測る。1は第12次調査、2~4、9は第19次調査、5~8が第17次調査地点から出土した。

二又鋤

二又鋤は4点出土した。10は第12次調査地点から出土した二又鋤で、肩がはらず刃部が長い形状を呈する。全長48.6cm、幅16cm、厚さ2cm、柄の挿入角度は57度を測り、柄孔が6.8cm×3.2cmである。断面でみると刃部の部分から薄くなり、柄孔の部分になるとかなりの厚さを持つ。先端部の造りは雑で荒い面取りを行なっているだけである。11・12は第17次調査地点から出土したもので、11のようにナスピ形の形状を持つものと、10と同じタイプの12がある。11は肩がややふくらみ丸みを持って端部に達するのに対して、12は肩がややふくらむがその後直線的に伸び、端部で丸みを持つ形状を呈する。11は全長33.5cm、幅15.5cm、厚さ1.8cm、刃部長18cmを測り、柄の挿入角度58度、柄孔4.5cm×2.7cmを測る。12は刃部と柄孔の一部が欠損しているが、全長34.3cm、幅13.8cm、厚さ0.5cmで、柄の挿入角度53度、柄孔4.5cm×2.7cmを測る。16は二又鋤の部位と考えられる。第17次調査地点から出土。

平鋤

平鋤は2点出土した。13は現在長38.5cm、幅10.2cm、厚さ1.5cm、柄の挿入角度57度、柄孔6.4×3.3cmを測り、下端部の刃部が欠損している。14は柄の挿入部位が欠損しているが、復元すると最上端に柄孔があり、柄孔の大きさは推定で3.7×3.1cm、柄の挿入角度46度である。刃部は両面からの加工によって仕上げられ、全長37.7(復元長40.5)cm、幅15.3cm、厚さ1.2cmを測り、2点とも第17次調査地点から出土した。

フォーク状木器

15は二又の刃部を有し、刃部上段に段を持つ組合せ式フォーク状木器と考えられる。刃部上部の段は厚さ2.8cmに対して、段より上の部分は薄く仕上げられており0.6cmしかない。段の上に組合せの鉤形が入り結びつけるものと考えられる。現在長28.8cm、幅9.1cm、厚さ1.7cm、刃部の径1.9cmを測り、第17次調査地点から出土した。

砧

17は握手部分が丸の形状を呈し、打撃面は台形を呈する。一見土器造りのタタキに用いる砧と考えられるものである。全長26.6cm、握手部分の径2.4cm、長さ14.8cm、台形部分の長さ11.6m、幅5.2×3.8cmを測る。打撃面には彫刻はない。20は全長35.5cm、幅6.4cm、厚さ5.8cm、握手部位の長さ12.5cm、径が2.1cm、末端部の径が2.7cmで握りやすい形状を持つ。打撃面は隅丸方形を呈し、精巧な造りである。2点をも第17次調査地点から出土した。

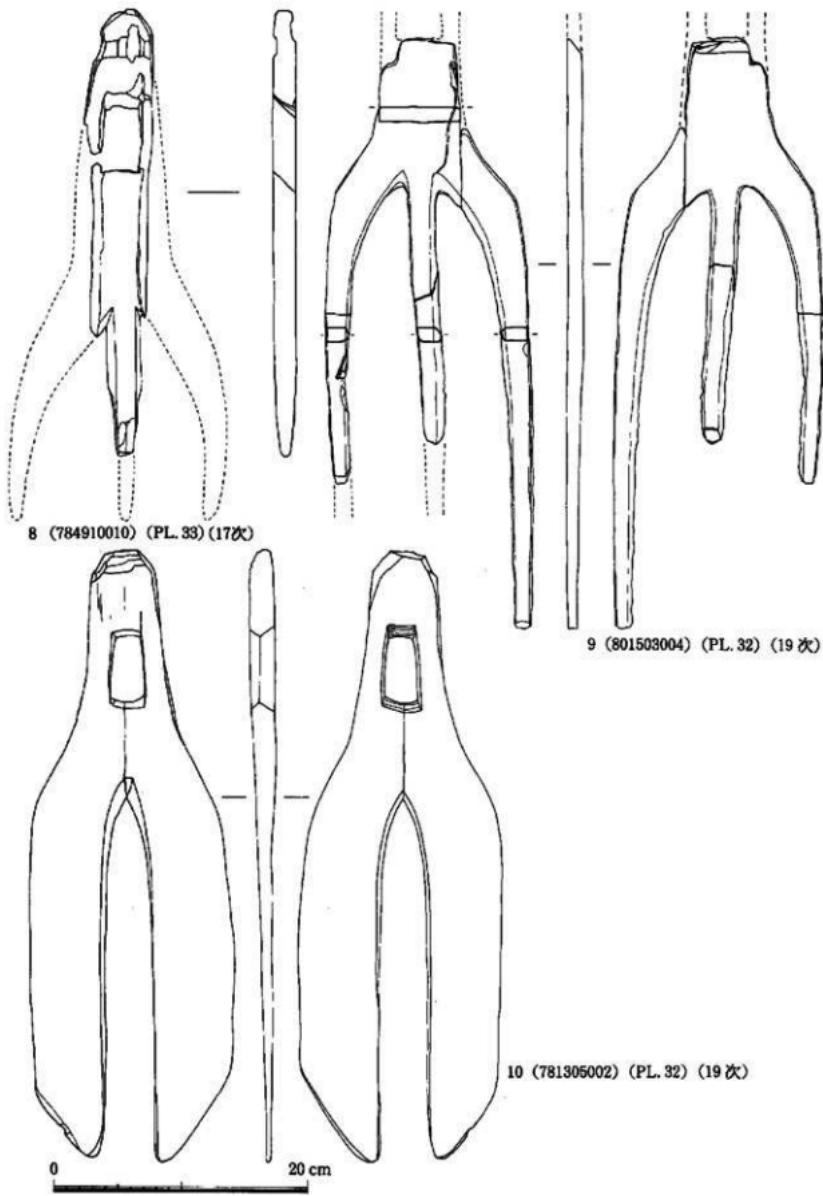


Fig. 24 出土木器—2 (縮尺1/4)

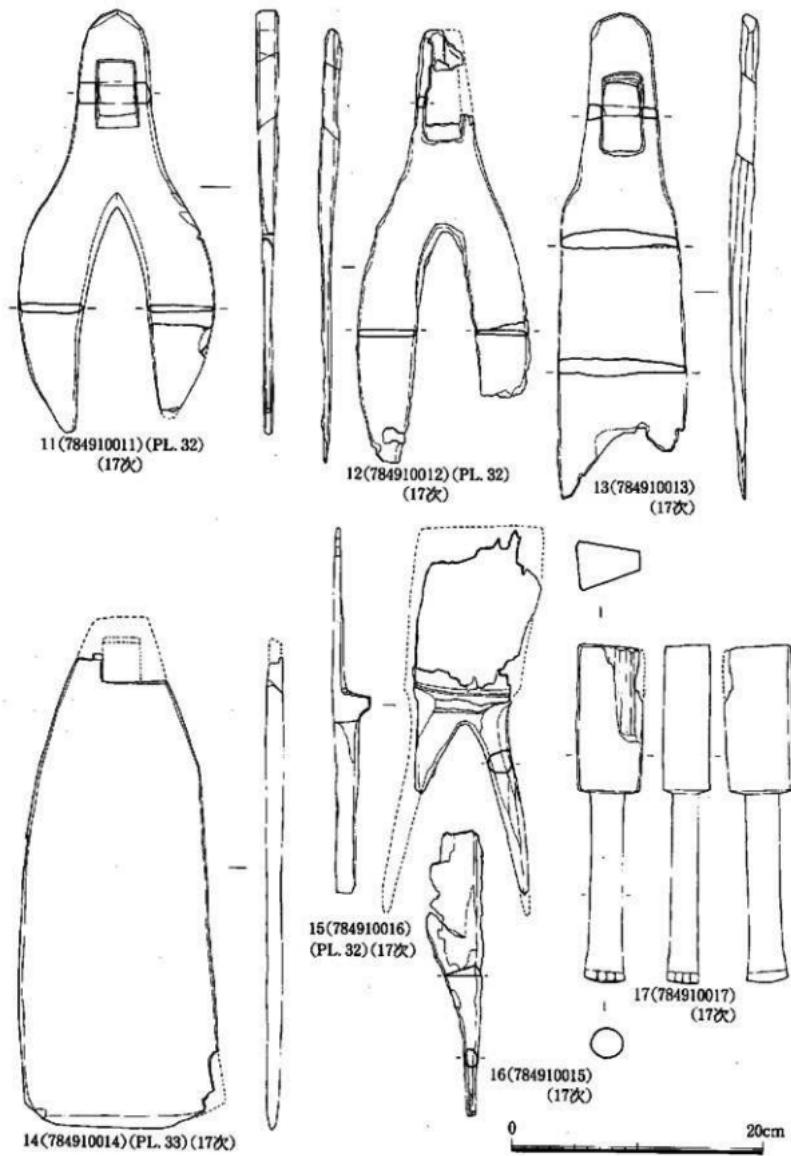


Fig. 25 出土木器—3 (縮尺1/4)

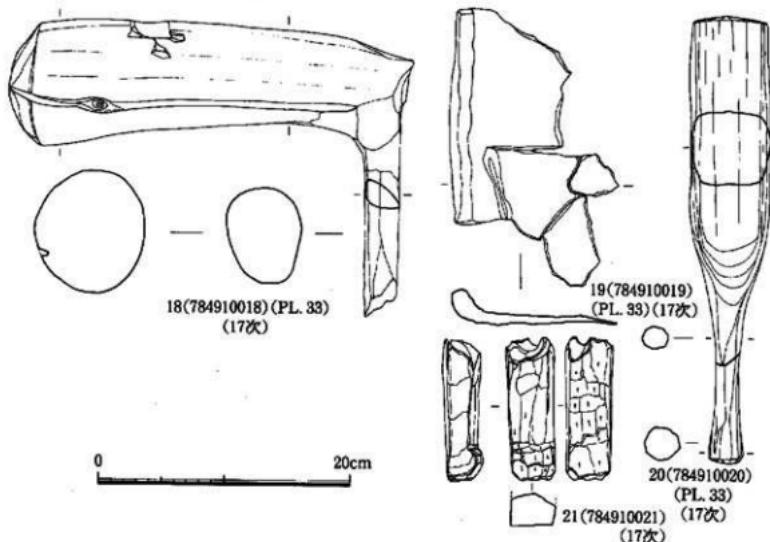


Fig. 26 出土木器—4 (縮尺1/4)

横杵

18は横杵である。古墳時代初期の段階で横杵の出土は最初のものであろう。素材となった木の基部を杵の先端として丁寧な面取りを施こし、枝の部分を握手部分としたもので、先端部と握手の角度は90度近くはある。全体に精巧な造りで、杵の部分の長さが31.4cm、直径が8.5cm、柄の現在長が14.9cm、径が2.8cmである。柄と杵の接合部位は丁寧に面取りがなされている。第17次調査の壇状遺構内より出土した。

容器と組合式鍬のくさび

19は容器状木器かえぶりであろう。器厚が薄い部分があり、これで終了しているかどうかはさだかでない。端部が立上り稜を持つことから容器とも考えられる。現在長21.9cm、厚さ2.3cm、幅13.2cmを測る。

21は鍬類の柄に付随するもので、組合式鍬のくさびである。先端部が欠損しているが、現在長11.3cm、幅2.7cm、厚さ2.5cmを測る。25,27とも第17次調査地点から出土した。

建築部材 (Fig. 27~33, Tab. 4~16, PL. 33~36)

建築部材としたものでも柱材。又木材・割材・梯子等さまざまな用途に使用されたものが、二次的に壇状遺構の素材として利用されたものである。

柱材

22は長さ4cmの梁である。ほぞを両端に持ち、全面を面取りしている。第17次調査地点の壇状遺構の基盤となる横木として使用されたものである。下端部は、厚さが薄くなり、約16cmを半割してほぞの部分を作り上げている。上端は両側から加工を加えて先端部を尖がらす形状を持つ。幅8cm、厚さ7.2cmを持ち、先端部の幅は1.2cm、厚さ0.5cm、下端部の幅は1.3cm、厚さ0.6cmで、下端部がややそりぎみである。

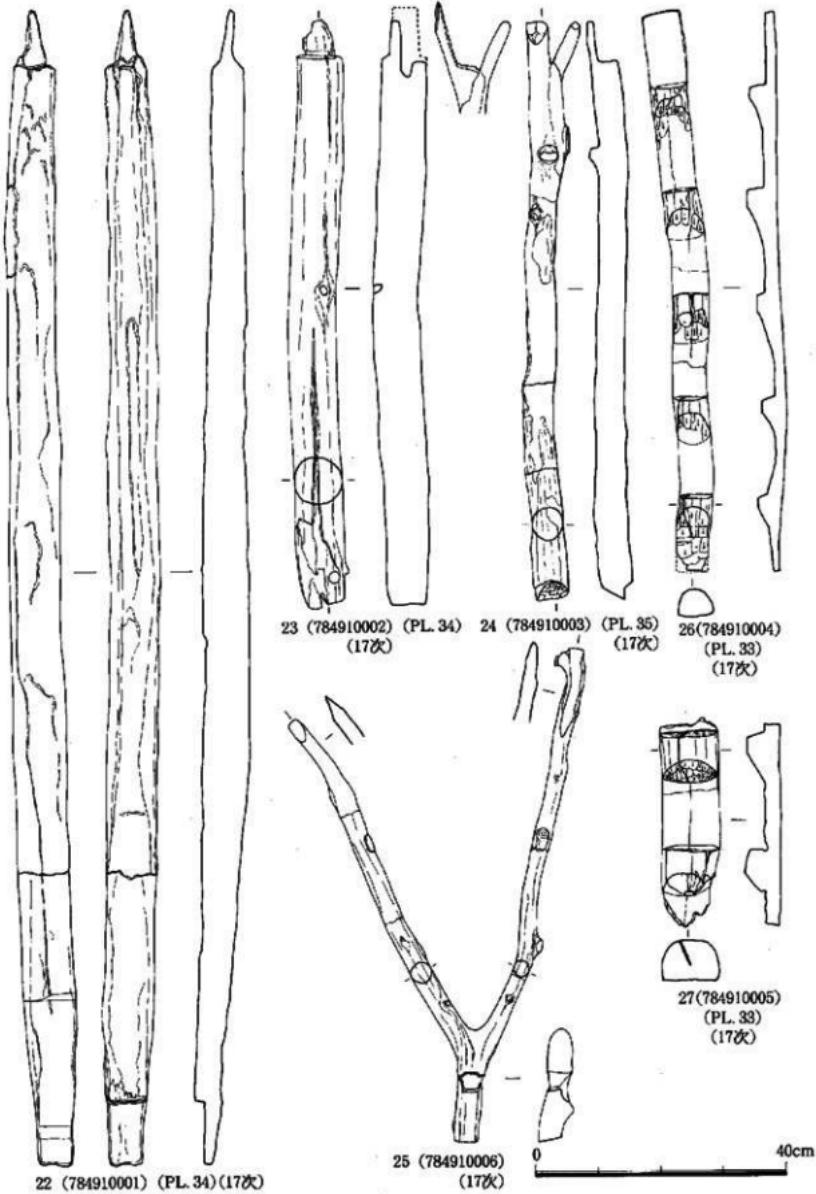


Fig. 27 出土木器—5 (縮尺1/8)

23はほぞを持つ柱材で、下端部は垂直に切りとられ面取りされている。上端部のほぞは、両側からの加工ではほぞの部分を造り上げている。全長185.5cm、幅15cm、直径7.2cmで、ほぞの長さ5.6cm、厚さ2cmを測る。

24は先端部が二又となり中央部を平坦とし、聚を受ける部分を造り出している。下端はやや斜めに切断し面取りを行なっている柱材である。長さ92cm、直径4.8cm、二又の部分の長さ7.2cm、受部幅4.8cmを測る。

25は二又材であるが、先端部の両端がV字に尖り下端は垂直に切断している。下端の二又に分かれる部位下にはほぞ穴があり、ほぞ穴の長さ・幅は3.2×3.2cmである。使用された可能性は柱材であるが、二又の尖がる部位が床面に入り、ほぞ穴を持つ部分が上位になる状況が考えられる。全長78.4cm、直径3.2cm、2.4cm、二又部分の長さ48.8cm、60cmを測る。

梯子

26、27は梯子である。26は完形品で、第17次調査地点第4壇状遺構の最下面縦木として使用されたものである。5段で形成されその造りは丁寧である。1段目から2段目の長さは15.2cm、2段目から3段目が16.4cm、3段目から4段目が16.8cm、4段目から5段目が16.4cmを測る。全長88.8cmで、幅6.4cm、厚さ4.4cmで、材の半分程度を半割して作ったもので、端部の厚さ1.6cmと薄く梯子としては小型の部類に入る。27は両端部が欠損しているもので、第17次調査地点第1壇状遺構上面から出土したものである。現長33.2cm、厚さ8.8cm×6cm、幅9.2cmを測る。

28~30は柱材で、28、29は末端部の先端部は尖り、先端部は平坦である。杭とも考えたが、全長160.3cm、直径8.8cm程であるため、杭ではなく、柱材であろう。30は先端部がほぞを持つ柱材で、末端部は平坦に仕上げられている。枘の部分は両側から加工し、中心部を残すもので、枘の長さ20.4cm、幅3.2cm、厚さ1.9cmを測る。全長は174.1cm、直径11.7cmの丸太材を使用している。

32、34、37、41は柱材で、枘の切込みを持つものである。32は「コ」状の切込みを持つ建築部材である。末端部は欠損しているため全様を知りえないが、組合せるための切込みであろう。切込部の長さは7.6cm、幅3.8cm、厚さ8.3cmである。全体に面取りされており、先端部の加工は丁寧である。

34は先端部が二又に造られたもので、末端部は周辺部からの面取りで尖り、末端部の径は12.6cmを測る丸太材である。先端部は、二又を利用したものではなく意識的に二又に造り出しているもので梁材に二穴の枘穴を設け刺し込み式の柱材と考えられる。枘の長さは推定21.6cmで厚さ4cm、幅6cmと小さい方が長さ3.6cm（推定21.6cm）、幅3.6cm、厚さ2cmを測り段を持ち受の部分を造り出している。全長は204cm、直径12cmと12.6cmである。37は枘の部分だけが末端部は欠損している。枘部の長さは12.6cm、幅2.4cm、厚さ2.4cmで、二面からの加工により枘部を造り出している。現在長28.3cm、幅5.6cm、厚さ3.8cmである。41は丸太材の先端部の長さ5.6cmの所から丸太材の約2/3を削りとり幅6.4cmの枘部を形成している。厚さ2.8cmを測る末端部は欠損しているため完形ではない。丸太材の縁部は全て面取りをされている。現在長153.1cmを測る。

二又材

二又材には二種類ある。35、51、55、67に見られる又木の又の部分を先端部に配し、柱状となるものと、25、31、36に見られる様に末端部から二又に分かれ、先端の両方が尖がるものがある。これも二つに分けられ、枘穴を持つもの25、36と持たないものに分けられる。

35は先端部が二又となり両端を同じ長さ位に切断し、末端部は尖らず平坦で面取りを行なっている。全長157.2cm、末端部の直径11.4cm、二又部分の長さ15.6cm、18cm、直径10.2cmを測る柱材であり、樹皮はない。

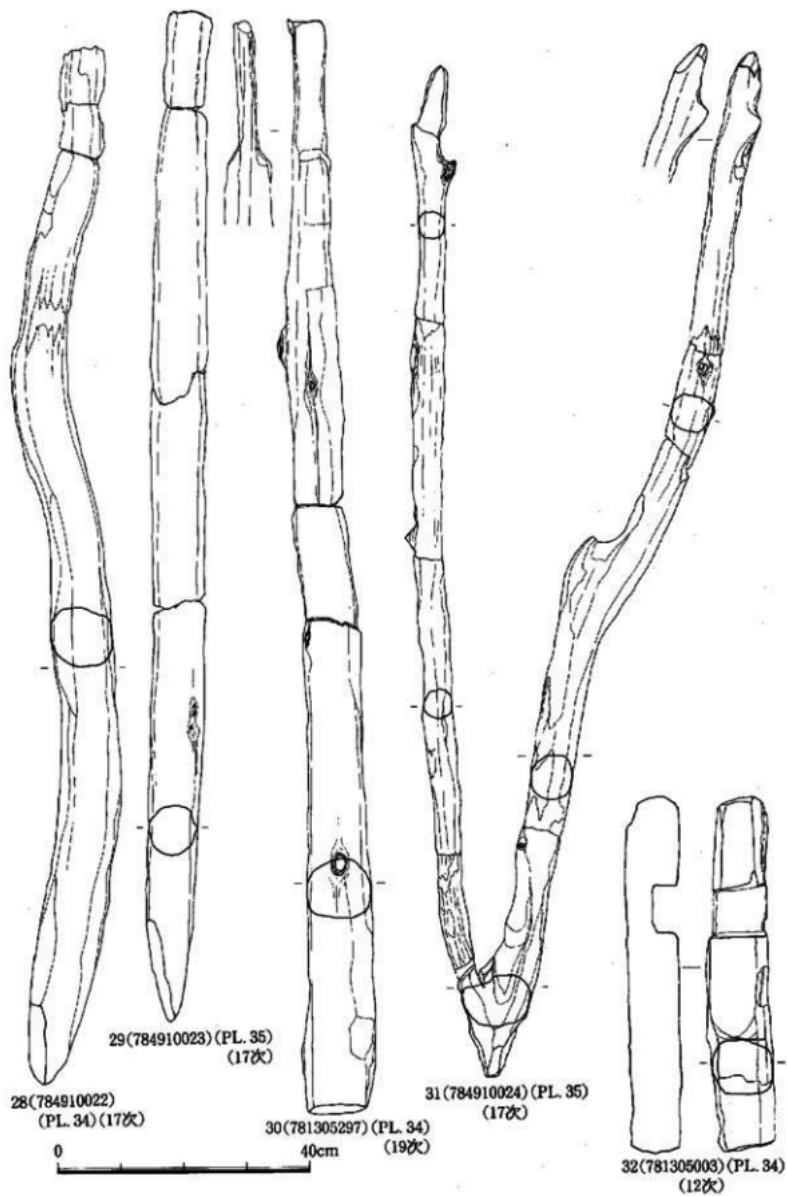


Fig. 28 出土木器—6 (縮尺1/8)

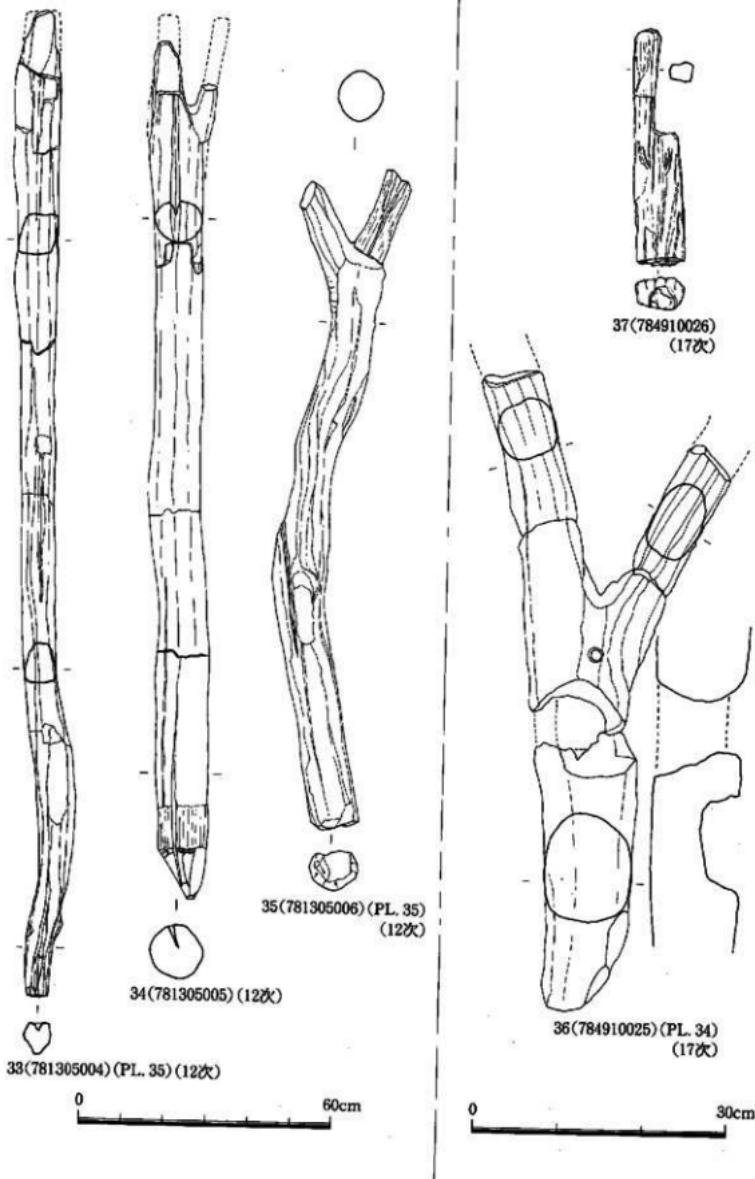


Fig. 29 出土木器—7 (縮尺1/6, 1/12)

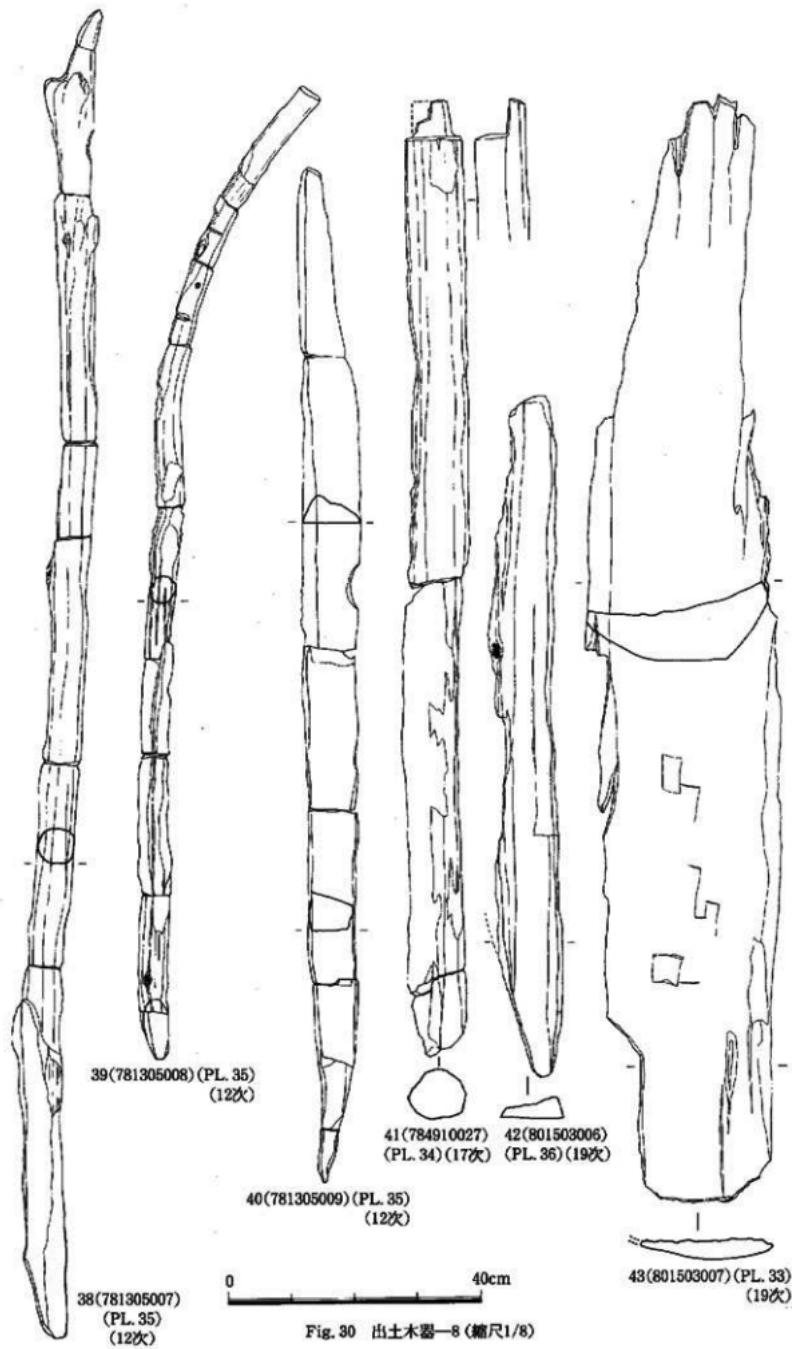


Fig. 30 出土木器—8 (縮尺1/8)

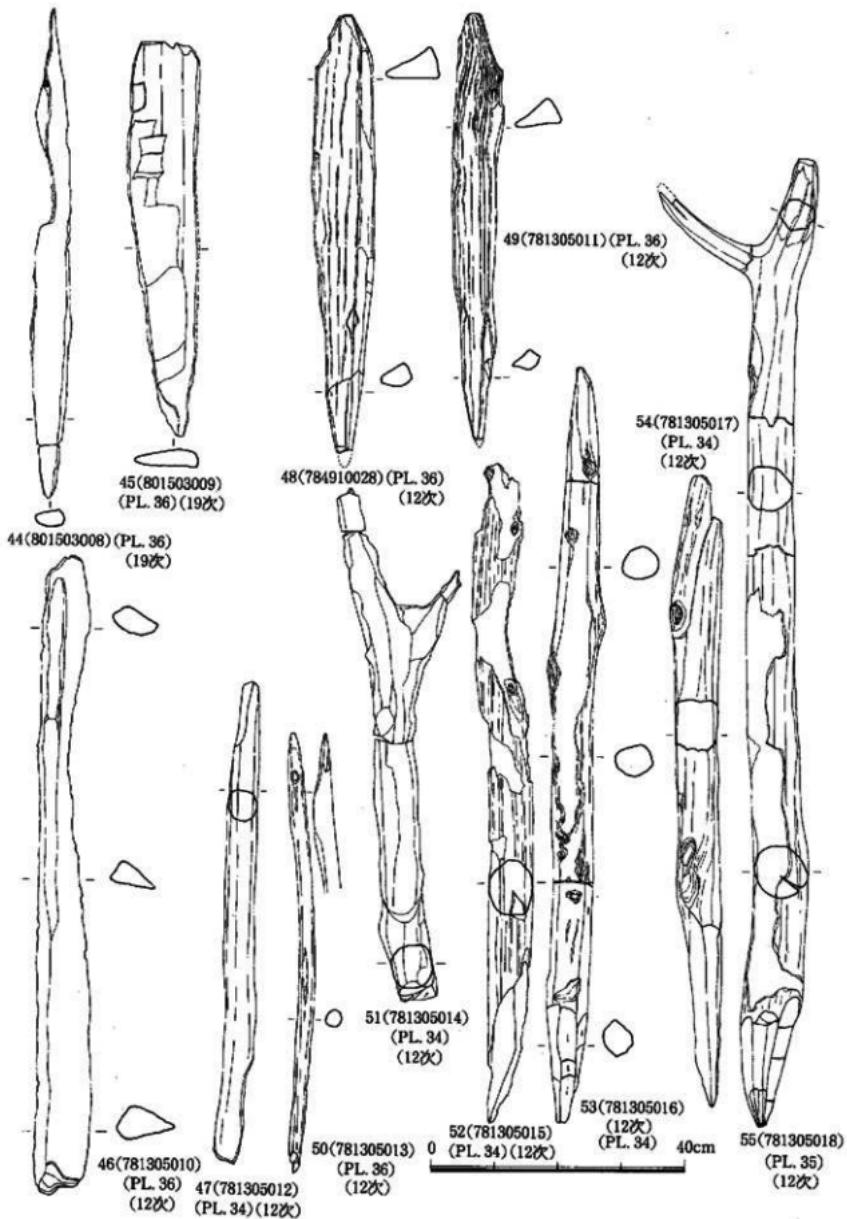


Fig. 31 出土木器-9 (縮尺1/8)

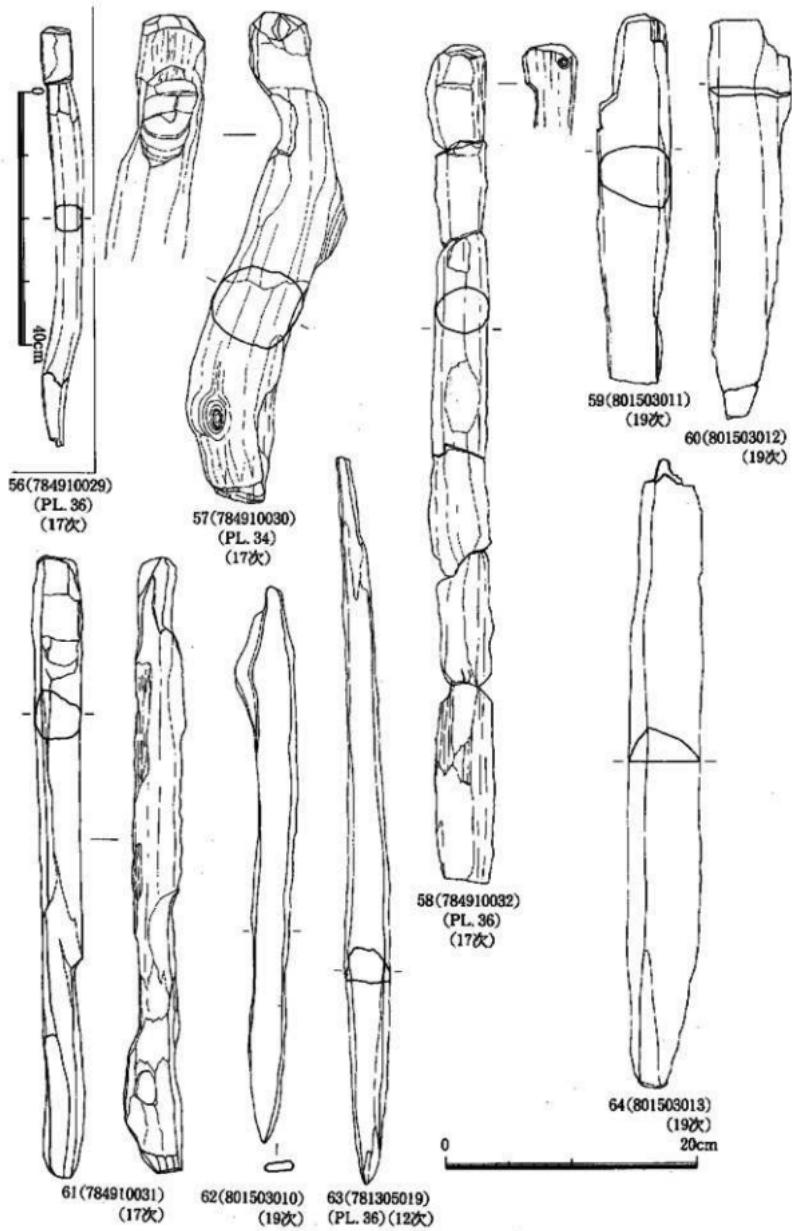


Fig. 32 出土木器—10 (縮尺1/4, 1/8)

51は末端部が欠損しているが、先端部が二又の部材を利用している材で、二又の長さが異なる。又木の部分は平坦面を造り出し材が安定する様に造られている。現在長81cmで直径13.9cmの丸太材を使用し、又木の長さ25.1cmと12.5cmであり、直徑5.2cm、2.1cmを測る。55は末端部を面取りし尖がらせたもので表面には皮を残す。先端部は「Y」字状を呈する又木で端部は面取りを施している。全長101.2cm、直徑8.8cmの丸太材で、又木の部分の長さ18.4cm、3.2cm径14.4cm、5.6cmを測る柱材である。67も先端部が「Y」字を呈する又木で末端部は欠損している。又木の部分は横木をのせやすい様に加工を施しておらず、先端部自体にも面取りを施している。現在長89.8cm、直徑4.4cmの丸太材である。31は基部（末端部）から二又に分かれているもので、末端部自体も面取りを行ない尖がらせてある。先端部は両側から「V」字形に尖がらせている。全長164.3cm、基部径12.9cm、又木径6.4cm、4.8cmを測る。36は25と同じ基部に納穴を有する材で、先端部は欠損している。納穴の大きさは6.5×5.6cmで、現在長76.1cm、直徑11.8cmを測る。

両端が加工された材

杭ではなく両端が加工された材は、33・38・39・47・53・64・72・73・74・76の10点ある。3地点を合せると65点であるが代表的な10点を図示した。ほとんどが丸木材であるが33・64の2点は面取りされた物である。材の中には直線的に伸びる物33・38・47・53・64・72・73と弯曲する物39・74・76とがある。33は末端部が欠損しているが面取りが残っており先端が尖る形状を呈する物と思われる。先端部は片側からの加工が施され「V」字形を呈し、全面に面取りされ、長さ234cm、厚さ9.6cm、幅8.4cmの材である。38も両端が尖るもので、全長212cm、直徑5.6cmで面取りは行なっていない。

39は先端部が欠損しているが、76も同じくおそらく尖るもので、意識的にこのような弯曲した材を用いたとしか考えられないものである。現在長155.2cm、直徑4cmを測る。47は全長76.4cmの両面加工材である。先端部はやや尖りぎみに加工を加えているが、末端部は丸くおさめるもので、全面に面取りがおこなわれこれで完形品と考えられる。用途は不明。53は全長120cm、直徑6.4cmの両端が尖がらせたものである。72は全長147cm、直徑4.8cmの丸木材で末端部は尖り、先端部は平坦面である。73は全長109.2cm、直徑4.8cmの丸木材で、末端部が尖り、先端部は尖りぎみに加工を施し、樹皮は残っている。74は全長138cmで、直徑5.4cmを測る。両端とも加工を施し細くなるが、尖がってはいなく平坦である。76は全長120cm、直徑9cmの完形品で、両端とも面取りを行ない尖がらせている。樹皮は一部に残っている。

割板材

割板材は40・42・44・45・46の5点である。3地点を合わせると88点出土している。40は全長168cmで、断面が三角形を呈する部分と四角形を呈する部分があり、三角形の部位では幅が9.2cm、厚さが4.8cm、四角形の部位では幅7.6cm、厚さ6.4cmである。1枚の割材で16分の1で原材の大きさは直徑32cm程度の材であったと思われる。両端とも尖り、丁寧な面取りを両端及び表・裏面に施している。42は全長108cm、幅10.4cm、厚さ3.2cmで、分割割合は、稜がきれいに面取りされているために不明である。上端部と側面が欠損しているが、先端部は尖りきれいで面取りされている。44は全長78.4cm、幅4.8cm、厚さ2.4cmの割材で、約8分の1割材で原本の大きさは12.8cmである。両先端とも尖り、表・裏ともきれいで面取りされている。45も全長62.4cmの割板材で、幅12cm、厚さ4cmを測り上端部は平坦、下端部は片面からの加工で尖がらせている。表面に面取りの痕跡が残る資料である。46は下端部が欠損し全容は定かでないが、現在長104cm、幅8cm、厚さ5.6cmを測り、6分の1割材と考えられ、20cm前後の原材を割ったものと思われる。

樋状木製品

43は樋状木製品である。第19次調査地点の石組壇状遺構の上部に設置されたもので、長さ174.4cm、幅30.4cm、厚さ9.6cmで中央部が厚く上下端は3.2cmしかない。中央部裏面は、平坦面を造り出しており、これを復元し原木の大きさを計算すると径0.7~1mのものを約3分の1割材とし、内面をわずかに削ませて樋状木器としている。表面（内面）は面取りの痕跡残している。

布巻具

56は布巻具と考えられるもので、湯納遺跡（今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集、1976）にこれに類似した遺物（第108図、布巻具）があり、下端部は欠損するが長さ62cmを測るもので先端部の形態が多少異なるがほぼ同様な形状を呈するものである。全長は66.4cm、直径4cm、上端部から加工部分までが7.2cm、削り部分で内部に凹みを持つ部分が6.4cmを測る。下端部は先端が尖っており、杭の代用品として使用されたとも考えられるが、出土した状態は横木として利用されていた。

先端部に加工を持つ材

先端部に切り込み等を持つ材が、3地点でかなり出土した。その代表的な遺物を図示した。先端部に凹状に切り込みを持つ材は、57・58・59・66の4点を図示した。57は下端部が欠損しているためその全容が不明であるが、先端部より下へ4cmの所に凹状の切り込みを有する。大きさは8×4cmで切り込み部は4cmある。現在長39.2cm、直径6.4cmを測る。58も上端に切り込みを持つが、形状は「匁」状を呈する。上端は丁寧に面取りされ、上端から下へ2.4cmの所から切り込みを入れている。現在長66cm、直径4.4cmを呈する。59は原材料の四面を面取りしている材で、上端部に「匁」状に切り込みを入れている。切り込み部の長さは7.6cm、幅は2cmである。下端部は欠損しているため全容は明らかではないが柱材となるものかもしれない。現在長29.2cm、幅5.6cm、厚さ4.8cmを測る。

66は下端部が欠損しているため全長は不明であるが現在長134cm、直径4.8cmの丸木材の上端部に二ヶ所の切り込みを有する。上端部にある切り込みは端部から2.4cmの所から下に5.4cm、幅が4.2cm、深さ1.5cmあり、その裏面にも同じ様に長さ3.6cm、幅が3.5cm、深さ1.5cmの切り込みを造り「尻」状にしている。他方の切り込みは、上端から下に13.2cmから「く」字状に加えられ、長さ6.6cm、幅4.2cm、深さ1.8cmを測る。

矢板

矢板は、3地点全体で275点出土した。第12次調査地点で38点、第17次調査地点で100点、第19次調査地点で137点出土した。遺物全体の残りが良かった第19次調査地点からが主であった。その代表的な遺物だけを図示した。48・49・60・61・62・63・65・69・70・78~86の17点を図示したが、矢板としたものでも原本を面取りした61・62・69もある。他はほとんど2分の1割材から8分の1割材まで、上端が平坦で、下端が尖る形状を呈している。特に60は板材としては最高に薄く剥ぎ取られ厚さ0.8cmを測る薄さである。

丸木材

丸木材は3地点でそのほとんどの90%程がしめられており、第12次調査地点で196点、第17次調査地点で347点、第19次調査地点で347点出土したが、これも遺構の遺存状態が良かった第19次調査地点が主である。その代表的な遺物52・54・66・71・75・77・79~94の14点を図示した。丸太材（直径5cm以上のものを丸太材、5cm以下のものを丸木材として扱う）も多く、図示した75・77・88・89・91~94がその部類に入る。

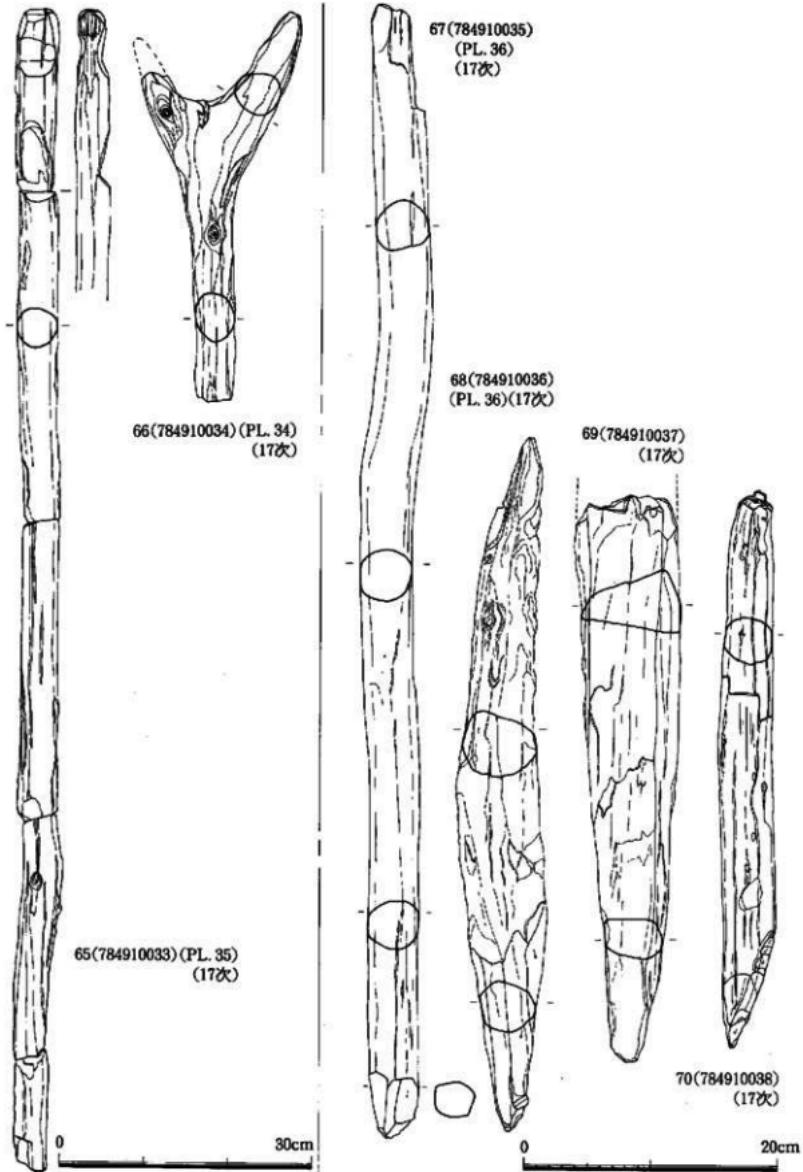


Fig. 33 出土木器—11 (縮尺1/4, 1/6)

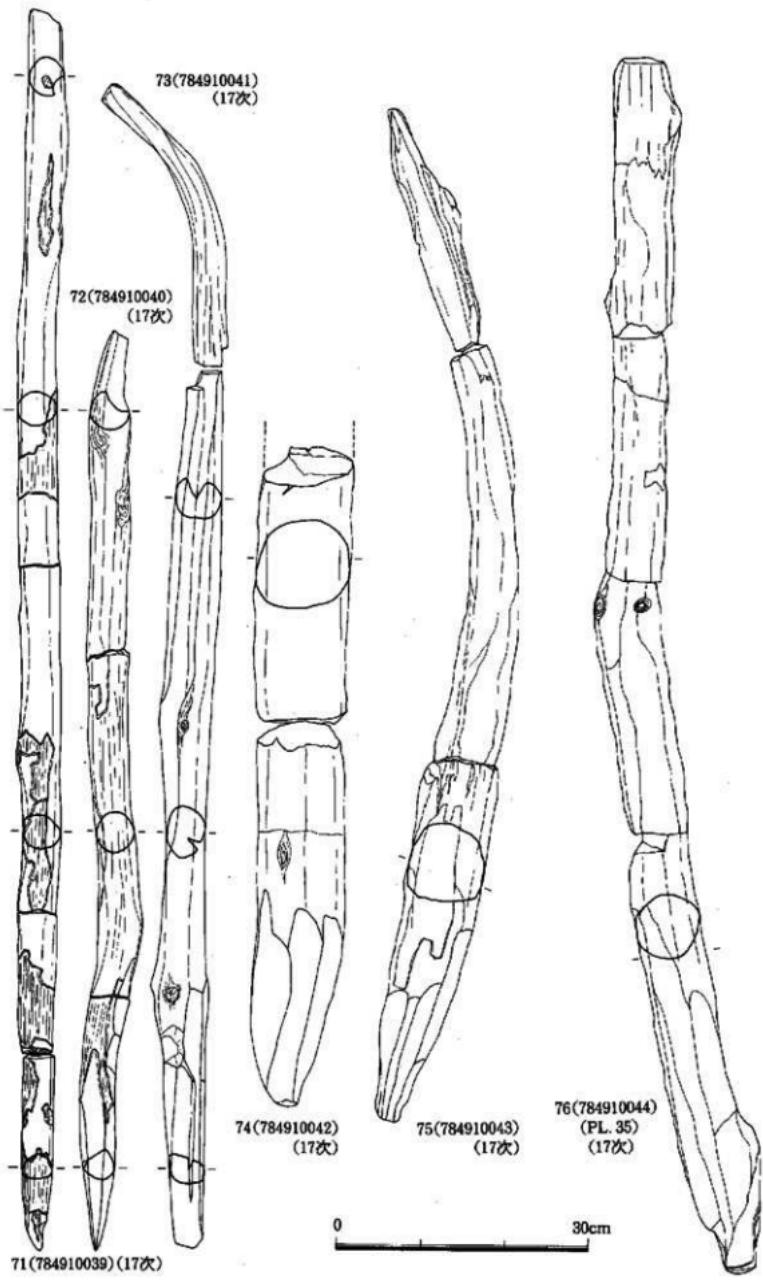


Fig. 34 出土木器—12 (縮尺1/6)

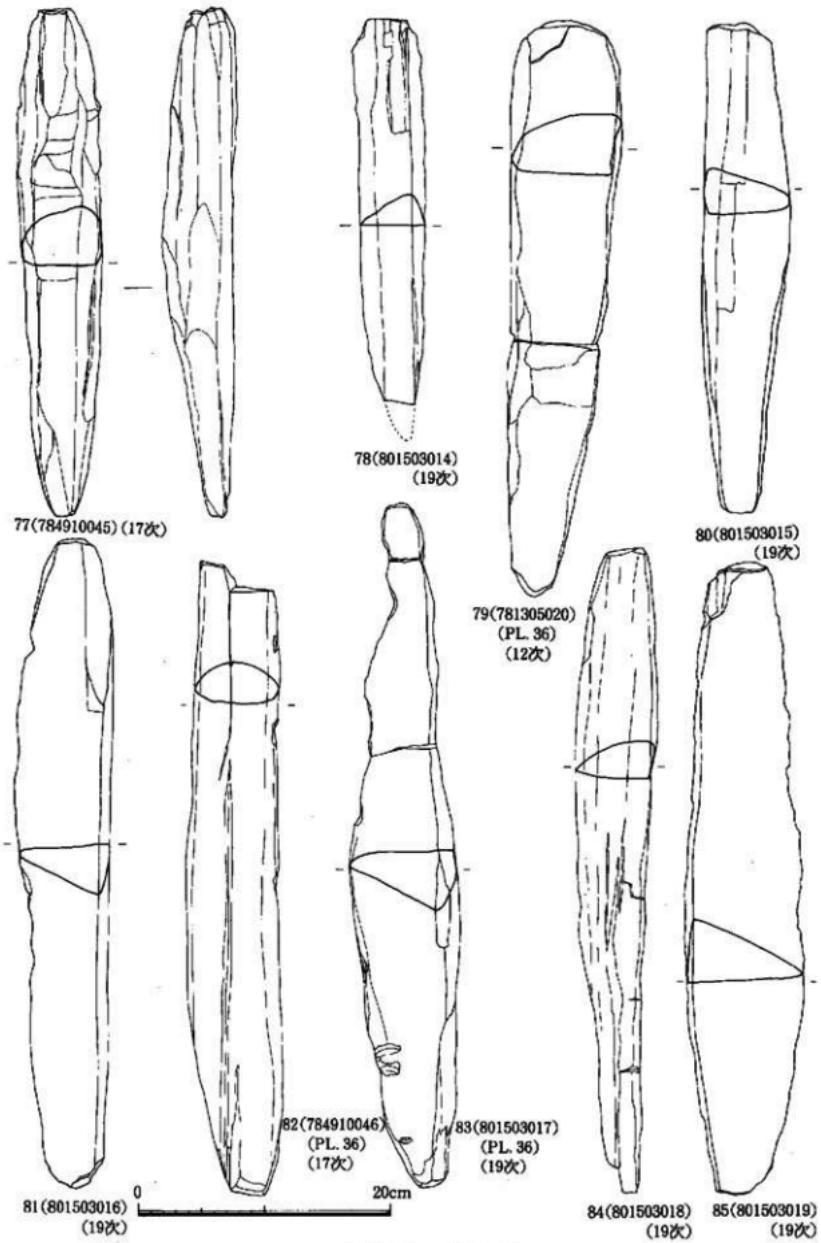


Fig. 35 出土木器-18 (縮尺1/4)

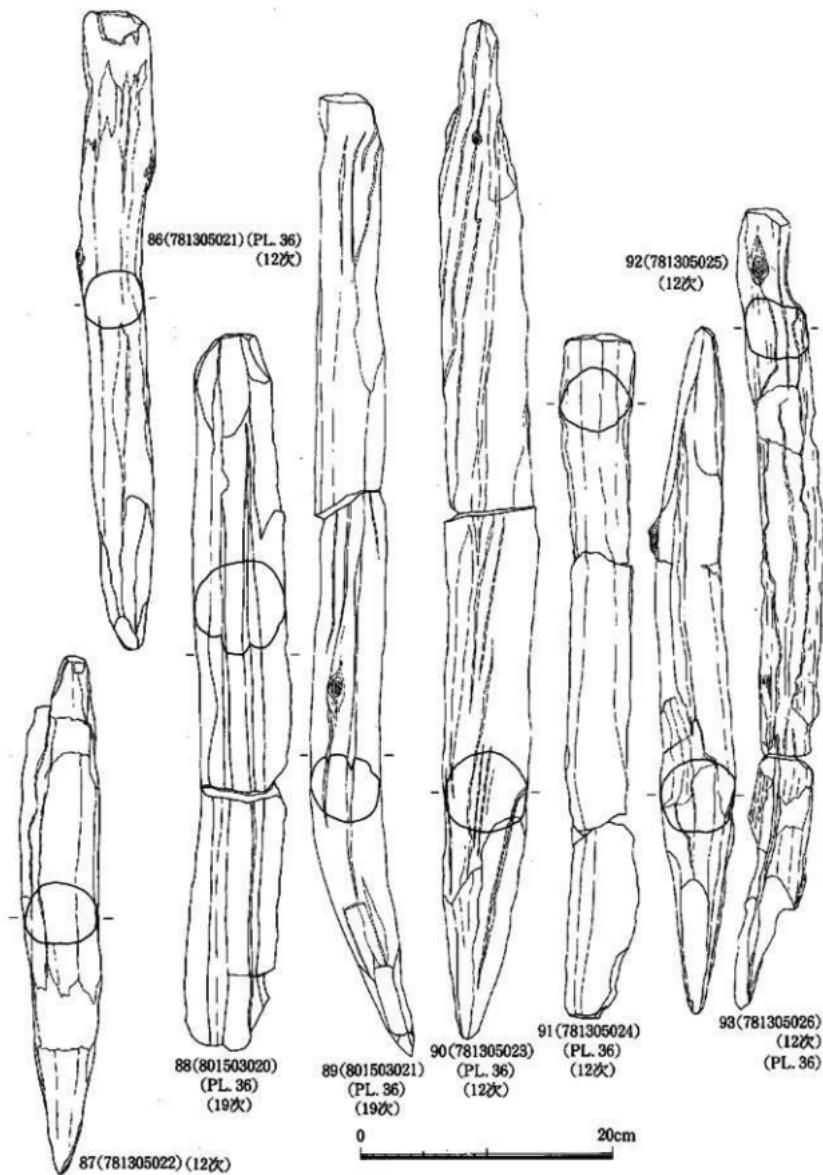


Fig. 36 出土木器—14 (縮尺1/4)

第五章 小 結

今回報告した3地点はすべて近接しており、同一遺構が南から北に存続している一遺跡であり、遺跡全体から考察すると、来年度報告予定地点の第13～15次調査地点から発した水路に伴う遺構であり、今回報告した3地点を通り、大きく西北側に方向をかえ第5次調査地点(J-10a～f地点)を通りさらに北上していくものと思われる。第19次調査地点から分流した支流は北に向けて流れ、四箇遺跡C地点(第6次調査地点)と言う。ちなみにE地点を第3次、D地点を第1調査地点(Tab.2参照)として取り扱う)に流れ込み第6次調査地点の東側には、第2微高地東側に沿って流れ来た水路が第6次調査地点の東側に認められ、第6次調査地点で大きな水路としてそれぞれの支流をここに集めてさらに北へ向って流れている。第2微高地の東側を流れる水路は、弥生時代中期には水路として活用されており、第3次調査地点には水路を畦畔が検出され水田が存在していたことが判明した。また第3次調査地点の東側には第1次調査地点が広がり、この部分にも南からの水路が確認され、凹地から建築材が多量に検出されている。

今回の報告で、第2微高地西側の低湿地に水路及び堰状遺構が検出され、水路が分流し第1微高地の西側を通る水路(第6次調査地点の水路へと続く)を発見でき時期も第6調査地点と同じ古墳時代初期(布留併行期)に比定できる。

第1微高地と第2微高地を通る水路に関しては、調査に至っていないが、おそらく人工的に掘削された水路と考えられ、第6次調査地点への水を確保するために造られたと考えられる。

第17、19次調査地点で確認されたD水路とF水路には堰状遺構が構築されているが、この部分の第2微高地は中央部に位置し、D水路、F水路が合流し微高地を切断する水路が通る可能性も考えられる。しかしあ未調査であるためとK-11d地点の試掘の結果では微高地が存在することから今回は、第2微高地からの水を塞き止めるために造られた堰状遺構として考えておきたい。

堰状遺構

堰状遺構は大きく分けて7つが検出された。主に第2堰状遺構(第17次調査、2・4堰状遺構)には数多くの建築材が用いられるとともに又木を使用したもの、先端部に抉入部を造り、その部分によって固定している材等が出土し、大規模事業であったことを物語っている。第19次調査地点では、石と杭列によって堰状遺構を造り上げ、E水路(第6次調査地点に通じる水路)への調整と護岸の役割を果している。また第6堰状遺構は、第4凸地と第6凸地とを連結するがごとに橋状に杭列が打ち込まれており、水の調整とともに凸地への連結部としての役割をも持っていた可能性がある。

第4凸地沿に杭列が検出された。この杭列はすべて丸木杭で構成されており、杭上部に小枝、藁束で編んだ状態が検出されている。またF水路の第7堰状遺構にも堰状遺構の上面に筵状の編物が検出され、保護の役割を持っていたと考察できる。

参考文献

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第4集	1976年	福岡県教育委員会
福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	1977年	福岡市教育委員会「四箇周辺遺跡」(1)
" " 51集	1980年	" " "
" " 172集	1987年	「四箇遺跡」

Tab. 3 第12次調査地点出土杭・木器出一覧一

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)				樹皮	備 考
			長	幅	厚	径		
K-10 a 第12次 調査地点	1 C						流木	
	2 C						流木	
	3 C 76.5			4			流木	
	4 C 59			3			流木	
	5 C 102			8			流木	
	6 C 168.5			5			流木	
	7 A 196			5			流木	
	8 C 27.5 4	5					流木	
	9 C 137.5			8			流木	
	10 C 137.5			8	○		流木	
	11 C 6.5 5	3.5					○ 流木	
	12 C 108			2.5			流木	
	13 C 88			8			流木	
	14 C 54			4			流木	
	15 C 168		7.5	7			流木	
	16 A 33			4				
	17 A 40			3.5				
	18 A 46			5.5				
	19 A 90			4.5	○			
	20 A 51			3.5				
	21 B 37.5 5.5 4							
	22 A 90			4.5				
	23 A 99.5			8.5				
	24 B 99.5 6.5 4							
	25 B 56.5 7 1.5							
	26 B 38 5.5 4.5							
	27 B 36.5 12.5 4				○			
	28 A 78			5.5				
	29 A 102.5			6.5				
	30 A 76.5			5				
	31 A 117			2				
	32 B 54.5 14.5 5							
	33 A 67			4				
	34 A 135			4.5				
	35 C 100			4	○		樺木	
	36 A 70			5				
	37 B 34 1.5 1.5							
	38 B 47 10.5 3.5							
	39 A 34			3.5				
	40 C						流木	
	41 B 8.5 3.5 2							
	42 B 73 5.5 3							
	43 A 16			2.5				
	44 A 80			5	○			
	45 A 45.5			4.5	○			
	46 A 13.5			5.5				
	47 A 12			2				
	48 A 53.5			5	○			
	49 A 50			4.5	○			

A……杭(丸木・丸太杭を示す)

B……矢板

C……樺木・木器・流木

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)				樹皮	備 考
			長	幅	厚	径		
K-10 a	50 A		55.5			4	○	
	51 A		31			5	○	
	52 A		26			6	○	
	53 B		24	2.7	4.5		○	
	54 B		37	6.5	2.5			
	55 B		23	8	5		○	
	56 B		20	5.5	5		○	
	57 A		11.5			2	○	
	58 B		10.5	3.5	2			
	59 B		20	4	2.5		○	
	60 A		40			4		
	61 A		43			3.5	○	
	62 A		44			4.5	○	
	63 C		42.5	4	2.5		樺木(杭に付帶)	
	64 A		18			4.5	○	
	65 A		44.5			4.5		
	66 A		35			3		
	67 A		37.5			3.5	○	
	68 A		32			3.5		
	69 A		57			3		
	70 A		31			4	○	
	71 C						樺木	
	72 A		37			4	○	
	73 A		23			3		
	74 A		52			4.6		
	75 A		10			2	○	
	76 A		37			5	○	
	77 A		42			3.5		
	78 A		33			3.5		
	79 A		20.5			3.5	○	
	80 A		25.5			2.5		
	81 A		18			3.5		
	82 A		20			4.5		
	83 A		26			5	○	
	84 A		33			4.5	○	
	85 A		36			4	○	
	86 A		32			2.5	○	
	87 A		38			4		
	88 A		31			5		
	89 C		69			4	樺木	
	90 A		60			5		
	91 A		43			4		
	92 A		25			3		
	93 A		49			4.5		
	94 A		24			5		
	95 A		29			4		
	96 A		41			5.5	○	
	97 A		47			4	○	
	98 A		37			4.5	○	

Tab. 4 第12次調査地点出土抗・木器出土一覧-2

地 点	No.	法 量 (cm)				樹皮	備 考
		長	幅	厚	径		
K-10-a	99 A	32.5		5			
第12次 調査地点	100 A	37		3.5			
	101 A	42		5.5	○		
	102 A	36		5	○		
	103 A	28		4	○		
	104 A	45		4.5	○		
	105 A	43		4.5	○		
	106 A	42		4	○		
	107 A	46		3.5	○		
	108 A	45		6	○		
	109 A	38		4.5			
	110 A	34		4	○		
	111 A	26.5		4.5			
112 A	27			4			
113 A	31			3.5	○		
114 A	24			2.5			
115 A	22			4			
116 A	36			3			
117 B	12	5.5	3				
118 A	27			4.5	○		
119 A	60			4.5			
120 B	7	3	2.5				
121 A	49			4			
122 C	151			7.5	横木		
123 A	89			4	○		
124 A	27			4			
125 A	75			6			
126 A	79			6			
127 A	47			4.5			
128 A	27			3			
129 A	60			4	○		
130 A	31			5			
131 A	88			3.5			
132 A	17			3.5			
133 B	23	4	2.5				
134 A	21			4	○		
135 A	29			3.5			
136 A	59			5	○		
137 A	34			5.5			
138 A	21			3			
139 A	49			6			
140 B	11	4	2.5				
141 B	10	4.5	4				
142 A	22			4			
143 B	13	2	1				
144 A	66			5			
145 A	55			4.5			
146 B	10	4	3.5				
147 A	31			3.5			
K-10-a	148 A	18		3			
	149 A	28		4.5			
	150 A	40		4	○		
	151 A	62		2.5			
	152 A	26.5		5			
	153 A	71		5.5			
	154 C					横木	
	155 A	31		3.5			
	156 B	19.5	3	2.5			
	157 A	27.5		3.5			
	158 A	50		3.5			
	159 A	16		4			
	160 A	20		3.5			
	161 A	58		3.5			
	162 A	23		3.5			
横木	163 A	54		5			
	164 A	33		4			
	165 A	29		4			
	166 A	64		3.5			
	167 A	22		3			
	168 A	37		5			
	169 A	25		4.5			
	170 A	64		5			
	171 A	26		4			
	172 A	34		4.5			
	173 C	122		5	横木		
	174 A	26.5		4			
二又建葉材	175 A	34		5			
	176 A	60		4.5			
	177 A	50		3.5			
	178 A	16		3.5			
	179 A	68		5.5			
	180 A	14		5			
	181 A	35		5.5			
	182 A	47		6.5			
	183 B	25	7	2			
	184 A	27		5			
	185 A	56		4.5			
	186 C	157.5		11.4	○	二又建葉材	
柄をもつ建葉材	187 B	101	7	4.5			
	188 A	116		5.5			
	189 A	120		5.5			
	190 A	104		5			
	191 A	234		9		柄をもつ建葉材	
	192 A	109		6.5	○		
	193 A	100		4.5	○		
	194 C	204		12.6		穴あきとがり、二又の建葉材、横木	
	195 A	263		9			
	196 C	236		9		横木	

Tab. 5 第12次調査地点出土抗・木器出一覧—3

地 点	No.	法 尺 (cm)				樹皮	備 考
		杭の分類	長	幅	厚		
K-10 a 第12次 調査地点	197 C	150			11	樹木	
	198 A	229			6		
	199 B	28	4	3.5			
	200 A	112			5		
	201 A	92			5 ○		
	202 A	47			4 ○		
	203 A	62			4.5		
	205 A	37			4.5		
	205 A	46			5.5		
	206 A	57			6		
	207 A	25			4.5		
	208 A	19			3.5		
	209 A	48.5			4.5		
	210 A	23.5			3		
	211 A	53			3.5 ○		
	212 A	53			3		
	213 A	31			3		
	214	9	2	1.5			
	215 A	88			5.5 ○		
	216 C	146			4.4 樹木		
	217 A	49			5.5		
	218 C	127			7 ○ 樹木		
	219 C	124			4 ○ 樹木		
	220 C	61			4.5 樹木		
	221 B	23	4.5	4			
	222 C	183			14 樹木		
	223 B	68	7.5	3.2			
	224 B	70	8.5	5		先端折	
	225 B	86	5.5	6			
	226 A	96			5.5		
	227 A	120			6		
	228 A	97			3.5 ○		
	229 A	45			4		
	230 C	56	6.5	9		樹木	
	231 C	153			7.2 ○	健茎、帶状の材か? 又の木 樹木	
	232 A	67			5		
	233 C	72			6 樹木		
	234 C	40			3 樹木		
	235 C	81			3.5 樹木		
	236 C	71			2.5 樹木		
	237 C	56			5.5 樹木		
	238 C	60			3.5 樹木		
	239 C	91			4 樹木		
	240 C	66			3.5 樹木		
	241 C	114			3 樹木		
	242 A	60			2.5		
	243 B	101	9.2	5.6		頭部先端つぶれ	
	244 A	82.5			6.4 ○	先端折れ、頭部尖り神	
	245 A	36			4		

Tab. 6 第17次調査地点出土抗・木器出土一覧-1

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)				樹皮	備 考
			長	幅	厚	径		
J-11 d 第17次 調査地点	1 A	12		3.5				
	2 A	14		3.5	○			
	3 B	12.5	3.5	2.5				
	4 B	14	5.5		2.5			
	5 B	8	2	1				
	6 A	5.5		2				
	7 A	8		3				
	8 A	18.5		4	○			
	9 A	25		2.5	○			
	10 A	23		4.5				
	11 A	35		3.5	○			
	12 A	25		3.5				
	13 A	38		3.5	○			
	14 A	50		4	○			
	15 A	31.5		2.5	○			
	16 A	28		4.5	○			
	17 A	25.5		5.5	○			
	18 A	40		4.5	○			
	19 A	11		1.5				
	20 A	34		4				
	21 B	14	2.5	1.5				
	22 B	6.5	2	1				
	23 A	18.5		3.5				
	24 A	18		4	○			
	25 A	26		2.5	○			
	26 A	32.5		5.5	○			
	27 A	25		2	○			
	28 A	11		2.5	○			
	29 A	19		4.5				
	30 A	26		4	○			
	31 A	11		3				
	32 B	24	2.5	1.5	○			
	33 A	20		2	○			
	34 A	12		3				
	35 A	18		3				
	36 B	16	3	1.5				
	37 A	22		2	○			
	38 A	7.5	3	1.5				
	39 A	22		4	○			
	40 C	11.2	3.4	2.4				木器の柄を杭に転化
	41 B	10	2	2.3				
	42 A	16		2	○			
	43 A	24		3				
	44 A	14		3				
	45 A	72		5				
	46 A	86		4.5				
	47 A	77		6.5				
	48 B	9	2.5	2				
	49 A	89		4.5				

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)				樹皮	備 考
			長	幅	厚	径		
J-11 d	50 A	13				2		
	51 A	53				2.5		
	52 A	55.5				5		表面にやや横凹形を呈し両端 が尖る。
	53 A	71				4		
	54 A	45				2		
	55 A	12.5				2.5		
	56 A	21			2	○		
	57 A	14				2		
	58 A	33				3		
	59 B	33	7	1.5				
	60 A	11				2.5		
	61 A	49				2.5	○	
	62 A	32.5				4		
	63 A	43				3.5		
	64 A	13.5				2.5		
	65 A	48.5				5		
	66 A	44.3				3.9		頭部つぶれ
	67 A	19				2		
	68 A	30.5				3		
	69 A	34				3.5	○	
	70 A	37				2.5	○	
	71 C	19				2.5		楓木
	72 A	14.5				2		
	73 B	23.5	5	0.3				
	74 C	93				4		楓木
	75 A	17				2		
	76 C	63.2	18.8	12.4				梅子、二段残る
	77 A	132.5				7	○	
	78 A	100				9	○	
	79 A	46				5	○	
	80 A	61				5.5		
	81 A	74				4.5		
	82 C	35.4	5	1.8				三叉歛
	83 A	63				3	○	
	84 A	66				2		
	85 A	43				5		
	86 A	43.5				3.5		
	87 A	10.5				2		
	88 A	79				6		
	89 C	17.2	7.6	0.4				三叉、油木
	90 A	47				3		
	91 A	45				3		
	92 A	53				2.5		
	93 B	37	14.5	7.5				
	94 A	109.5				5		
	95 A	124				6		
	96 A	35				2.5		
	97 A	32				4		
	98 A	17.6				1.6		

Tab. 7 第17次調査地点出土抗・木器出土一覧—2

地 点	No.	抗の 分類	法 長	幅	厚	種	備 考	地 点	No.	抗の 分類	法 長	幅	厚	種	備 考	
J-11 d	99	A	13.5		2			J-11 d	148	A	52		3			
第17次 調査地点	100	A	28.5		4	○			149	A	60.5			3.5		
	101	A	11.2		3.5				150	C	103			5.5	横木	
	102	B	22	10	10				151	C	43	6	2		横木	
	103	A	35		2.5				152	A	38			6		
	104	A	8		2				153	B	9.5	4	2			
	105	A	44		4.5	○			154	B	30	4.5	2			
	106	B	25.5	5	3.5				155	A	82			2.5		
	107	A	20		2				156	A	125.5			2		
	108	A	30		2				157	A	78			2.5		
	109	B	32	4	3				158	A	137			2.5		
	110	B	10.4	4	2				159	B	7.5	2.5	1			
	111	A	16		4				160	A	127			3		
	112	A	23.2		4.5				161	B	74	3.5	1.5			
	113	A	27		4.7				162	A	62.5			2.5		
	114	A	16		1.7				163	B	112	4	2			
	115	A	23.5		4.3				164	A	11			3 ○		
	116	A	9		1.3				165	A	87			8		
	117	A	24		1.5				166	A	84			8		
	118	A	21.5		2.5				167	C	183.5			10	横木、先端が二又の杆	
	119	A	32		1.5				168	A	49			5 ○		
	120	C	22.8		3		横木		169	C	30	3.5	2		横木	
	121	A	50		4				170	A	119			6.5		
	122	A	33.5		4.5				171	A	79			6 ○		
	123	A	60		2.5				172	C	88			3.5	横木	
	124	A	69		4				173	B	12	3	1.5			
	125	A	62		3.5				174	B	24.5	6	2			
	126	C	216		6		横木		175	B	10.5	3	2.5			
	127	C	39	3	1.5		横木		176	A	29			4.5 ○		
	128	A	14		3				177	A	9.5			2		
	129	A	18		4.5				178	C	10.5			3	横木	
	130	C	45		4				179	C	146.5			2.5 ○	横木	
	131	H	12	2.5	1.5				180	C	95			3.5	横木	
	132	A	41		4.5				181	C	129			○	横木	
	133	A	8.5		2				182	C	24.5			3	横木	
	134	C	35		5		横木		183	B	17	6	3			
	135	A	41		4.5				184	B	27	6.5	4			
	136	C	32		7.8		横笄、納の部分折		185	B	28	6.5	5			
	137	A	37		3				186	A	73			2.5		
	138	A	16		1.5				187	A	99			4.5 ○		
	139	B	10	3	1.5				188	A	105			6		
	140	A	24		3				189	C	25	10	1		横、沈木、二又	
	141	B	19.5	3	2				190	A	78			4.5		
	142	A	35		3.5				191	A	27			4.5		
	143	B	14	4	2				192	A	163			7		
	144	A	17		1				193	B	36.5	4	3.5			
	145	B	17.5	4	1				194	B	30	6.5	5.5			
	146	A	17		3				195	A	49.5			6 ○		
	147	A	22		3.5				196	B	30	6	2.5			

Tab. 8 第17次調査地点出土坑・木器出土一覧—3

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)			樹皮	備 考
			長	幅	厚		
J-11d 第17次 調査地点	197	B	30	6	3		
	198	B	16	4	2		
	199	A	13		2.5		
	200	A	21.5		5.5		
	201	A	22.5		4		
	202	B	16.5	4.5	2.5		
	203	B	32	6	2.5		
	204	B	5	2.5	2		
	205	A	13.5		2.5		
	206	B	47	6.5	5		
	207	B	42.5	5.5	2.5	○	
	208	B	29.5	6	1.5		
	209	B	32	5.5	3.5		
	210	B	31	6	3		
	211	A	15.5		4.5		
	212	B	35.5	5	5		
	213	B	29	7	3.5		
	214	B	23	4.5	3		
	215	B	27.5	5.5	4		
	216	B	46	7	5.5		
	217	B	37.5	6	2		
	218	A	34		4		
	219	B	21	4.5	3		
	220	B	21	6.5	4		
	221	A	28.5		3.5		
	222	B	29	6	2.5		
	223	B	24.5	7.5	5.5		
	224	B	25.5	4	3.5		
	225	A	27		6		
	226	A	22		4.5	○	
	227	B	45.2	8	5	頭部折、先端部つぶれ	
	228	B	22	6	4		
	229	B	34	5.5	5		
	230	B	43.5	7.5	7		
	231	A	27.5		4		
	232	B	40	5.5	4		
	233	B	19	4	5		
	234	B	19	5	2		
	235	A	29		4		
	236	B	11	4	2.5		
	237	A	42		4.5		
	238	B	8.5	5	4		
	239	B	9	4	2		
	240	A	14		3.5		
	241	A	38.5		5.5		
	242	A	30		2		
	243	A	67		7		
	244	A	42		5		
	245	A	67		5		

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)			樹皮	備 考
			長	幅	厚		
J-11d	246	B	36.5	6	3.5		
	247	B	23.5	6	5		
	248	A	5		5.5		
	249	B	9	3.5	1.5		
	250	A	61		6.5		
	251	A	113		6		
	252	A	46.5		8.5		
	253	A	127.5		4		
	254	A	28		3.5		
	255	A	53.5		6.5		
	256	A	24.5		6		
	257	B	56.5	4.5	4.4		
	258	A	12		2.5		
	259	A	108.5		7		
	260	A	150		9		
	261	A	152		5.5		
	262	A	134		6.5		
	263	A	130		7		
	264	B	13.5	14	4.5		
	265	A	63		8		
	266	A	51		5		
	267	A	82.5	4			
	268	C	37.6	15	1.4	平歛	
	269	A	120		6		
	270	A	57		3.5		
	271	A	91		6		
	272	A	17.5		2.5		
	273	A	21		3		
	274	B	69	6.5	2		
	275	A	45.5		9		
	276	A	156		6		
	277	A	124		6		
	278	A	72		6		
	279	A	70		4.5		
	280	A	82.5		5		
	281	A	9.1		6		
	282	A	64		6		
	283	A	98		6.5		
	284	A	98		3.5		
	285	A	210		8		
	286	A	114		7		
	287	A	137.5		7.5	○	
	288	A	155		7.5		
	289	A	88		5		
	290	C	29.5		10.5	樅木	
	291	B	16	6	2.5		
	292	A	42.5		4		
	293	A	71		4.5		
	294	A	192		6.5		

Tab. 9 第17次調査地点出土杭・木器出土一覧—4

地點 No.	杭の分類	法量(cm)				備考
		長	幅	厚	径	
J-11 d 第17次 調査地点	295 A	79		6		
	296 C	193		9.5		横木
	297 A	73.5		5		
	298 A	102		5		
	299 A	71		4.5		
	300 A	141		5.5		
	301 A	36.5		4		
	302 A	61		4		
	303 A	200		5.5		
	304 A	159		11		
	305 A	161		7.5		
	306 A	106		5		
	307 A	123.5		4.5		
	308 A	97		8		
	309 A	65		6		
	310 A	187.5		6		
	311 A	24.8		6		
	312 C	25.5	1.5	1.5		三又の先端部か?
	313 A	171		9		
	314 A	215		10.5		
	315 B	60	7.5	4		
	316 B	70	6.5	4		
	317 B	77	7.5	4.5		
	318 C	184		7.4		柱
	319 C	134		8		
	320 C	108		14		
	321 A	37.5		3.5	○	
	322 A	88		3.5		
	323 C	108		5		横木(流木)
	324 C	103.5		4.5		横木(流木)
	325 A	135		5		
	326 A	89		5.5		
	327 A	102		6.5		
	328 A	80.5		5		
	329 A	53		6.5		
	330 A	34		4		
	331 A	72		10		
	332 A	52		4		
	333 A	91		5.5		
	334 A	56		5		
	335 A	106.5		6		
	336 A	140		6.5		
	337 A	93		4.5		
	338 A	120		5.5		
	339 A	130		5		
	340 C	20.5	3	1.5		三又
	341 C	120.5		4		横木
	342 A	22		4		
	343 C	19		3.5		
	344 A	22.5		4.5		
	345 A	30		4		
	346 A	42.5		5.5	○	
	347 A	164		4		

地點 No.	杭の分類	法量(cm)				備考
		長	幅	厚	径	
J-11 d	348 A	46			6	
	349 A	84			5	
	350 A	154			6.5	
	351 A	37			4	
	352 A	95.5			5	
	353 A	81			5	
	354 A	37			3	
	355 A	166			7	
	356 A	132			3.5	
	357 A	104			6	
	358 A	179.5			7 ○	
	359 A	17			4.5	
	360 A	143			5	
	361 A	73.5			5.5	
	362 C	29	8	26		二又無
	363 B	28	5	2		
	364 A	78			5	
	365 C	375			15	袖材か?
	366 A	184			9	
	367 A	145			3.5	
	368 A	125.5			3	
	369 B	25	5.5	4		
	370 A	212			6	
	371 A	191.5			6.5	
	372 A	51			3	
	373 A	38.5			3	
	374 B	7.5	6	1		
	375 A	91			6	
	376 A	77			5.5	
	377 A	64			5	
	378 A	86.5			5	
	379 A	154.5			10.5	
	380 A	185.5			7.5	
	381 A	91.5			4	頭部、先端つぶれ
	382 A	103.5			5	
	383 A	33.5			3	
	384 A	68			5.5	
	385 A	70			4.5	
	386 A	59			5	
	387 A	140			5	
	388 A	72			6.5 ○	
	389 C	28		6		逆刃材・側状結構に付くもの?
	390 A	40			4	
	391 A	85			5	
	392 A	94			3.5	
	393 A	61			5.5	
	394 A	117			5.5	
	395 A	90.5			8	
	396 A	110			5.5	
	397 A	173			4.5	
	398 A	122.5			5	
	399 A	75			4	
	400 C	26.6				三又

Tab.10 第17次調査地点出土坑・木器出土一覧—5

地 点	No.	法 量 (cm)				樹皮	備 考
		長	幅	厚	径		
J-11 d 第17次 調査地点	401 A	294		6.5			
	402 C	109		3.5			
	403 A	127		6			
	404 A	134.5		8			
	405 A	53		4.5			
	406 A	44		8			
	407 A	178		5			
	408 A	26.5		3.5			
	409 C	66.4		4		耐木?	
	410 A	28.5		3.5			
	411 A	27		6			
	412 A	84		7			
	413 C	34.2	4.8	1.4		一又、なすび形	
	414 A	34.5		4			
	415 A	44.5	4.5	2			
	416 C	240		11		網穴あり	
	417 C	148		6			
	418 A	89.5		5.5			
	419 A	134		6			
	420 A	172		6			
	421 A	93.5		5.5			
	422 A	194.5		5			
	423 A	124		7			
	424 A	137		6			
	425 A	64.5		4			
	426 C	119.5		5.5			
	427 A	188		6			
	428 A	127		6			
	429 A	55		5			
	430 A	52.5		2.5			
	431 A	158		7			
	432 A	81		4			
	433 A	164		5.5			
	434 A	233.5		5.5			
	435 A	230		8.5			
	436 A	68		10			
	437 A	123		7.5			
	438 A	237		6			
	439 A	206		7			
	440 A	247.5		6			
	441 A	198		8			
	442 A	278.5		10			
	443 B	38	6.5	4.5			
	444 A	165		4			
	445 A	144		5.5			
	446 C	176.5		12.5		柄あり	
	447 A	104		7			
	448 A	64		5.5			
	449 A	156.5		4.5			
	450 A	91		24			
	451 A	172		14			
	452 A	146		4.5			
	453 C	35.5	6.8	5.8		木綿	
J-11 d	地 点	法 量 (cm)				樹皮	備 考
		長	幅	厚	径		
	454 B	91	5.8	2		頭部つぶれ	
	455 B	96	5	3.5			
	456 B	10	7.5	1.5			
	457 A	55			4.5		
	458 A	48			4		
	459 A	65			6		
	460 C					二又	
	461 C					三又の先	
	462 A	149.5			14		
	463 A	116			4		
	464 A	57			4		
	465 A	61.5			4.5		
	466 A	169.5			5		
	467 A	153			6.6		
	468 A	127.5			4.5		
	469 A	105			6		
	470 A	102			4.5		
	471 C	59			7.5	横木	
	472 C					横木	
	473 C	167			9.5	○ 横木	
	474 A	74.5			4.5		
	475 C	107.5			11.5	横木	
	476 C	62			10	横木	
	477 A	163			4.5		
	478 C	202			8	横木	
	479 A	61			4.7	○	
	480 A	78.5			5.5		
	481 C	129			9	○ 横木	
	482 C	89.5			6	横木	
	483 C	105.5			10	横木	
	484 C	86.5			8.5	横木	
	485 C	178.2	11.2	8.4		五段の縦子、一本づくり	
	486 A	104.5			4.5		
	487 C	180.5			6	横木	
	488 C	126	6.5			○ 横木	
	489 C	84			7	横木	
	490 C	156.5			6.5	横木	
	491 C	96.5			5.5	横木	
	492 C					横木	
	493 C	156			6.8	網穴有、横状通縫の柱?	
	494 C				8	横木	
	495 C					横木	
	496 C	17	13.2	2.0	0.8	不明木器	
	497 C					横木	
	498 C					横木	
	499 C					横木	
	500 C	33.5	15.5	1.8		なすび形、二又歛	
	501 C	38.4	9.4	1.4		平歛	
	502 C					横木	
	503 C					横木	
	504 C					横木	
	505 B	48.5	8	3.5		頭部折	

Tab.11 第19次調査地点出土杭・木器出土一覧—1

地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)	樹皮	備 考	地 点	No.	杭の分類	法 量 (cm)	樹皮	備 考
J-11e 第19次 調査地点	1 C	32	2.3	1	三又	J-11e	51 C	53		6	櫛木
	2 A	114		3			55 C	42		6	櫛木
	3 A	213		5.5			56 C	46		4.5	櫛木
	4 C	263		5	横木		57 C	57.5		4	横加工
	5 A	43		5.5	杭		58 C	60		3.5	櫛木
	6 A	43.5		9.5	杭		59 B	42	4.5	2.5	
	7 C	18		3.5	加工材、横木		60 B	50	7.5	4	
	8 A	79		6			61 C	47		4	横木
	9 A	53		3.5			62 C	34		4.5	横木
	10 A	57		6			63 C	35		3	櫛木
	11 A	109		6.5	先割れ		64 C	39		5	横木
	12 B	110	6.5	4			65 C	45		4	横木
	13 A	36	5	3	欠板		66 C	40		5.5	横木
	14 B	26	4	2.5	杭		67 B	17.5	5	1.5	
	15 B	21.5	3.5	3			68 C	40		5	櫛木
	16 C	22		4	横木		69 C	8		3.5	横木
	17 C	17		4	横木		70 B	20	4.5	2.5	
	18 C	12		3	横木		71 C	47		4	横木
	19 A	22		4.5			72 C	45		4.5	横木
	20 C	16		5	横木		73 C	185		4.5	横木
	21 B	32	6	2	矢板		74 C	36		4	横木
	22 A	16		2			75 C	9		2.5	横木
	23 C	13		2.5	横木		76 C	57		6	横木
	24 C	24		4.5	横木		77 A	56		5.5	
	25 C	66	36.5		板? 横		78 A	12		3	
	26 C	46	3.5	2	二又の先		79 C	52		4	横木
	27 C	17		2	横木		80 A	45		6	
	28 C	19		4	横木		81 A	70		4	
	29 C	33.5		6	横木		82 B	13.5	2.5	1.5	
	30 B	46	5.5	3			83 C	54		4.5	横木
	31 C	61	14	1	横加工品		84 C	62		5	横木
	32 C				横木		85 A	34		4.5	
	33 C	50	5	4	横木		86 A	59		5	
	34 A	67		4			87 A	13.5		2.5	
	35 A	53		4.5			88 A	62		5	
	36 A	89		5.5			89 A	50		4.5	
	37 C	50		3.5	横木		90 C	53		4.5	横木
	38 C				横木		91 A	54		5.5	
	39 A	62		4			92 A	66		4	
	40 B	40	5	3			93 A	55		5	
	41 B	28	3.5	3			94 A	52		4	
	42 C	18		6.5	横木		95 A	58		7	
	43 C				横木		96 A	40		4.5	
	44 A	29		6.5			97 A	59		5	
	45 C	81		5	横木		98 C	44		4	横木
	46 C	32		2.5	横木		99 C	59		3.5	横木
	47 C	19		2.5	横木		100 A	42.5		3	
	48 C	26		3.5	横木		101 A	44		6	
	49 C	44		3.5	横木		102 A	48		4.5	
	50 C	45		5	横木		103 A	37		4.5	
	51 C	41.5		4.5	横木		104 A	50		3.5	
	52 C	54		4.5	横木		105 A	33		4.5	
	53 C	50		4.5	横木		106 A	51		4	

Tab.12 第19次調査地点出土抗・木器出土一覧—2

地 点	No.	抗の分類	法 長	幅	厚	側皮	備 考
J-11 e 第19次 調査地点	107	A	39		5		
	108	A	47		3.5		
	109	A	30		3.5		
	110	A	44		4		
	111	A	28		4.5		
	112	A	26		4		
	113	A	15		2.5		
	114	A	36		4.5		
	115	C	17.5		3	横木	
	116	A	29		7		
	117	C	27		5.5	横木	
	118	A	31		5		
	119	A	50		3.5		
	120	A	44		5		
	121	A	32		5		
	122	A	39		4		
	123	C	22		2.5	横木	
	124	A	14		3		
	125	A	28		4		
	126	B	39	3.5	2.5		
	127	B	27	6	5		
	128	B	95	7	5		
	129	B	46	6	4		
	130	B	65	5	3		
	131	A	48		5.5		
	132	A	63		4.5		
	133	A	37		5		
	134	A	33		2.5		
	135	C	105		5	横木	
	136	A	33		4.5		
	137	B	31	6	3		
	138	A	45		5		
	139	C	51		4	横木	
	140	A	39		5.5		
	141	A	28		3.5		
	142	C	22.5		3.5	横木	
	143	C	17		4	横木	
	144	A	39	7	3.5		
	145	A	20		3.5		
	146	B	65	7.5	4		
	147	B	36	8	4		
	148	B	3.5	6	5		
	149	C	14		4.5	横木	
	150	B	24	4.5	3.5		
	151	A	28		5		
	152	A	27		4.5		
	153	A	21	4	2.5		
	154	A	18.5		4		
	155	C	21		3	横木	
	156	A	15		6		
	157	C	5.5		3	横木	
	158	A	15	3.5	2		
	159	C	7.5		3	横木	

地 点	No.	抗の分類	法 長	幅	厚	側皮	備 考
J-11 e	160	C	6.5		2		横木
	161	B	24.5	5.5	1		
	162	A	8		2.5		
	163	B	13	3	2.5		
	164	A	15		3		
	165	A	9		2.5		
	166	A	8		2.5		
	167	A	84		5.5		
	168	A	86		5.5		
	169	A	87		5.5		
	170	A	82		6		
	171	A	60		6		
	172	A	14		2.5		
	173	A	44		5		
	174	A	37		4.5		
	175	A	53		6		
	176	A	33		7		
	177	A	22		3		
	178	A	70		5.5		
	179	B	53	9	5.5		
	180	A	41		5		
	181	A	65		6.5		
	182	B	62	11	7.5		
	183	A	55.5		5		
	184	C	36		6	横木	
	185	A	34		4.5		
	186	A	59		3.5		
	187	A	43		5		
	188	A	52		4		
	189	A	69		5.5		
	190	A	46		5		
	191	A	24		3.5		
	192	A	29		4		
	193	A	43		4.5		
	194	A	46		3		
	195	A	46		4		
	196	A	37		4		
	197	A	42		4.5		
	198	A	57		5.5		
	199	C	28		5.5	横木	
	200	C	53		6	横木	
	201	A	28		2.5		
	202	A	49		6		
	203	A	80		6		
	204	A	29		5		
	205	A	27		3.5		
	206	A	48		4		
	207	A	43		4		
	208	A	44		4.5		
	209	A	37		4		
	210	A	49		4.5		
	211	A	35		3.5		
	212	A	44		3.5		

Tab.13 第19次調査地点出上抗・木器出土一覧—3

地 点	No	杭の分類	法	長	幅	厚	深	樹皮	備 考
J - 11 e	213	A	48			6			
第19次 調査地点	214	A	66			5			
	215	A	45			5			
	216	A	33.5			3.5			
	217	C	23			2.5		樹木	
	218	A	33			3			
	219	A	57	10		3.5			
	220	A	30			4.5			
	221	B	60	5	2.5				
	222	B	39	6	1				
	223	B	81	6	1				
	224	A	40			4			
	225	C	39	4	2.5			樹木	
	226	A	52	6	4.5				
	227	A	25			3			
	228	B	76	5	3				
	229	C	76			10		樹木	
	230	A	55	6	3				
	231	A	27			4.5			
	232	A	26			3			
	233	A	32			4			
	234	A	51			4			
	235	A	47			4			
	236	C	27	3	2.5			樹木	
	237	A	26			6.5			
	238	A	14			2.5			
	239	A	13			5.5			
	240	C	8.5			4		樹木	
	241	B	22	5.5	1				
	242	A	12			3			
	243	A	67			3.5			
	244	A	24			3.5			
	245	A	21			4			
	246	A	21			3.5			
	247	A	30			4			
	248	C	26			4		樹木	
	249	B	53	6	3				
	250	B	30	4	2				
	251	B	19	4	2				
	252	C	38			3.5		樹木	
	253	C	60			4		樹木	
	254	C	31	3	3			樹木	
	255	A	32	5.5	2.5				
	256	C	19			5		樹木	
	257	B	16.5	3.5	3				
	258	B	30	6	5				
	259	A	20			4			
	260	A	21.5			3.5			
	261	B	64	9	5.5				
	262	A	26			5			
	263	C	33			4.5		樹木	
	264	B	33	9	4.5				
	265	B	16.5	3.5	1.5				

地 点	No	杭の分類	法	長	幅	厚	桿	樹皮	備 考
J - 11 e	266	B	25		7.5	3			
	267	C	20				4		樹木
	268	A	22				4		
	269	C	11				3.5		樹木
	270	A	36.5	9	3.5				
	271	A	60			6			
	272	A	15			3.5			
	273	A	14.5			4			
	274	A	34.5			4			
	275	A	30				5.5		
	276	A	19				2.5		
	277	A	24				5		
	278	B	23	7	4				
	279	C	14				4		
	280	B	30	5	4				
	281	C	23.5				5.5		
	282	A	18				3.5		
	283	C	100				5.5		樹木
	284	C	92	4	3.5				樹木
	285	C	56				4.5		樹木
	286	C	30	5	4				樹木
	287	C	23				3.5		樹木
	288	A	29				4		
	289	A	46				3.5		
	290	B	31	6	2				
	291	B	43	7	2				
	292	B	24	6	4.5				
	293	B	50	8	5.5				
	294	A	62			3			
	295	A	29				3.5		
	296	C	94	4	3.5				樹木
	297	C	40	3	1.5				樹木
	298	A	35				7		
	299	C	21	6	1.5				樹木
	300	C	10				3.5		樹木
	301	A	25				3.5		
	302	A	40				5		
	303	A	28				3.5		
	304	A	25				3.5		
	305	C	27				4.5		樹木
	316	A	49				4.5		
	307	A	37				3.5		
	308	A	53				5		
	309	A	55				5		
	310	B	62	7	3.5				
	311	B	30			5.5	3		
	312	B	42			5.5	4		
	313	B	70			4.5	3.5		
	314	B	24.5	6	2				
	315	B	117			6.5	2.5		
	316	B	75	4	3.5				
	317	B	90	6	3.5				
	318	B	76	7	5				

Tab.14 第19次調査地点出土抗・木器出土一覧-4

地 点	No.	法 量 (cm)				樹皮	備 考
		長	幅	厚	径		
J-11 e 第19次 調査地点	319	A	59		6		
	320	B	78	5	3.5		
	321	B	82	7	5		
	322	B	31	3.5	2.5		
	323	B	27	5	2		
	324	B	44	10	4		
	325	A	30		4		
	326	B	65	9	2.5		
	327	C	44		3.5	横木	
	328	B	54	5.5	4		
	329	A	68		5		
	330	B	50	10	4.5		
	331	B	92	4	3		
	332	B	50	9.5	3.5		
	333	B	54	8	3		
	334	A	35		3.5		
	335	B	15	8.5	4		
	336	B	37	8	1.5		
	337	A	32		2		
	338	A	31		3.5		
	339	A	31		4		
	340	A	45		5		
	341	A	51		7		
	342	A	34		4		
	343	A	45		4		
	344	A	30		4.5		
	345	A	42		4		
	346	A	25		3		
	347	A	34		5.5		
	348	A	57		6		
	349	A	47		7		
	350	A	40		6		
	351	A	62		6		
	352	C	52		5	横木	
	353	A	23		4		
	354	A	66		4		
	355	A	32		4		
	356	A	58		4		
	357	A	17		2		
	358	B	16	4.5	2.5		
	359	C	36		5	横木	
	360	A	39	6	3		
	361	A	39	3	3		
	362	A	47	4	3.5		
	363	A	64	7	3.5		
	364	A	66	10	4		
	365	A	58	6	3.5		
	366	A	54	6	2		
	367	A	72	5	4		
	368	A	47	4.5	2		
	369	A	50	9	5		
	370	A	59	3.5	3		
	371	A	42	6	1.2		
J-11 e	372	B	75.5	4	4		
	373	B	109	7	5.5		
	374	A	68			5.5	
	375	A	59			5.5	
	376	A	43.5			5	
	377	A	13			2.5	
	378	A	16			4.5	
	379	A	47			3.5	
	380	A	22			5.5	
	381	A	54			4	
	382	A	33			2	
	383	A	50			4.5	
	384	A	48.5			3.5	
	385	A	50			4	
	386	A	15			2	
	387	A	40			3	
	388	A	27			4.5	
	389	B	31	4	3.5		
	390	B	28	7	4		
	391	A	38			3.5	
	392	B	14	4.5	3		
	393	A	24			3.5	
	394	A	30			4	
	395	B	28	4.5	3		
	396	A	26			2.5	
	397	B	27	6	5		
	398	B	8.5	6	3		
	399	B	26	43	2.5		
	400	A	38			3	
	401	B	25	7	2.5		
	402	B	50	7	5.5		
	403	B	24	4.5	1		
	404	A	42			4	
	405	A	39			4	
	406	B	46	5.5	4		
	407	A	47			3.5	
	408	A	28			3.5	
	409	B	13	4	1.5		
	410	A	44			4	
	411	B	37	8.5	3		
	412	B	48	6	3.5		
	413	B	35	8	3		
	414	B	32	6	4		
	415	B	19	7	1.5		
	416	B	12	5	3		
	417	A	43			5	
	418	A	63			6	
	419	A	49			6.5	
	420	A	37			4	
	421	A	42			8	
	422	A	28			4	
	423	C	38	7	4		横木
	424	A	45			4	

Tab.15 第19次調査地点出土抗・木器出土一覧—5

地 点	No.	杭の分類	法 長	幅	厚	径	樹皮	備 考
			(cm)					
J-11e	425	A	36			5		
第19次 調査地点	426	C	16		6		横木	
	427	C	18		2		横木	
	428	C	364		6		横木	
	429	B	103	6	4.5			
	430	B	106	6.5	2.5			
	431	C	306		10		横木	
	432	C	216		10		横木	
	433	A	27		4			
	434	B	36	3.5	1.5			
	435	A	80			3.5		
	436	B	91	3.5	2			
	437	A	65		3			
	438	B	56	8.5	4			
	439	A	39	4	2.5			
	440	C	45			3.5	横木	
	441	A	37			3.5		
	442	A	86		4			
	443	A	79		2			
	444	A	48		3			
	445	A	36		5			
	446	C	68		4		横木	
	447	A	40	3	2			
	448	A	42	3	2			
	449	A	91	11.5	2			
	450	A	56	10	3			
	451	A	104	8	4			
	452	A	117	4	3.5			
	453	A	100	6	5.5			
	454	A	65	6	3.5			
	455	C					横木	
	456	A	66		5			
	457	A	54		4			
	458	A	53		3			
	459	A	74		5			
	460	A	71		3.5			
	461	A	69		3.5			
	462	C	143		6		横木	
	463	B	108	9.5	5			
	464	B	106	9	3.5			
	465	B	109	11	4.5			
	466	B	102	10	3			
	467	B	98	6	3.5			
	468	A	89		5			
	469	A	84		4			
	470	A	85		3			
	471	C	78		4.5		横木	
	472	A	77		5			
	473	A	117		4.5			
	474	A	102		3			
	475	B	103	4.5	4			
	476	C	250		8		横木	
	477	C					横木	

地 点	No.	杭の分類	法 長	幅	厚	径	樹皮	備 考
J-11e	478	C					横木	
	479	C					横木	
	480	C					横木	
	481	B	121	6.5	5			
	482	B	52.5	5	3			
	483	B	70	5	3.5			
	484	B	78	3.5	3			
	485	B	81	6	5.5			
	486	C	54	6	3		横木	
	487	B	76	4	2			
	488	B	23	8	5			
	489	A	40				3.5	
	490	A	50				3.5	
	491	B	63	5	4			
	492	B	64	6	2.5			
	493	A	61			4		
	494	A	48			4		
	495	B	37	6	3			
	496	A	49			5		
	497	B	32	8	6			
	498	B	60	8	5			
	499	B	73	10.5	2.5			
	500	A	75			5		
	501	B	81	6.5	2			
	502	B	83	5	3			
	503	C	95				3.5	横木
	504	C					横木	
	505	C					横木	
	506	C					横木	
	507	C					横木	
	508	C					横木	
	509	C					横木	
	510	C	80				8.5	二叉
	511	C	201	11.4	9			横木(梯子)
	512	C	86			9		横木
	513	C	109			5		横木
	514	C	126			4		横木
	515	C	134.5				6.5	横木
	516	A	26				6	
	517	A	16				5.5	
	518	A	18				3	
	519	A	32				9	
	520	C	34	3	1			横木
	521	C	36	5	1			横木加工材
	522	A	55				5	
	523	A	65				8.5	
	524	C	155				7	横木
	525	C	122				8	横木
	526	A	31				6	
	527	C	52				8.5	横木、継件
	528	C	87	14	8			横木
	529	C	96	12	2.5			横木
	530	C	79	9.5	2			横木

Tab.16 第19次調査地点出土抗・木器出土一覧—6

地 点	No.	法 量 (cm)				樹皮	備 考
		長	幅	厚	径		
J-11 e 第19次 調査地点	531	B	62	8	3		
	532	A	88		5.5		
	533	A	81		5		
	534	C	59	7		楓木	
	535	A	91		5		
	536	C	99		7.5	楓木	
	537	C	28	5	2	楓木加工材	
	538	C	26		6	楓木	
	539	C	105		5.5	楓木	
	540	C	110		6.5	楓木	
	541	C	22		5	楓木	
	542	A	25		3.5		
	543	A	23.5	4	2.5		
	544	C	64		7	楓木	
	545	A	28		3.5		
	546	A	70	7.5	6		
	547	C	102		9	楓木	
	548	A	73		5		
	549	C	84		4	楓木	
	550	A	37.5		4		
	551	A	81		9		
	552	A	52		3.5		
	553	C	143		5	楓木	
	554	C	125		6	楓木	
	555	C	124		6	楓木	
	556	C	75	4	2	楓木	
	557	C	104		7	楓木	
	558	C	48		5	楓木	
	559	A	68		4		
	560	C	160		5.5	楓木	
	561	C	140		4	楓木	
	562	C	53		5	楓木	
	563	C	79	9.5	8.5	加工材(梯子)	
	564	C	56	7	4	楓木	
	565	A	73		5.5		
	566	A	126		8		
	567	A	133		6.5		
	568	A	52		3.5		
	569	C	109		8	楓木	
	570	C	122.5		8	楓木	
	571	A	34		5		
	572	C	150		5.5	楓木	
	573	C	82		6.5	楓木	
	574	A	81		6		
	575	C	28	4	2.5	楓木	
	576	A	15	4.5	2		
	577	A	77		4.5		
	578	A	114		4.5		
	579	C	90		5	楓木	
	580	C	71		3	楓木	
	581	A	67		3.5		
	582	A	41		2.5		
	583	C	84		7	楓木	
J-11 e	584	A	66.5		4		
	585	C	47.5	15	1.5		三叉
	586	A	87.5		4		
	587	C	104		6		楓木
	588	C	116		6		楓木
	589	A	36		2.5		
	590	C	54		3.5		楓木
	591	A	158		5.5		
	592	A	139		8		皮フキ
	593	C	213		5		楓木
	594	C	139		5		楓木
	595	C	38		3		楓木
	596	A	96		5		
	597	A	132		6.5		
	598	A	103		4		
	599	A	172		7		
	600	A	62		3		
	601	A	122		5.5		
	602	A	64		3		
	603	C	148		4.5		楓木
	604	C	120		5		楓木
	605	A	44		3		
	606	C	120		7.5		楓木
	607	A	114		4		
	608	C	146		6.5		楓木
	609	A	73		4		
	610	A	44		4.5		
	611	C	129		4.5		楓木
	613	A	40		3.5		
	614	C	28.2		14		楓木
	615	C	170		6		楓木
	616	A	47		6.5		
	617	C	196	3.6	3		楓木
	618	A	104		4		先剥れ
	619	A	29		6		
	620	A	50		2.5		
	621	C	154		6		楓木
	622	A	36		3.5		
	623	A	116		4		
	624	A	89		6		
	625	A	83		3		
	626	C	79		1.5		楓木
	627	C	45		7		楓木
	628	A	91		5		
	629	A	53		306		土瘤図であり
	630	A	39		6		土瘤図にあり

写 真 図 版



第12次 調査区全景（西から）



杭例検出状態（北から）



柵状遺構検出全貌（北から）



柵状遺構と杭列の検出全貌（東から）



杭列造構検出状態（北から）



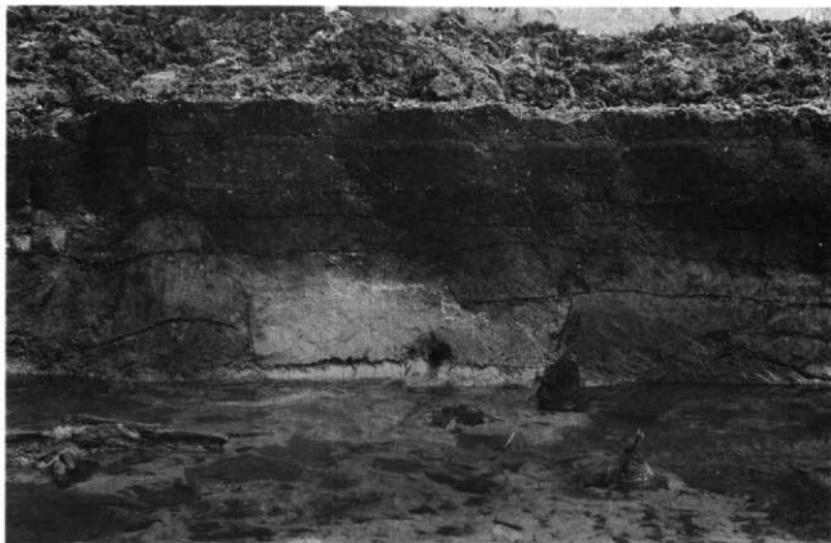
樋状造構近景（東から）



杭列と流木近景（東から）



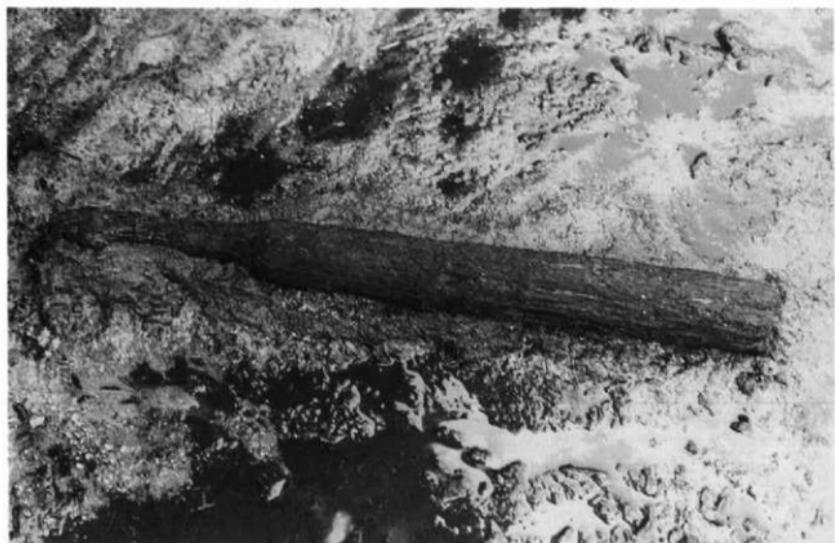
杭列と横木近景（北から）



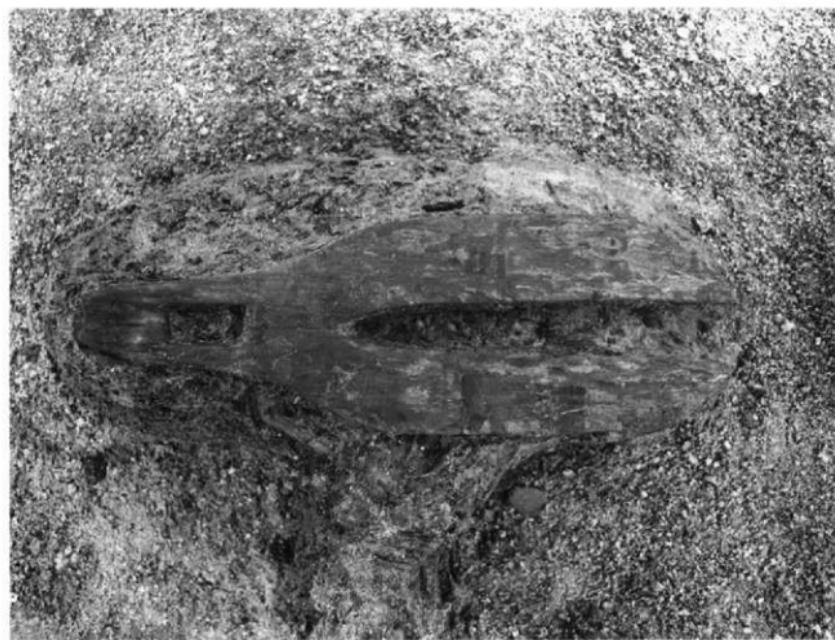
土層断面と杭列（北から）



土層断面（西から）



木器出土狀態



二叉鍬出土狀態



第17次 調査区全景（東から）



第17次調査木製出土状態（西から）



壠状遺構近景（北から）



杭列と壠状遺構検出近景（西から）



堰状遺構検出近景（北から）



杭検出状態（南から）



南壁土層断面（北から）



西壁土層断面（東から）



堆状遺構と流木（東から）



堆状遺構検出状態（南から）



壠状造構と横木（東から）



南西隅杭検出状態（東から）



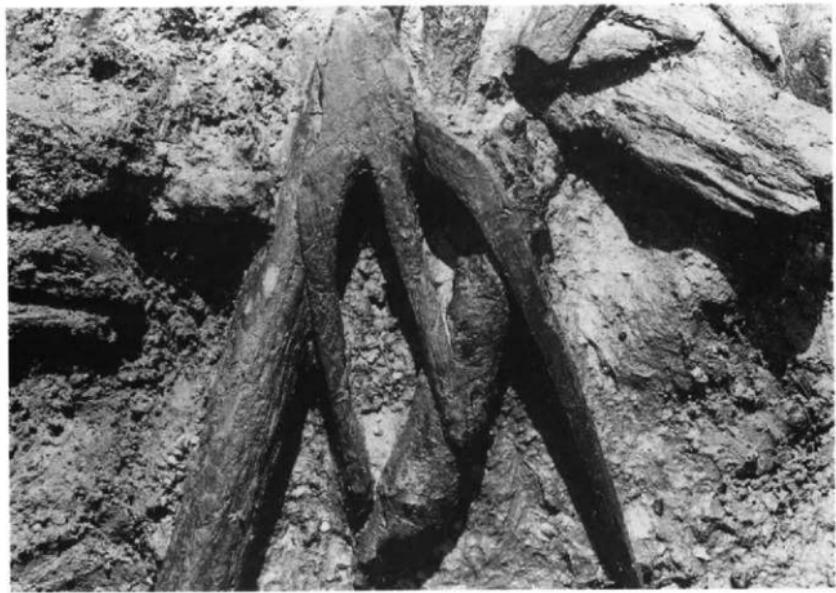
堰状造構と杭列（南から）



枘穴のある又木



納穴のある又木



三叉根検出状態



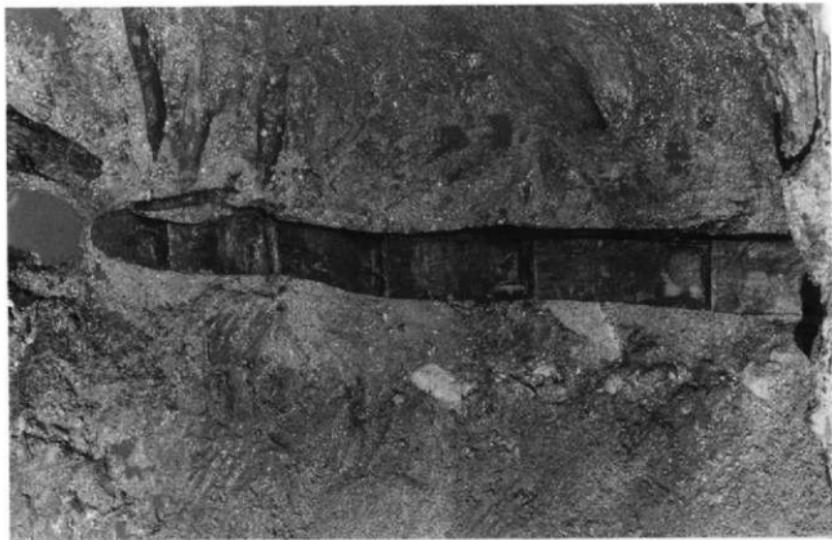
二叉鉛検出状態



梯子検出状態



先端部加工材検出状態



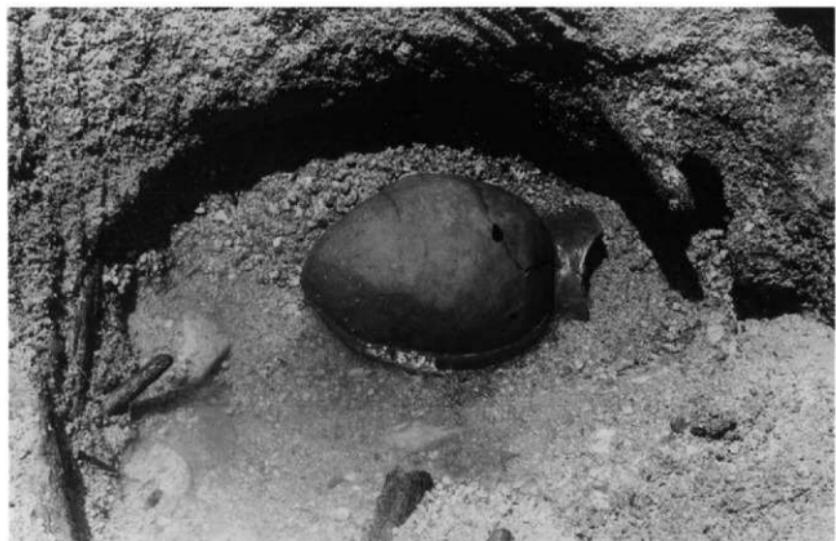
梯子検出状態（完形品）



平鍬と稲束出土状態



縦杵出土状態



砂層より出土した土器



横木の間にある土器



第19次 調査区全景（西から）



杭列と A 流路全景（南東から）



調査区全景（東から）



杭列と第6堰状遺構検出状態（北から）



第6 壁状造構検出近景（南から）



第6 壁状造構と流水路検出近景（南から）



杭列と横木検出状態（南西から）



石組遺構と杭列（南西から）



石組造構と杭列（南から）



石組造構と流木 (南から)



A流路 0列の杭例と第6堰状造構 (北西から)



第6 塚状造構全景（北から）



Q列抗列造構全景（南西から）



第6 堀状造構の横木と杭列（東から）



杭列と横木の組合せ（南から）



第7 墳状遺構全景（西から）



第7 墳状遺構近景（東から）



南壁土層断面（北から）



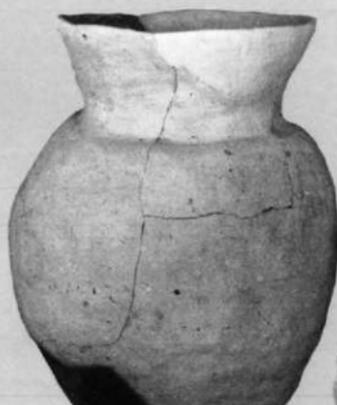
西壁土層断面（東から）



建築材出土状態（北東から）



砂層より出土した土器



78490001 (Fig. 20-1)



80150003 (Fig. 20-4)



78490002 (Fig. 20-6)



78130004 (Fig. 21-13)



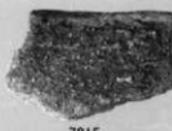
78130002 (Fig. 21-10)



7815



7815



7815



7815



7815



7815

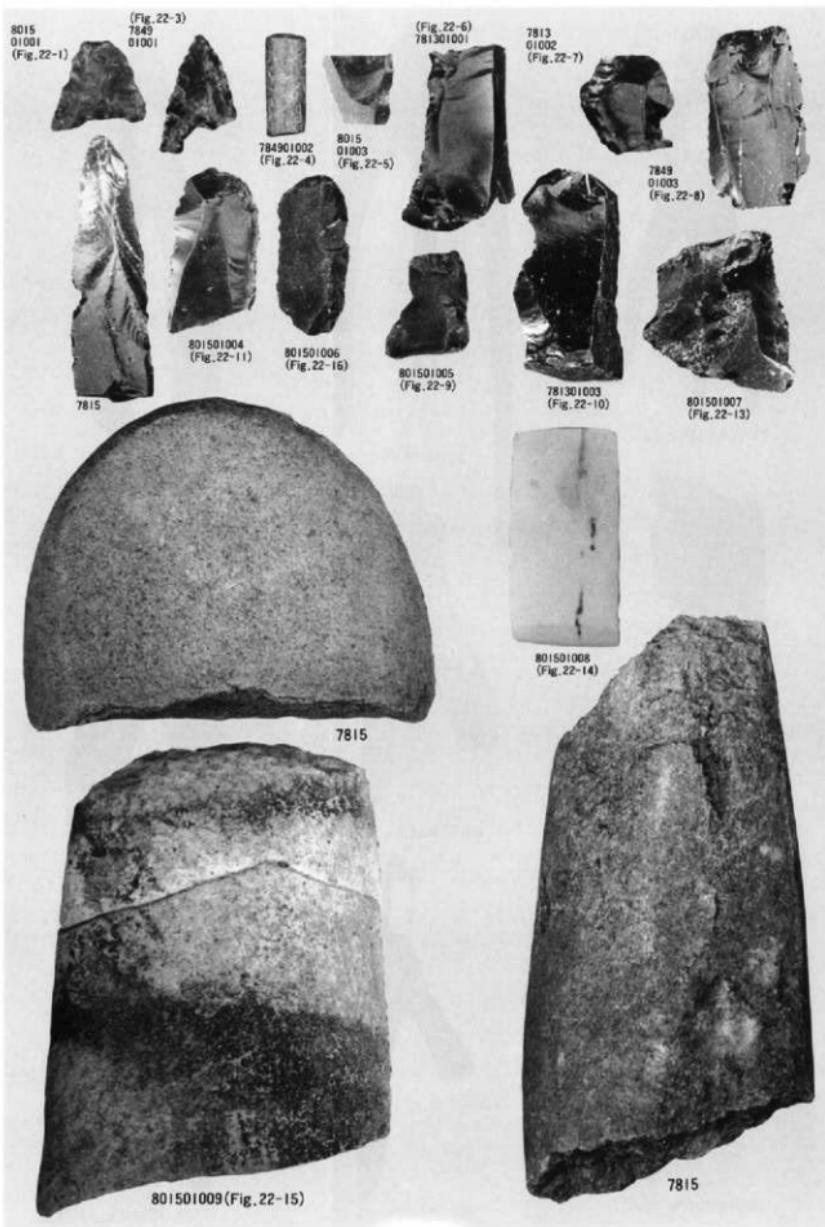


7815



7815

出土土器





781305001 (Fig. 23-1)



801503004 (Fig. 24-9)



781305002 (Fig. 24-10)



784910016 (Fig. 25-15)



801503003 (Fig. 23-4)



784910011 (Fig. 25-11)



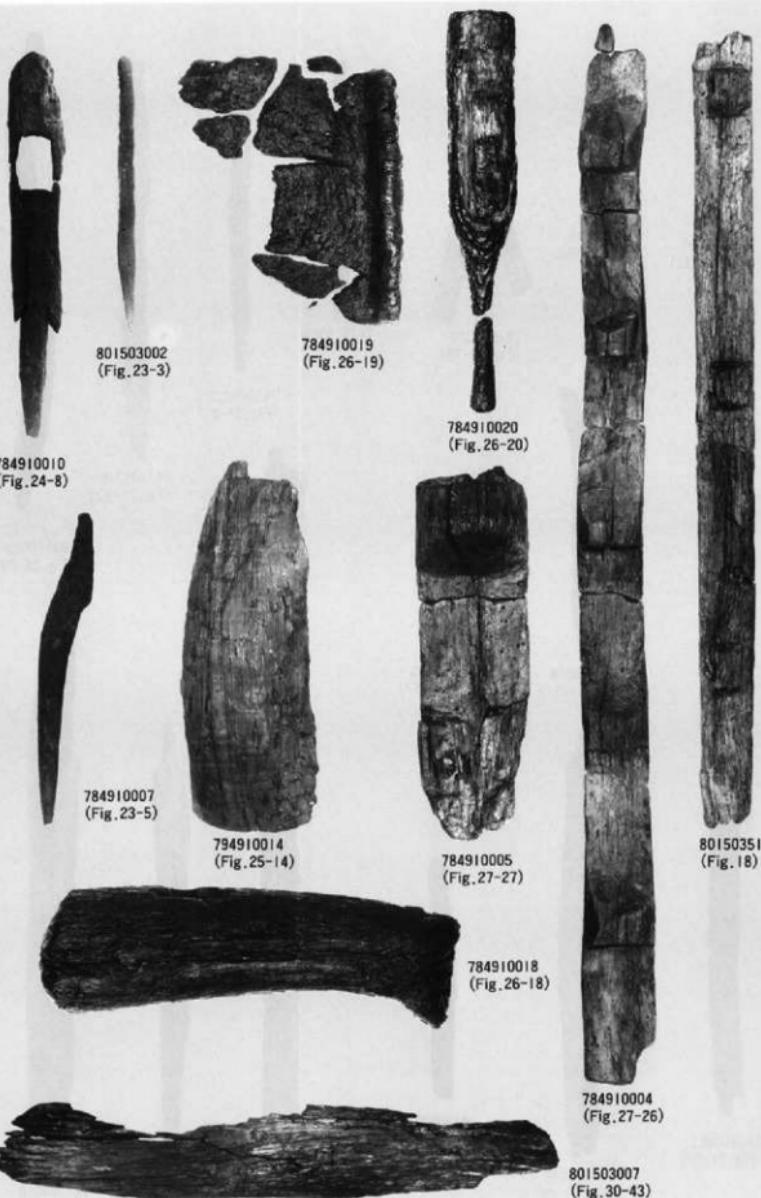
784910009 (Fig. 23-6)



784910012 (Fig. 25-12)



784910008 (Fig. 23-7)





78491003
(Fig. 28-32)



784910034
(Fig. 33-66)



784910025
(Fig. 29-36)



784910366



781305012
(Fig. 31-47)



781305015
(Fig. 31-52)



784910022
(Fig. 28-28)



781305014
(Fig. 31-51)



784910001
(Fig. 27-22)



784910030
(Fig. 32-57)



784910027
(Fig. 30-41)

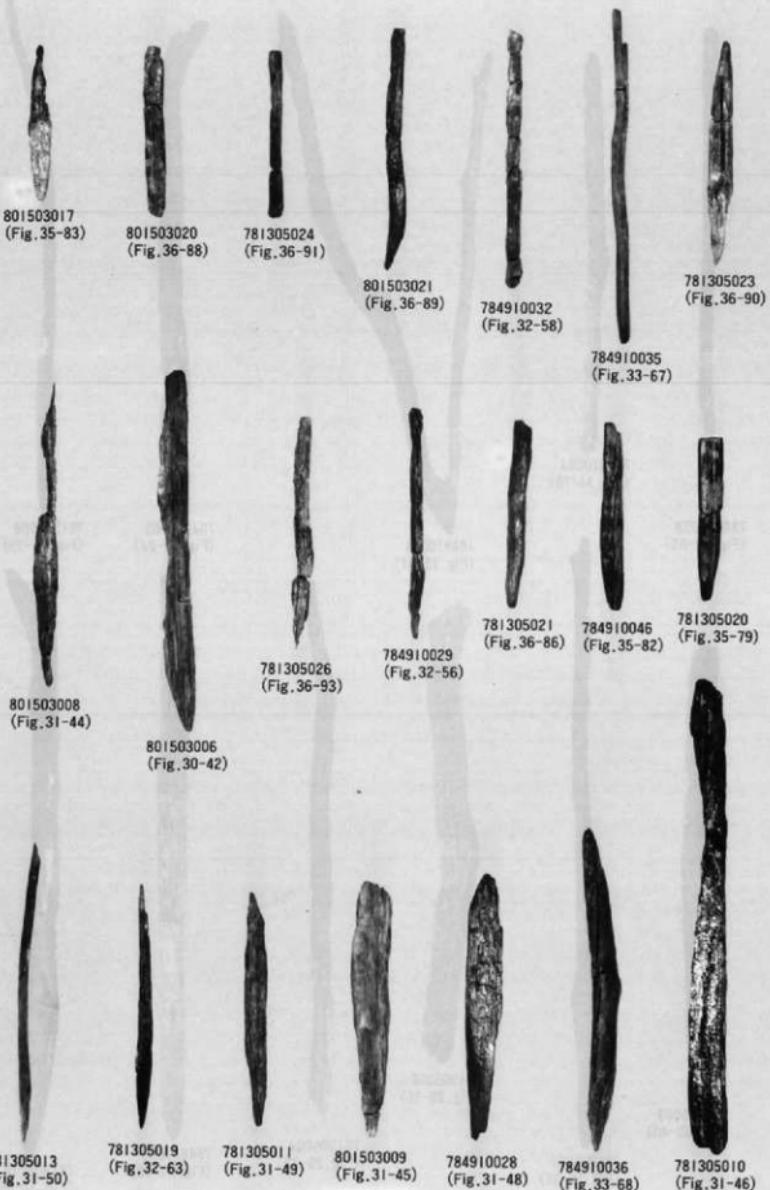


781305017
(Fig. 31-54)



781305016
(Fig. 31-53)





福岡市早良区
四箇周辺遺跡群
(6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第428集

1995年(平成7年)3月31日

発行 福岡市教育委員会
印刷 株式会社 川島弘文社

